

令和 2 年度
建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に
関する検討委員会
報告書

令和 3 年 3 月

建設業労働災害防止協会

はじめに

本報告書は、令和 2 年度に設置した「建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会」において検討した事項をとりまとめたものです。

本年度の委員会では、平成 30 年度及び令和元年度のヒヤリハット実態調査結果を踏まえ、新たな災害防止対策として、「新ヒヤリハット報告」及び活用マニュアル案の作成を進めるとともに、ワーク・エンゲイジメント尺度を盛り込んだ無記名ストレスチェックを建設工事現場において実施し、働き方改革等、社会変化に対応した標準値を改定し、併せて当該標準値と関連づけられたワーク・エンゲイジメント指標を作成しました。

まず「新ヒヤリハット報告」については、令和元年度委員会での検討により作成された報告様式を用いて、4 つの建設工事現場で延べ 385 人に対して試行実施を行い、様式の構成、集計方法、結果の活用方法等、現場で簡易に導入できる手法を検討し、マニュアル案を作成しました。

また、今年度、建設労務安全研究会（本多敦郎理事長）の協力を得て実施した「建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値改定のための実態調査」では、平成 28 年に策定した標準値を 4 年振りに改定するため、約 10000 人を対象とした現場調査を行いました。この結果は渡辺和広委員によって集計分析され、平成 28 年と比べて、心理社会的ストレス要因のうち「職場の支援」についてはほぼ変わりがない一方で、「仕事の要求度」「仕事のコントロール」という働き方改革に関連する要因の平均値が低減したことがわかりました。

この集計分析結果を踏まえ、渡辺和広委員により令和 2 年度版仕事のストレス判定図が作成されるとともに、今年度調査で新たに設定したワーク・エンゲイジメント（WE）尺度を盛り込んだ「職業性ストレス簡易調査票（簡易版 23 項目＋WE 3 項目）」を確定することができました。

このように、今年度の検討では、本委員会設置から 5 年間の調査研究の集大成として「新ヒヤリハット報告」をまとめた一方で、無記名ストレスチェックの標準値を改定する等、時流に即したメンタルヘルス対策を現場で持続的に実施するための成果物を作成することができました。

この研究が建設工事現場の安全衛生活動の一層の推進に寄与するものとなることを期待します。

最後に、櫻井治彦委員長をはじめ、各委員及びオブザーバーの皆様には多大なご尽力をいただき、心より感謝申し上げますとともに、渡辺和広委員には、本年度の調査に関する統計学的分析のとりまとめと建設工事現場版仕事のストレス判定図の作成をいただいたことに深謝申し上げます。

さらに、本年度の調査にご協力いただいた建設労務安全研究会の会員の皆様に対しても、重ねて感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

建設業労働災害防止協会

令和２年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会 委員名簿

○櫻井 治彦 慶應義塾大学 医学部 名誉教授
小山 文彦 東邦大学医療センター佐倉病院
産業精神保健・職場復帰支援センター長・教授 精神科医
藤川 久昭 クラウンズ法律事務所 弁護士
鳥居塚 崇 日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 教授
諏訪 嘉彦 東急ジオックス株式会社 代表取締役社長
細谷 浩昭 鉄建建設株式会社 安全推進室 安全品質環境部長
鉄建 24 時間情報センター部長
建設労務安全研究会 副理事長
渡辺 和広 東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野 助教

<オブザーバー>

北内 正彦 一般社団法人日本建設業連合会 常務執行役
神田 道宏 清水建設株式会社 安全環境本部 安全部長
(一般社団法人全国建設業協会推薦)
宮澤 政裕 建設労務安全研究会 事務局長
笹本 裕三 一般社団法人日本造船工業会 総務部 労務担当部長
宇野 浩一 独立行政法人労働者健康安全機構 勤労者医療・産業保健部
調査役・産業保健課長
松葉 斉 中央労働災害防止協会 健康快適推進部長

<厚生労働省>

大塚 崇史 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課 産業保健支援室
中央労働衛生専門官
田染 陽一 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課 産業保健支援室
室長補佐

※ ○印は、委員長

(順不同・敬称略)

目 次

はじめに

第1章 委員会の設置	1
第2章 建設業のメンタルヘルスに関する最近の状況	7
第3章 建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値改定のための実態調査	18
第4章 新ヒヤリハット報告の開発及び活用手順	29
第5章 今後の課題	92
巻末資料	95
引用文献	99

第1章 委員会の設置

1. 委員会の設置

1. 1 趣旨・目的

建災防では、平成27年12月に「建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会」を設け、これまで建設業の特性に留意したメンタルヘルス対策のあり方について検討を進めてきた。

令和元年度委員会では、平成30年度実施のヒヤリハット実態調査の継続調査として、ヒヤリハットが「災害の疑似体験」としてだけでなく事故災害に至らずリカバリーできた「成功体験」であると位置づけ、その背後要因であるレジリエンス能力（予測・注視・対処・学習の能力）、現場での安全衛生活動、ストレス状況の3点からヒヤリハットを捕捉して、各要因の関連を分析した。

その結果、レジリエンス能力を構成する要素（予測、注視、対処、学習）は様々な建設工事現場での安全衛生活動によって強化されること、さらに職場の人間関係が日頃の安全衛生活動に影響を与え、レジリエンス能力向上にも寄与するものであることが判明した。これにより、これまで漠然と捉えられてきた現場での安全衛生活動の効果や意義がエビデンスをもって確認され、今後、より科学的な根拠をもった安全衛生活動の方向性が示されたと考えられる。

そこで、今年度は当該調査結果を踏まえ、災害防止に寄与するレジリエンス能力を強化するための具体的方策として、新たな「ヒヤリハット報告様式」及び活用マニュアル案の作成等を行うとともに、昨年度来、検討してきたワークエンゲイジメント尺度を盛り込んだ無記名ストレスチェックを建設工事現場において実施し、働き方改革等、社会変化に対応した標準値を改定し、併せて当該標準値と関連づけられたワークエンゲイジメント指標を作成する。

もって、建設現場で働く労働者の心身の健康を確保するとともに、働きやすく安心、安全、快適な職場環境の形成に資するものとする。

1. 2 検討事項

- (1) 令和元年度ヒヤリハット実態調査結果に基づくヒヤリハット報告様式及び活用マニュアル（案）の作成
- (2) ワークエンゲイジメント尺度を盛り込んだ無記名ストレスチェックの実施
- (3) 前掲（2）の結果に基づく標準値改訂、ワークエンゲイジメント指標の作成
- (4) その他

1. 3 委員名簿

○櫻井 治彦	慶應義塾大学 医学部 名誉教授
小山 文彦	東邦大学医療センター佐倉病院 産業精神保健・職場復帰支援センター長・教授 精神科医
藤川 久昭	クラウンズ法律事務所 弁護士
鳥居塚 崇	日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 教授
諏訪 嘉彦	東急ジオックス株式会社 代表取締役社長
細谷 浩昭	鉄建建設株式会社 安全推進室 安全品質環境部長 鉄建 24 時間情報センター部長 建設労務安全研究会 副理事長
渡辺 和広	東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野 助教

<オブザーバー>

北内 正彦	一般社団法人日本建設業連合会 常務執行役
神田 道宏	清水建設株式会社 安全環境本部 安全部長 (一般社団法人全国建設業協会推薦)
宮澤 政裕	建設労務安全研究会 事務局長
笹本 裕三	一般社団法人日本造船工業会 総務部 労務担当部長
宇野 浩一	独立行政法人労働者健康安全機構 勤労者医療・産業保健部 調査役・産業保健課長
松葉 斉	中央労働災害防止協会 健康快適推進部長

<厚生労働省>

大塚 崇史	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課 産業保健支援室 中央労働衛生専門官
田染 陽一	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課 産業保健支援室 室長補佐

<事務局>

本山 謙治	建設業労働災害防止協会 技術管理部長
田村 和佳子	建設業労働災害防止協会 技術管理部 建設業メンタルヘルス対策室長
高野 星雅	建設業労働災害防止協会 技術管理部 計画課課員
寺本 新吾	建設業労働災害防止協会 技術管理部 計画課課員

※ ○印は、委員長

(順不同・敬称略)

2. 委員会での検討経緯

●第1回委員会

日時 令和2年7月31日 13:30～15:30

場所 三田鈴木ビル5階 会議室

議題

1. 「令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会」設置趣旨及び検討事項について
2. 「令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会」報告書（完成版）について
3. 無記名ストレスチェックの標準値改定について
 - ①標準値改定の概要
 - ②建設現場における無記名ストレスチェックによる調査の実施（労研調査）
4. 新ヒヤリハット報告について
5. その他

配布資料

- | | |
|----------|--|
| 資料No.1-1 | 委員会開催要綱 |
| 資料No.1-2 | 委員名簿 |
| 資料No.1-3 | 令和元年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書 |
| 資料No.1-4 | 標準値改定の概要 |
| 資料No.1-5 | 建設現場における無記名ストレスチェック調査の実施について |
| 資料No.1-6 | 建災防方式「新ヒヤリハット報告」活用マニュアル（案） |
| 資料No.1-7 | 建災防方式「新ヒヤリハット報告」（改正案） |
| 資料No.1-8 | メンタルヘルス対策に関する調査研究成果を踏まえた今後の展開 |

- | | |
|--------|--|
| 参考資料 1 | 令和元年度「過労死等の労災補償状況」 |
| 参考資料 2 | 心理的負荷による精神障害の労災認定基準の改正 |
| 参考資料 3 | 令和2年度における建設業の安全衛生対策の推進について（要請）
（令2・3・30 基安発 0330 第3号、基労発 0330 第4号、基化発 0330 第3号） |
| 参考資料 4 | 櫻井治彦：メンタルヘルス対策とヒヤリハット，安全と健康 21（3），98-99（2020） |
| 参考資料 5 | 小山文彦：新型コロナウイルスによるストレスとその対処法，建設の安全 565，4-5（2020） |
| 参考資料 6 | 若年層に定期行事が有効，安全スタッフ 2350，4-5（2020），ひのみやぐら，安全スタッフ 2350，7（2020） |
| 参考資料 7 | 大島義和：第3世代の建設業の安全活動，続・第3世代の建設業の安全活動（2020） |
| 参考資料 8 | 本山謙治：「令和元年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する調査研究」の成果と今後の展望，建設の安全 564，10-14（2020） |

●第2回委員会

日時 令和2年10月23日 15:00～17:00

場所 TKP 田町カンファレンスセンター 2階 2A 会議室

議題

1. 第1回建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会議事録（案）について
2. 無記名ストレスチェックの標準値改定について
 - ①建設工事現場における無記名ストレスチェックによる調査の実施結果概要
 - ②同調査の集団分析結果（渡辺委員作成）
3. 新ヒヤリハット報告について
鉄建建設株式会社の建設工事における試行実施の結果概要
4. その他

配布資料

- | | |
|----------|--|
| 資料No.2-1 | 第1回 令和2年度建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会 議事要旨（案） |
| 資料No.2-2 | 建設現場における無記名ストレスチェックによる実態調査結果の概要 |
| 資料No.2-3 | 無記名ストレスチェック標準値改定（渡辺委員作成） |
| 資料No.2-4 | 令和2年10月26日建設業労働災害防止協会発表「建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値改定のための実態調査」結果について |
| 資料No.2-5 | 建設業における「働き方改革」の推進状況について（建設四団体公表データのまとめ） |
| 資料No.2-6 | 鉄建建設株式会社の現場における試行実施の結果概要
委員会限り 新ヒヤリハット報告 Ver1.2 回答済み帳票 |

- | | |
|--------|---|
| 参考資料 1 | 警察庁の自殺統計に基づく自殺者の推移等，厚生労働省自殺対策推進室，令和2年10月12日 http://www.mhlw.go.jp/content/202009-sokuhou.pdf |
|--------|---|

●第3回委員会

日時 令和3年1月26日 15:00～17:00

場所 web 会議

議題

1. 無記名ストレスチェックの標準値改定に伴う新たなストレス判定図の作成
2. 新ヒヤリハット報告について
 - ① 新ヒヤリハット報告 (ver. 1.2, Ver1.3) を用いた建設工事現場における試行実施の結果概要
 - ② 新ヒヤリハット報告様式 (Ver. 1.4)
 - ③ 新ヒヤリハット報告マニュアル (第二次案)
3. 建設業におけるメンタルヘルス対策の普及啓発方法について
 - ① 建設安全専門家による検討結果
 - ② 無記名ストレスチェック及び新ヒヤリハット報告のデジタル化
4. その他
 - ※ 職場環境の変化とメンタルヘルス
 - ① レジリエンス力向上のための VR 安全衛生教育
 - ② インフラ分野の DX の進展とメンタルヘルス

配布資料

- | | |
|-----------|---|
| 資料No.3-1 | 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会
委員名簿 |
| 資料No.3-2 | 建災防版仕事のストレス判定図 2020年版 (渡辺委員作成) |
| 資料No.3-3 | 新ヒヤリハット報告実施ツール |
| 資料No.3-4 | 新ヒヤリハット報告 (ver. 1.2) を用いた建設工事現場における試行実施の結果
概要 |
| 資料No.3-5 | 新ヒヤリハット報告 (ver. 1.2) を用いた実地調査結果 (ヒアリング調査) |
| 資料No.3-6 | 新ヒヤリハット報告の様式 (Ver1.3) |
| 資料No.3-7 | 新ヒヤリハット報告 (ver. 1.3) を用いた建設工事現場における試行実施の結果
概要 |
| 資料No.3-8 | 新ヒヤリハット報告の様式 (Ver1.4) |
| 資料No.3-9 | Safety I + Safety II の両面から考える新たな安全衛生活動 |
| 資料No.3-10 | 新ヒヤリハット報告マニュアル (第二次案) |
| 資料No.3-11 | 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会
建設安全専門家会議 議事要旨 (案) |

- | | |
|--------|--|
| 参考資料 1 | 令和2年10月26日付けプレス発表に関する新聞記事 |
| 参考資料 2 | Wilmar B. Schaufeli: Mental energy at work: From burnout to engagement,
第28回日本産業ストレス学会抄録集, 2-3, 2020.12 |
| 参考資料 3 | ワークエンゲイジメントスコアの国際比較, 厚生労働省: 令和元年版労働経済の
分析, 179, 2020
https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/19/dl/19-1-2-3_01.pdf |
| 参考資料 4 | インフラ分野の DX の推進に関する資料, 国土交通省第1回インフラ分野の DX
推進本部 2020.7 |

●第4回委員会

日時 令和3年3月17日 13:30～15:30

場所 web 会議

議題

1. 第3回 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会議事録（案）について
2. 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書（案）について
3. 新ヒヤリハット報告の普及について
4. 次年度の検討課題について
5. その他

配布資料

資料No.4-1 第3回 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会 議事録（案）

資料No.4-2 令和2年度 建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書（案）

資料No.4-3 建災防新聞発表（2021.2.9 付け）Safety I + Safety II の新たな安全衛生活動へ誘導する「新ヒヤリハット報告」を開発

資料No.4-4 労研セミナーアンケート結果

資料No.4-5 新ヒヤリハット報告 DX（イメージ）

参考資料1 安全スタッフ、ヒヤリハット 回避できた理由を聞く 建災防新報告を作成へ、2374, 4-5, 2021. 3. 15

参考資料2 国土交通省：インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）施策一覧

●専門家会議

日時 令和2年12月15日 15:00～17:00

場所 ビジョンセンター田町4階 404号室

議題

1. 建災防方式健康 KY と無記名ストレスチェックの普及啓発状況について
2. 新ヒヤリハット報告試行実施結果の概要について
3. 建設業におけるメンタルヘルス対策の普及啓発の方法について
 - ① 建災防方式健康 KY と無記名ストレスチェック
 - ② 新ヒヤリハット報告
4. その他

配布資料

資料No.1 建災防が実施する建災防方式健康 KY と無記名ストレスチェックの普及啓発状況

資料No.2 新ヒヤリハット報告試行実施結果の概要

資料No.3 建設業におけるメンタルヘルス対策 普及啓発の方法について

第2章 建設業のメンタルヘルスに関する最近の状況

令和2年度の建設業を取り巻くメンタルヘルスに関する最近の状況について、厚生労働省の労災補償状況等の統計データ、日本建設業連合会等、建設関係団体が公表するデータを整理した。

1. 労災補償状況

1. 1 脳・心臓疾患の労災補償状況

脳・心臓疾患の請求、決定及び支給決定件数では、請求件数は936件（前年度比59件増）、支給決定件数は216件（前年度比22件減）うち死亡件数86件（前年度比4件）となった。

年 度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
区 分						
脳・心臓疾患	請求件数	795 (83)	825 (91)	840 (120)	877 (118)	936 (121)
	決定件数 ^{注2}	671 (68)	680 (71)	664 (95)	689 (82)	684 (78)
	うち支給決定件数 ^{注3}	251 (11)	260 (12)	253 (17)	238 (9)	216 (10)
	[認定率] ^{注4}	[37.4%] (16.2%)	[38.2%] (16.9%)	[38.1%] (17.9%)	[34.5%] (11.0%)	[31.6%] (12.8%)
う ち 死 亡	請求件数	283 (18)	261 (14)	241 (18)	254 (18)	253 (18)
	決定件数	246 (14)	253 (16)	236 (20)	217 (15)	238 (17)
	うち支給決定件数	96 (1)	107 (3)	92 (2)	82 (2)	86 (2)
	[認定率]	[39.0%] (7.1%)	[42.3%] (18.8%)	[39.0%] (10.0%)	[37.8%] (13.3%)	[36.1%] (11.8%)

審査請求事案の取消決定等による支給決定状況^{注5}

年 度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
区 分						
脳・心臓疾患	支給決定件数 ^{注6}	6 (0)	16 (1)	6 (0)	8 (1)	8 (1)
	うち死亡	5 (0)	8 (0)	4 (0)	2 (0)	6 (1)

注 1 本表は、労働基準法施行規則別表第1の2第8号に係る脳・心臓疾患について集計したものである。

2 決定件数は、当該年度内に業務上又は業務外の決定を行った件数で、当該年度以前に請求があったものを含む。

3 支給決定件数は、決定件数のうち「業務上」と認定した件数である。

4 認定率は、支給決定件数を決定件数で除した数である。

5 審査請求事案の取消決定等とは、審査請求、再審査請求、訴訟により処分取消となったことに伴い新たに支給決定した事案である。

6 審査請求事案の取消決定等による支給決定件数は、上表における支給決定件数の外数である。

7 ()内は女性の件数で、内数である。なお、認定率の()内は、女性の支給決定件数を決定件数で除した数である。

次に、業種別に脳・心臓疾患の業種別請求、決定及び支給決定件数をみると、建設業では請求件数 130 件（前年度比 31 件増）、決定件数 88 件（前年度比 8 件増）うち支給決定件数 17 件（前年度比 3 件増）となった。

業種(大分類)	平成30年度			令和元年度		
	請求件数	決定件数	うち支給決定件数	請求件数	決定件数	うち支給決定件数
農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取業	12 (4) 〈 4 (2) 〉	8 (4) 〈 2 (2) 〉	4 (1) 〈 1 (1) 〉	20 (2) 〈 5 (1) 〉	10 (0) 〈 4 (0) 〉	6 (0) 〈 2 (0) 〉
製造業	105 (11) 〈 41 (1) 〉	99 (8) 〈 32 (0) 〉	28 (0) 〈 9 (0) 〉	99 (8) 〈 26 (0) 〉	79 (6) 〈 34 (1) 〉	22 (1) 〈 9 (0) 〉
建設業	99 (1) 〈 37 (0) 〉	80 (0) 〈 33 (0) 〉	14 (0) 〈 8 (0) 〉	130 (1) 〈 36 (0) 〉	88 (1) 〈 26 (0) 〉	17 (0) 〈 8 (0) 〉
運輸業、郵便業	197 (4) 〈 56 (0) 〉	174 (4) 〈 52 (0) 〉	94 (1) 〈 31 (0) 〉	197 (5) 〈 58 (2) 〉	155 (4) 〈 58 (1) 〉	68 (1) 〈 30 (1) 〉
卸売業、小売業	111 (16) 〈 30 (1) 〉	78 (17) 〈 29 (2) 〉	24 (3) 〈 9 (0) 〉	150 (22) 〈 48 (6) 〉	104 (13) 〈 35 (3) 〉	32 (0) 〈 12 (0) 〉
金融業、保険業	9 (1) 〈 4 (0) 〉	3 (0) 〈 2 (0) 〉	1 (0) 〈 1 (0) 〉	9 (2) 〈 4 (0) 〉	11 (1) 〈 5 (0) 〉	1 (0) 〈 0 (0) 〉
教育、学習支援業	20 (5) 〈 6 (0) 〉	8 (1) 〈 4 (0) 〉	2 (0) 〈 2 (0) 〉	14 (5) 〈 3 (0) 〉	10 (2) 〈 1 (0) 〉	2 (0) 〈 0 (0) 〉
医療、福祉	62 (34) 〈 13 (7) 〉	43 (24) 〈 9 (6) 〉	6 (2) 〈 1 (0) 〉	55 (32) 〈 11 (5) 〉	37 (21) 〈 15 (9) 〉	5 (1) 〈 3 (0) 〉
情報通信業	24 (1) 〈 9 (1) 〉	29 (1) 〈 15 (1) 〉	4 (0) 〈 2 (0) 〉	21 (1) 〈 7 (0) 〉	13 (1) 〈 6 (0) 〉	5 (0) 〈 3 (0) 〉
宿泊業、飲食サービス業	76 (20) 〈 18 (4) 〉	57 (11) 〈 8 (2) 〉	32 (1) 〈 6 (1) 〉	63 (15) 〈 10 (1) 〉	54 (10) 〈 17 (0) 〉	21 (1) 〈 7 (0) 〉
その他の事業 (上記以外の事業)	162 (21) 〈 36 (2) 〉	110 (12) 〈 31 (2) 〉	29 (1) 〈 12 (0) 〉	178 (28) 〈 45 (3) 〉	123 (19) 〈 37 (3) 〉	37 (6) 〈 12 (1) 〉
合 計	877 (118) 〈 254 (18) 〉	689 (82) 〈 217 (15) 〉	238 (9) 〈 82 (2) 〉	936 (121) 〈 253 (18) 〉	684 (78) 〈 238 (17) 〉	216 (10) 〈 86 (2) 〉

注 1 業種については、「日本標準産業分類」により分類している。
2 「その他の事業(上記以外の事業)」に分類されているのは、不動産業、他に分類されないサービス業などである。
3 ()内は女性の件数で、内数である。
4 〈 〉内は死亡の件数で、内数である。

このうち、中分類（日本標準産業分類の中分類 99 業種）上位 15 業種によってみると、建設業では、請求件数の 3 位に総合工事業（69 件）、6 位に設備工事業（33 件）、9 位に職別工事業（設備工事業を除く）（28 件）が挙げられ、また、支給決定件数では 5 位に総合工事業（10 件）、12 位に設備工事業（4 件）、15 位職別工事業（設備工事業を除く）（3 件）となった。

一方、建設業の職種別の中分類（日本標準職業分類の中分類 74 分野）上位 15 職種では、請求件数の 4 位に専門的・技術的職業従事者 建築・土木・測量技術者（45 件）、5 位に建設・掘削従事者 建設従事者（建設躯体工事従事者）（44 件）が挙げられた。一方、支給決定件数では、4 位に専門的・技術的職業従事者 建築・土木・測量技術者（13 件）、14 位に建設・掘削従事者 建設従事者（建設躯体工事従事者）（3 件）となった。

1. 2 精神障害の労災補償状況

まず、精神障害の請求、決定及び支給決定件数の推移をみると、令和元年度の請求件数は2,060件（前年度比240件増）となり、うち未遂を含む自殺件数は202件（前年度比2件増）であった。支給決定件数は509件（前年度比44件増）となり、うち未遂を含む自殺の件数は88件（前年度比12件増）であった。

年 度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
区 分						
精神障害	請求件数	1515 (574)	1586 (627)	1732 (689)	1820 (788)	2060 (952)
	決定件数	1306 (492)	1355 (497)	1545 (605)	1461 (582)	1586 (688)
	うち支給決定件数	472 (146)	498 (168)	506 (160)	465 (163)	509 (179)
	[認定率]	[36.1%] (29.7%)	[36.8%] (33.8%)	[32.8%] (26.4%)	[31.8%] (28.0%)	[32.1%] (26.0%)
う ち 自 殺	請求件数	199 (15)	198 (18)	221 (14)	200 (22)	202 (16)
	決定件数	205 (16)	176 (14)	208 (14)	199 (21)	185 (17)
	うち支給決定件数	93 (5)	84 (2)	98 (4)	76 (4)	88 (4)
	[認定率]	[45.4%] (31.3%)	[47.7%] (14.3%)	[47.1%] (28.6%)	[38.2%] (19.0%)	[47.6%] (23.5%)

審査請求事案の取消決定等による支給決定状況 注6

年 度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
区 分						
精神障害	支給決定件数	21 (4)	13 (2)	7 (0)	21 (6)	8 (1)
	うち自殺	13 (0)	7 (1)	4 (0)	5 (1)	2 (0)

- 注 1 本表は、労働基準法施行規則別表第1の2第9号に係る精神障害について集計したものである。
 2 決定件数は、当該年度内に業務上又は業務外の決定を行った件数で、当該年度以前に請求があったものを含む。
 3 支給決定件数は、決定件数のうち「業務上」と認定した件数である。
 4 認定率は、支給決定件数を決定件数で除した数である。
 5 自殺は、未遂を含む件数である。
 6 審査請求事案の取消決定等とは、審査請求、再審査請求、訴訟により処分取消となったことに伴い新たに支給決定した事案である。
 7 審査請求事案の取消決定等による支給決定件数は、上表における支給決定件数の外数である。
 8 ()内は女性の件数で、内数である。なお、認定率の()内は、女性の支給決定件数を決定件数で除した数である。

次に、業種別に精神障害の業種別請求、決定及び支給決定件数をみると、建設業では請求件数 93 件（前年度比 36 件減）、決定件数 89 件（前年度比 18 件減）うち支給決定件数 41 件（前年度比 4 件減）となった。

業種(大分類)	年度	平成30年度			令和元年度		
		請求件数	決定件数	うち支給決定件数	請求件数	決定件数	うち支給決定件数
農業、林業、漁業、鉱業、 採石業、砂利採取業		9 (4) 〈 2 (1) 〉	10 (2) 〈 2 (1) 〉	2 (0) 〈 0 (0) 〉	13 (2) 〈 3 (0) 〉	9 (2) 〈 2 (0) 〉	3 (2) 〈 0 (0) 〉
製 造 業		302 (77) 〈 43 (2) 〉	253 (52) 〈 44 (1) 〉	82 (18) 〈 16 (0) 〉	352 (100) 〈 51 (1) 〉	291 (75) 〈 48 (3) 〉	90 (16) 〈 21 (1) 〉
建 設 業		129 (13) 〈 29 (0) 〉	107 (12) 〈 24 (0) 〉	45 (1) 〈 11 (0) 〉	93 (10) 〈 22 (0) 〉	89 (9) 〈 27 (0) 〉	41 (6) 〈 17 (0) 〉
運 輸 業、 郵 便 業		181 (49) 〈 18 (0) 〉	142 (30) 〈 25 (3) 〉	51 (7) 〈 7 (1) 〉	178 (45) 〈 18 (1) 〉	134 (37) 〈 13 (0) 〉	50 (9) 〈 8 (0) 〉
卸 売 業、 小 売 業		256 (127) 〈 27 (0) 〉	199 (91) 〈 23 (1) 〉	68 (25) 〈 15 (0) 〉	279 (136) 〈 33 (4) 〉	234 (112) 〈 25 (1) 〉	74 (24) 〈 11 (0) 〉
金 融 業、 保 険 業		59 (37) 〈 6 (1) 〉	46 (26) 〈 9 (1) 〉	8 (6) 〈 1 (0) 〉	69 (36) 〈 8 (1) 〉	48 (26) 〈 6 (1) 〉	6 (2) 〈 2 (0) 〉
教育、学習支援業		59 (32) 〈 4 (1) 〉	50 (28) 〈 6 (2) 〉	13 (8) 〈 2 (0) 〉	74 (39) 〈 8 (1) 〉	46 (25) 〈 2 (0) 〉	12 (7) 〈 0 (0) 〉
医 療、 福 祉		320 (240) 〈 15 (8) 〉	255 (188) 〈 14 (6) 〉	70 (54) 〈 4 (2) 〉	426 (319) 〈 20 (4) 〉	279 (199) 〈 15 (6) 〉	78 (55) 〈 7 (2) 〉
情 報 通 信 業		93 (35) 〈 12 (3) 〉	81 (28) 〈 12 (2) 〉	23 (10) 〈 4 (0) 〉	127 (46) 〈 8 (1) 〉	99 (33) 〈 11 (2) 〉	31 (8) 〈 2 (0) 〉
宿泊業、飲食サービス業		91 (38) 〈 8 (2) 〉	65 (29) 〈 9 (1) 〉	27 (10) 〈 6 (1) 〉	104 (49) 〈 10 (2) 〉	89 (38) 〈 10 (2) 〉	48 (17) 〈 6 (0) 〉
そ の 他 の 事 業 (上 記 以 外 の 事 業)		321 (136) 〈 36 (4) 〉	253 (96) 〈 31 (3) 〉	76 (24) 〈 10 (0) 〉	345 (170) 〈 21 (1) 〉	268 (132) 〈 26 (2) 〉	76 (33) 〈 14 (1) 〉
合 計		1820 (788) 〈 200 (22) 〉	1461 (582) 〈 199 (21) 〉	465 (163) 〈 76 (4) 〉	2060 (952) 〈 202 (16) 〉	1586 (688) 〈 185 (17) 〉	509 (179) 〈 88 (4) 〉

注 1 業種については、「日本標準産業分類」により分類している。
2 「その他の事業(上記以外の事業)」に分類されているのは、不動産業、他に分類されないサービス業などである。
3 ()内は女性の件数で、内数である。
4 〈 〉内は自殺(未遂を含む)の件数で、内数である。

このうち、中分類（日本標準産業分類の中分類 99 業種）上位 15 業種によってみると、建設業では、請求件数の 10 位に総合工事業（54 件）が、支給決定件数の 4 位に総合工事業（28 件）が挙げられた。

一方、建設業の職種別に、中分類（日本標準職業分類の中分類 74 分野）上位 15 職種をみると、請求件数はこれに入っていないが、支給決定件数の 5 位に専門的・技術的職業従事者 建築・土木・測量技術者（27 件）が挙げられた。

一方、メンタルヘルスの状況については、小規模事業場における取組の実施割合が低調であるものの、メンタルヘルス対策の取組（59.2%）、仕事上のストレス等について職場に相談先がある労働者の割合（73.3%）、ストレスチェックの集団分析結果の活用状況（63.7%）となり、前年より改善が認められる。

3. 建設業における「働き方改革」の推進状況

建設業では、建設団体を中心に「働き方改革」が推進されているが、その状況について、一般社団法人日本建設業連合会、一般社団法人全国建設業協会、一般社団法人建設産業専門団体連合会、一般社団法人建設産業専門団体連合会が公表するデータを示す。

3. 1 一般社団法人日本建設業連合会

1) 週休二日実現行動計画フォローアップ 2018年・2019年の実績比較

一般社団法人日本建設業連合会（日建連）によれば、平成30年度下期と令和元年度下期を比較すると、4週8閉所 10.3%⇒24.7%、4週6閉所 53.2%⇒62.9%と週休2日制の普及が進展していることがわかる。

■週休二日実現行動計画フォローアップ 2018年・2019年の実績比較



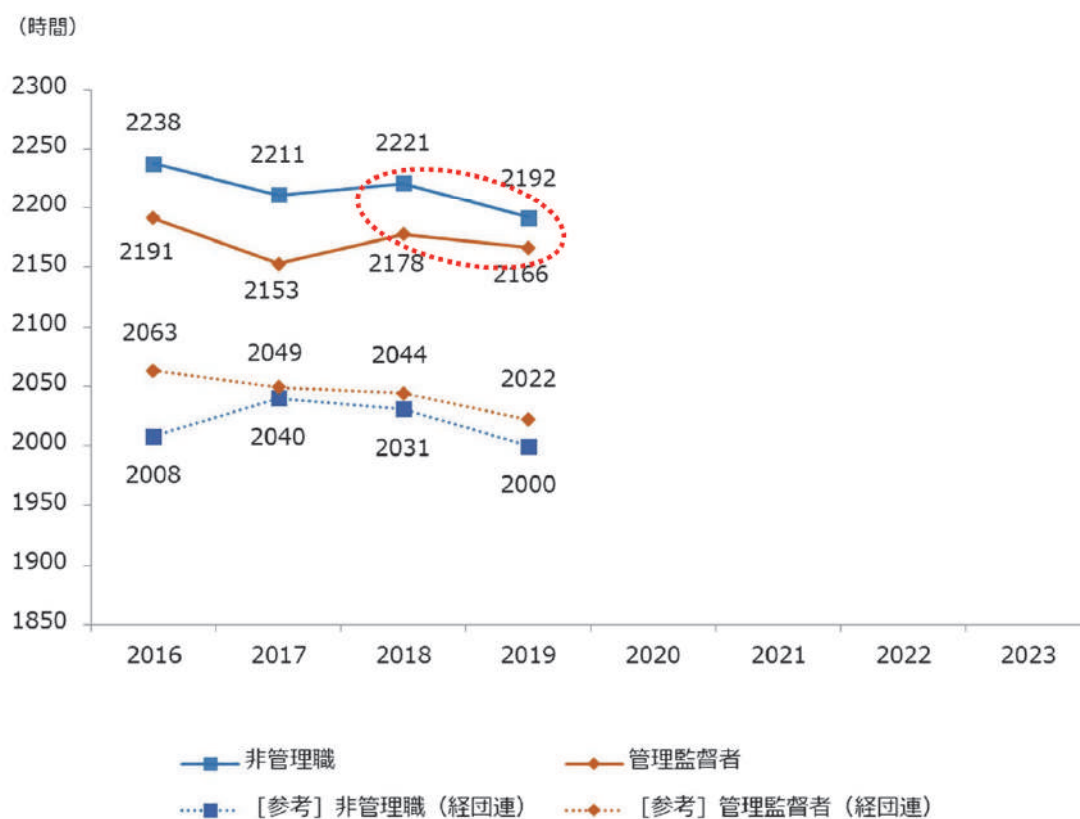
2) 会員企業労働時間調査報告書（2019年度）、一般社団法人日本建設業連合会労働委員会（2020.10）

会員企業労働時間調査報告書（2019年度、日建連労働委員会）によれば、総実労働時間は、2019年度は2018年度と比べ非管理職で29時間(1.3%)、管理監督者で12時間(0.6%)減少している。また、年次有給休暇平均取得率の推移を見ると、管理監督者、非管理職とも取得率は上昇傾向にある。

ア 総実労働時間の経年推移

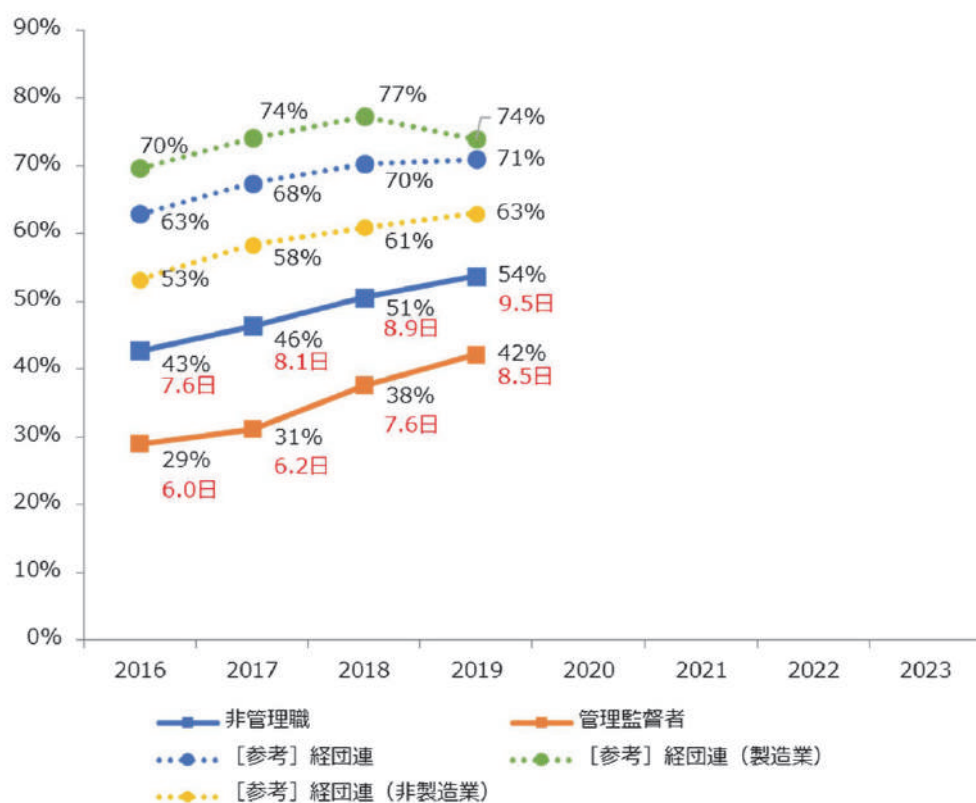
①総実労働時間の経年推移

- 2019年度の総実労働時間は前年度に比べ減少した。(グラフ中赤丸)
(非管理職で29時間(1.3%)、管理監督者で12時間(0.6%))
- 日建連会員企業においては、管理監督者に比べ、非管理職の方が総実労働時間は長い。
(経団連とは逆の傾向にある)
- 経団連調査とは、非管理職で192時間、管理監督者で144時間の開きがある。



イ 年次有給休暇平均取得率の推移

- 管理監督者、非管理職とも取得率は上昇傾向にある。
- 経団連数値と比較するといまだ大きな開きがあり、取得率の低い非製造業の平均にも及ばない。



※休暇取得率 = 取得休暇日数 / 付与日数

※赤字は取得日数を示す

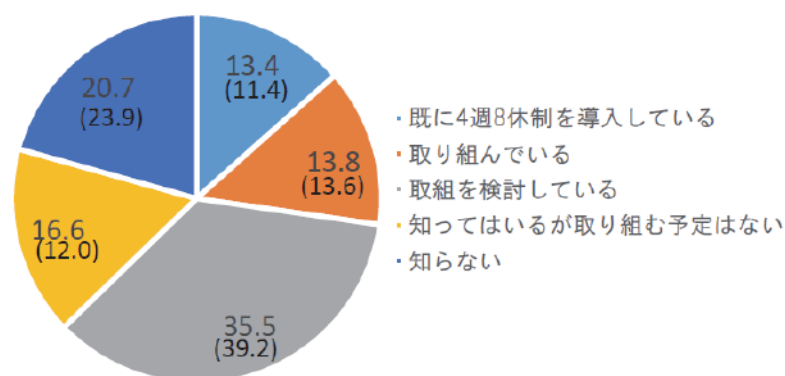
3. 2 一般社団法人全国建設業協会

「働き方改革の推進に向けた取組状況等に関するアンケート調査」結果概要，令和2年10月1日，同，令和元年10月28日

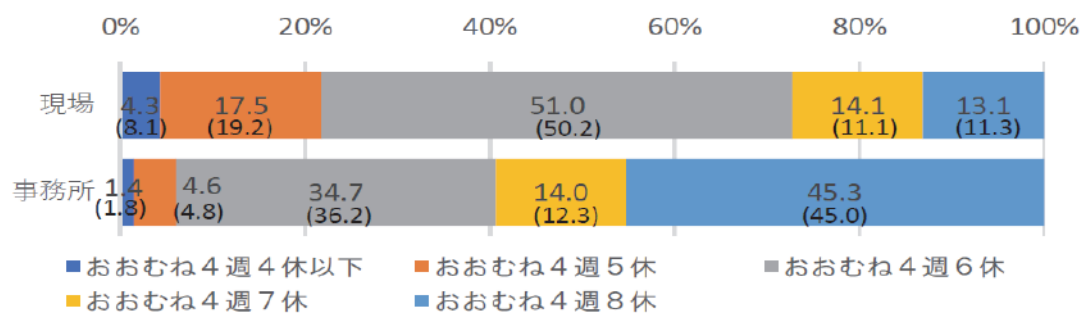
3.2 から 3.4 は、一般社団法人全国建設業協会、一般社団法人建設産業専門団体連合会、一般社団法人全国中小建設業協会 3 団体による週休 2 日制の実施状況を示したデータである。

3.1 でみた日建連会員以外のすべての建設業においても週休 2 日制の進展傾向が読み取れる。

休日月 1 + 運動の実施状況



週休日の実施状況



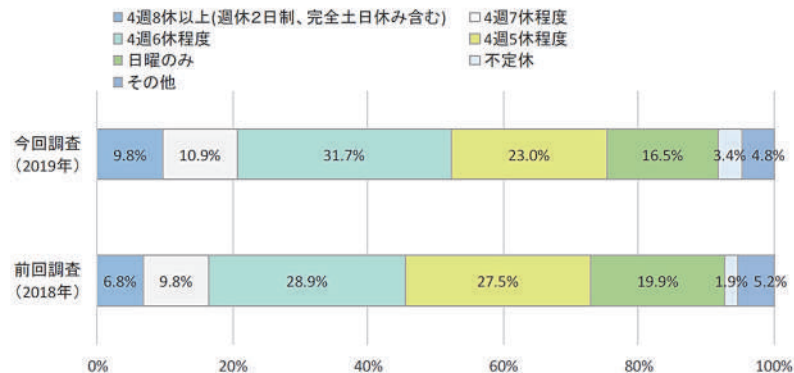
※ () は前年度

3. 3 一般社団法人建設産業専門団体連合会

令和元年度「働き方改革における週休二日制、専門工事業の適正な評価に関する調査結果」令和2年3月

Q1-2_実際に取得できている休日(5A)

休日を実際に取得している状況は、全体で「4週6休程度」が31.7%と最も多い。ただし、「4週8休以上」取得できている割合は前年調査に比べ3ポイント上昇し、「日曜のみ」は約5ポイント低下していることから、実際に取得できている休日日数は増えている状況がうかがわれる。

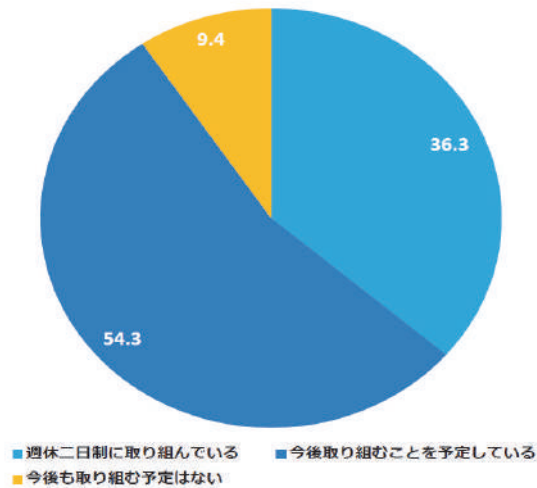


	合計	4週8休以上	4週7休程度	4週6休程度	4週5休程度	日曜のみ	不定休	その他
全体	861	84	94	273	198	142	29	41
	100.0%	9.8%	10.9%	31.7%	23.0%	16.5%	3.4%	4.8%
公・民の割合								
公共工事が主体	167	18	24	59	39	17	4	6
	100.0%	10.8%	14.4%	35.3%	23.4%	10.2%	2.4%	3.6%
民間工事が主体	558	53	57	172	127	101	18	30
	100.0%	9.5%	10.2%	30.8%	22.8%	18.1%	3.2%	5.4%
公共・民間が半々	136	13	13	42	32	24	7	5
	100.0%	9.6%	9.6%	30.9%	23.5%	17.6%	5.1%	3.7%
請負階層								
元請	99	11	19	34	19	7	2	7
	100.0%	11.1%	19.2%	34.3%	19.2%	7.1%	2.0%	7.1%
1次下請	683	68	66	219	162	120	20	28
	100.0%	10.0%	9.7%	32.1%	23.7%	17.6%	2.9%	4.1%
2次下請	69	4	7	17	14	15	6	6
	100.0%	5.8%	10.1%	24.6%	20.3%	21.7%	8.7%	8.7%
3次以下の下請	10	1	2	3	3	0	1	0
	100.0%	10.0%	20.0%	30.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%
従業員数								
1人～4人	45	1	1	8	8	19	5	3
	100.0%	2.2%	2.2%	17.8%	17.8%	42.2%	11.1%	6.7%
5人～9人	148	10	18	53	32	21	6	8
	100.0%	6.8%	12.2%	35.8%	21.6%	14.2%	4.1%	5.4%
10人～29人	369	38	33	109	84	70	12	23
	100.0%	10.3%	8.9%	29.5%	22.8%	19.0%	3.3%	6.2%
30人～99人	233	26	29	79	60	27	5	7
	100.0%	11.2%	12.4%	33.9%	25.8%	11.6%	2.1%	3.0%
100人～299人	59	6	12	22	13	5	1	0
	100.0%	10.2%	20.3%	37.3%	22.0%	8.5%	1.7%	0.0%
300人～	7	3	1	2	1	0	0	0
	100.0%	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
完工高の大きい許可業種								
土木工事業	64	8	11	28	10	3	3	1
	100.0%	12.5%	17.2%	43.8%	15.6%	4.7%	4.7%	1.6%
大工工事業	55	0	1	18	23	10	1	2
	100.0%	0.0%	1.8%	32.7%	41.8%	18.2%	1.8%	3.6%
とび・土工工事業	170	24	10	60	46	19	4	7
	100.0%	14.1%	5.9%	35.3%	27.1%	11.2%	2.4%	4.1%
タイル・れんが・ブロック工事業	58	5	11	14	3	20	2	3
	100.0%	8.6%	19.0%	24.1%	5.2%	34.5%	3.4%	5.2%
鉄筋工事業	109	1	4	25	33	35	2	9
	100.0%	0.9%	3.7%	22.9%	30.3%	32.1%	1.8%	8.3%
塗装工事業	77	8	9	22	16	12	3	7
	100.0%	10.4%	11.7%	28.6%	20.8%	15.6%	3.9%	9.1%
防水工事業	41	3	5	19	3	8	2	1
	100.0%	7.3%	12.2%	46.3%	7.3%	19.5%	4.9%	2.4%
内装仕上工事業	149	25	21	38	29	24	7	5
	100.0%	16.8%	14.1%	25.5%	19.5%	16.1%	4.7%	3.4%
造園工事業	44	5	10	16	7	2	0	4
	100.0%	11.4%	22.7%	36.4%	15.9%	4.5%	0.0%	9.1%

3. 4 一般社団法人全国中小建設業協会

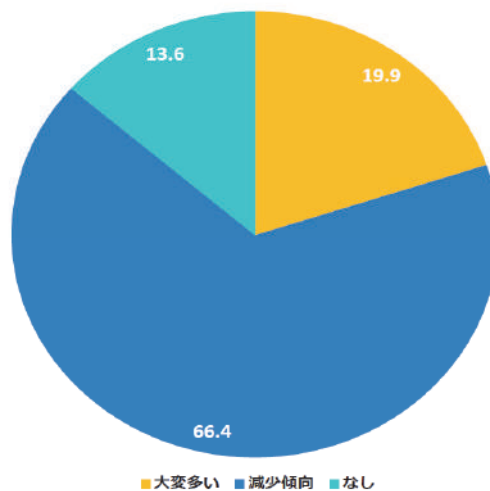
「全中建だより」477-6, 2020. 3. 11

週休二日制の取組について



出典：一般社団法人全国中小建設業協会「令和元年度 人材確保・育成対策等に係る実態調査結果」（「全中建だより」477-6, 2020.3.11）

時間外労働時間の実態について



出典：一般社団法人全国中小建設業協会「令和元年度 人材確保・育成対策等に係る実態調査結果」（「全中建だより」477-6, 2020.3.11）

第3章 建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値 改定のための実態調査

1. 調査の概要

1. 1 調査の目的

平成28年5月、労研会員企業を対象とした調査により無記名ストレスチェックの標準値を作成したが、その後働き方改革の推進等、建設業を取り巻く社会的な状況は大きく変化した。そこで、無記名ストレスチェックを実態に即したものとするため、改めて調査を実施し、標準値を改定することとした。

1. 2 調査の実施方法

調査は、質問紙の選択式回答とし、表面で、職業性ストレス簡易調査票23項目とワーク・エンゲイジメントに関する3項目の26項目について4件法により回答を求めた。また、裏面で新型コロナウイルスの影響に関し、仕事と働き方、心身の健康の質的量的変化を5件法によって回答を求めることとした。

調査にあたっては、予め調査対象現場を労研会員企業1社あたり4現場選定したうえで、元請社員を含む建設現場就労者全員を対象とする調査（別添調査票）を実施して、回答済み調査票pdfデータを労研に送付する方法によって実施した。

1. 3 調査の対象

調査対象期間は、令和2年6月18日～同年7月27日とし、建設労務安全研究会の会員企業37社を対象として実施した。回答企業数は31,132現場となり、調査実施日就労人数は10,200人、回答人数は9,264人、有効回答者数：90.8%となった。

1. 4 調査の質問項目

表面において、職業性ストレス簡易調査票の23項目である仕事のストレス要因6項目（仕事の要求度3項目、仕事のコントロール3項目）、心身の状態11項目（疲労感3項目、不安感3項目、憂うつ感3項目、身体愁訴2項目）、周囲のサポート6項目（上司の支援3項目、同僚の支援3項目）に加え、ワーク・エンゲイジメント3項目（活力1項目、熱意1項目、没頭1項目）を4件法によって回答を求めた。

回答方法は、仕事のストレス要因については、「そうだ：1」「まあそうだ：2」「ややちがう：3」「ちがう：4」とし、心身の状態は、「ほとんどなかった：1」「ときどきあった：2」「しばしばあった：3」「ほとんどいつもあった：4」とした。周囲のサポートでは、「非常に：1」「かなり：2」「多少：3」「全くない：4」とした。

裏面では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、あなたの仕事や働き方と心身の健康がどのくらい、どのように変化したかの4項目について、5件法で回答を求めた。

量的変化（どのくらい）については、「非常に大きく変化した：1」「大きく変化した：2」「やや変化した：3」「あまり変化しなかった：4」「全く変化しなかった：5」とし、質的变化（どのように）では、「悪化した：1」「やや悪化した：2」「変化しなかった：3」「やや良くなった：4」「良くなった：5」とした。

調査票は、98 頁のとおり。

2. 実態調査結果

本実態調査は、渡辺和広委員（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野助教）によって集計分析が行われ、次の結果が得られた。

2. 1 無記名ストレスチェック標準値改定

- ・ 前回調査（平成 28 年 [2016 年]、N=5,933）から 4 年ぶりの調査（2020、N=9,264）
- ・ 標準値（平均値、および健康リスク値との関連）の再計算

1) 平均値の検討

表 1. 記述統計（N = 9,264）

	得点範囲	2020 年 有効数 (%)	2020 年 欠損値 (%)	2020 年 平均値 (SD)	2016 年 平均値 (SD)
心理社会的ストレス要因					
仕事の要求度 (3 項目)	3-12	9183 (99%)	81 (1%)	8.31 (2.06)	8.41 (1.99)
仕事のコントロール (3 項目)	3-12	9176 (99%)	88 (1%)	8.04 (2.12)	7.85 (2.11)
職場の支援：上司 (3 項目)	3-12	9183 (99%)	81 (1%)	8.60 (2.39)	8.58 (2.30)
職場の支援：同僚 (3 項目)	3-12	9163 (99%)	101 (1%)	8.72 (2.29)	8.76 (2.23)
ストレス反応					
心理的ストレス反応 (9 項目)	9-36	9139 (99%)	125 (1%)	17.89 (6.42)	18.02 (6.17)
疲労感 (3 項目)	3-12	9179 (99%)	85 (1%)	6.46 (2.31)	6.57 (2.27)
不安感 (3 項目)	3-12	9165 (99%)	99 (1%)	5.94 (2.41)	5.99 (2.33)
抑うつ感 (3 項目)	3-12	9166 (99%)	98 (1%)	5.50 (2.57)	5.47 (2.50)
身体愁訴 (2 項目)	2-8	9178 (99%)	86 (1%)	3.36 (1.71)	3.28 (1.63)
食欲不振 (1 item)	1-4	9178 (99%)	86 (1%)	1.64 (1.31)	1.58 (0.87)
不眠 (1 item)	1-4	9178 (99%)	86 (1%)	1.72 (1.09)	1.70 (0.91)
ワーク・エンゲイジメント (3 項目)	1-4	9006 (97%)	258 (3%)	2.34 (0.01)	—

解釈

- ・ 2016 年から平均値はほとんど変化なし。

・ワーク・エンゲイジメントの平均は回答選択肢の違いによりその他の研究との比較ができないが、「時々あった」～「しばしばあった」の間。その他の研究の平均では「めったに感じない」。

2) 健康リスク値との関連の検討

表2. 多重ロジスティック回帰分析：心理社会的ストレス要因と心理的ストレス反応との関連
(N=8,996)

	2020 平均値 (SD) †	2020 回帰係数	2020 オッズ比 (95%信頼区間)	2016 回帰係数	2016 オッズ比 (95%信頼区間)
仕事の要求度	8.41 (1.99)	0.146	1.157 (1.119-1.196)	0.230	1.259 (1.189-1.333)
仕事のコントロール	7.85 (2.11)	-0.188	0.828 (0.802-0.855)	-0.110	0.896 (0.857-0.937)
職場の支援：上司	8.58 (2.30)	-0.095	0.909 (0.872-0.947)	-0.105	0.900 (0.849-0.955)
職場の支援：同僚	8.76 (2.23)	0.042	1.043 (0.999-1.089)	-0.053	0.948 (0.893-1.007)

注：2020年の心理的ストレス反応が27点以上のものを「高ストレス者」と定義した（上位10%）。

解釈

- ・仕事の要求度の関連が2016年よりも弱くなっている。
- ・仕事のコントロールの関連が2020年よりもやや強くなっている。
- ・上司による職場の支援の関連はほぼ変化なし。
- ・同僚による職場の支援の関連の方向が逆転している（統計的に有意ではない）。理論上は矛盾するため、変更すべきかは議論が必要。
- ・2016年時は性別（男性、女性）をモデルに加えていた（2020年は測定していない）。この変化を考慮するかどうかは検討したい。

3) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響の検討

質問 1：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの仕事や働き方はどのくらい変化しましたか。

質問 2：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの仕事や働き方はどのように変化しましたか。

質問 3：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの心身の健康はどのくらい変化しましたか。

質問 4：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの心身の健康はどのように変化しましたか。

表 3. 記述統計 (N=9, 264)

	有効数 (%)	欠損値 (%)	回答選択肢				
			非常に大きく変化した	大きく変化した	やや変化した	あまり変化しなかった	全く変化しなかった
質問 1	8, 989 (97%)	275 (3%)	460 (5%)	1, 062 (12%)	3, 369 (37%)	2, 892 (32%)	1, 206 (13%)
質問 3	8, 988 (97%)	276 (3%)	212 (2%)	574 (6%)	2, 564 (29%)	3, 647 (41%)	1, 991 (22%)

	有効数 (%)	欠損値 (%)	回答選択肢				
			悪化した	やや悪化した	変化しなかった	やや良くなった	良くなった
質問 2	8, 976 (97%)	288 (3%)	420 (5%)	2, 524 (28%)	5, 162 (58%)	732 (8%)	138 (2%)
質問 4	8, 976 (97%)	288 (3%)	184 (2%)	1, 364 (15%)	6, 571 (73%)	645 (7%)	212 (2%)

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による質問に変化しなかったと回答した労働者（N=2,638）のみ限定した場合の健康リスク値との関連の検討

表4. 多重ロジスティック回帰分析：心理社会的ストレス要因と心理的ストレス反応との関連
(N=2,577)

	2020 平均値 (SD) †	回帰係数	オッズ比 (95%信頼区間)	表2 回帰係数	表2 オッズ比 (95%信頼区間)
仕事の要求度	8.41 (1.99)	0.169	1.184 (1.111-1.263)	0.146	1.157 (1.119-1.196)
仕事のコントロール	7.85 (2.11)	-0.248	0.781 (0.735-0.829)	-0.188	0.828 (0.802-0.855)
職場の支援：上司	8.58 (2.30)	-0.091	0.913 (0.843-0.989)	-0.095	0.909 (0.872-0.947)
職場の支援：同僚	8.76 (2.23)	0.078	1.081 (0.995-1.174)	0.042	1.043 (0.999-1.089)

注：2020年の心理的ストレス反応が27点以上のものを「高ストレス者」と定義した（上位10%）。

解釈

・仕事の要求度、コントロール、および同僚の支援において、表2と比較して係数がより極端な方向に変化している。この結果を採用することは慎重になった方がよい。

4) 変数間の関連

分析は全ての変数に欠損がない者 (N=8,834) に限定した。

表 5. 相関分析 (N = N=8,834)

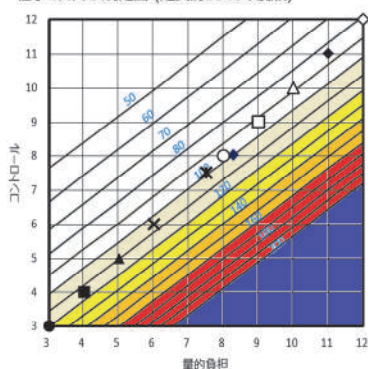
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 仕事の要求度	1.00											
2. 仕事のコントロール	0.02	1.00										
3. 職場の支援：上司	-0.03	0.24	1.00									
4. 職場の支援：同僚	-0.02	0.22	0.78	1.00								
5. 心理的ストレス反応	0.26	-0.22	-0.19	-0.16	1.00							
6. 疲労感	0.26	-0.20	-0.15	-0.14	0.85	1.00						
7. 不安感	0.24	-0.20	-0.16	-0.14	0.90	0.64	1.00					
8. 抑うつ感	0.18	-0.19	-0.18	-0.15	0.90	0.61	0.74	1.00				
9. 身体愁訴	0.09	-0.13	-0.13	-0.13	0.64	0.42	0.57	0.69	1.00			
10. 食欲不振	0.07	-0.12	-0.11	-0.11	0.58	0.37	0.52	0.64	0.92	1.00		
11. 不眠	0.09	-0.13	-0.14	-0.14	0.61	0.41	0.53	0.64	0.93	0.71	1.00	
12. ワーク・エンゲイジメント	-0.06	0.08	0.12	0.11	-0.04	-0.03	0.02	-0.08	0.01	0.01	0.00	1.00

3. ストレス判定図の作成

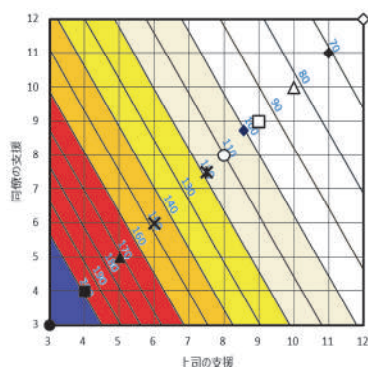
前掲の分析結果を踏まえ、渡辺委員によって建災防 2020 年版仕事のストレス判定図が作成された。

各要因の平均値、および回帰係数は、職場の同僚の支援を除き、2020 年の調査に基づいた値が採用された（表 2）。職場の同僚の支援については、平均値については 2020 年の調査に基づいた値が採用されたが、回帰係数については、理論的な整合性を考慮し、2016 年の値が引き続き採用された。

仕事のストレス判定図（建災防2020年度版）



※紺色のひし形（◇）は、全国の建設現場の平均値を示しています。



※紺色のひし形（◇）は、全国の建設現場の平均値を示しています。

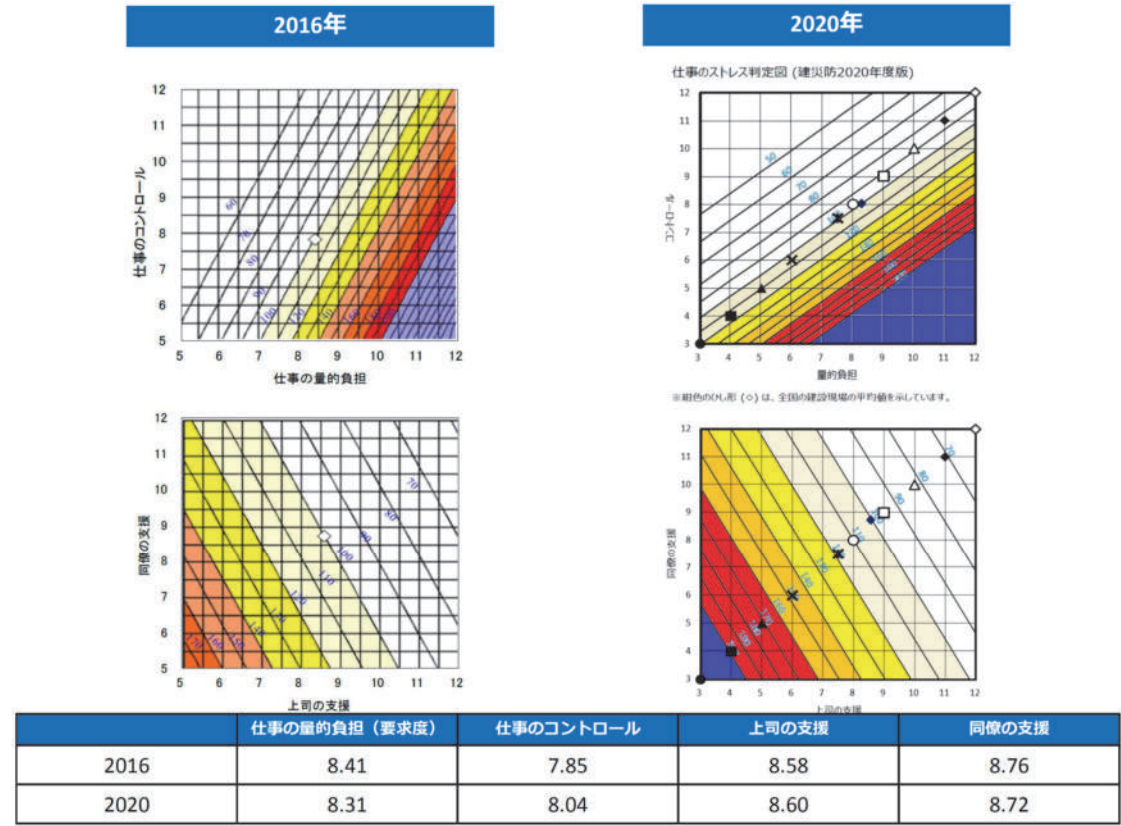
表（適当なタイトルを入力してください）

職場名	人数	量的負担	コントロール	上司の支援	同僚の支援	健康リスク		
		(点)	(点)	(点)	(点)	量-対比-A	職場の支援	総合
職場1 (●)	10	3	3	3	3	118	230	271
職場2 (■)	15	4	4	4	4	113	198	223
職場3 (▲)	20	5	5	5	5	109	171	186
職場4 (×)	25	6	6	6	6	104	147	152
職場5 (+)	30	7.5	7.5	7.5	7.5	98	118	115
職場6 (○)	35	8	8	8	8	96	109	104
職場7 (□)	40	9	9	9	9	92	94	86
職場8 (△)	45	10	10	10	10	88	81	71
職場9 (◆)	50	11	11	11	11	84	70	58
職場10 (◇)	55	12	12	12	12	81	60	48

職業性ストレス簡易調査票の尺度の平均値と係数

	量的負担	コントロール	上司の支援	同僚の支援
全平均	8.31	8.04	8.60	8.72
係数	0.146	-0.188	-0.095	-0.053

仕事のストレス判定図（建災防 2016 年度版と 2020 年度版の比較）



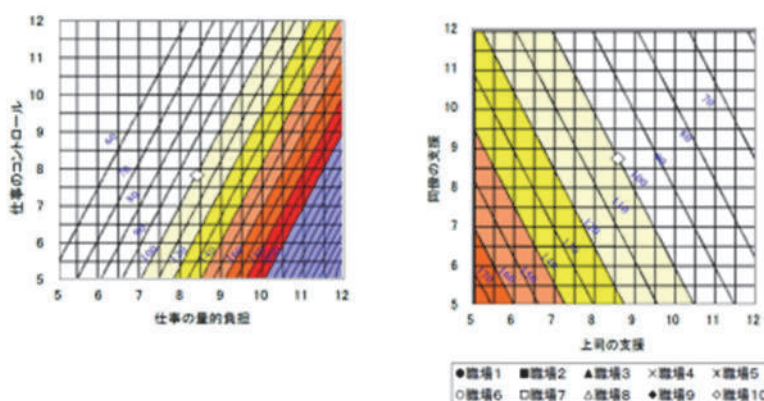
4. まとめ

本年度の実態調査は、平成 28 年に作成した標準値を働き方改革等の社会情勢を踏まえ、実情に適合したものとするために実施したものである。

標準値とはあるものを評価するうえで基準となる数値であり、厚生労働省は労働安全衛生法に基づく法定のストレスチェックに関する標準値として全国全産業に従事する労働者の平均値を公表しているが、建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値は建災防が全国の建設業労働者全体を対象に独自に調査し平均値を算出したものである。

この標準値は、「仕事のストレス判定図」等に反映させることで、個別企業や個別の建設現場の仕事に関するストレス状況を基準となる全国平均値である標準値と簡単に比較することができ、その結果に基づきそれぞれの企業や現場の職場環境改善に活用することができる。

建設現場版仕事のストレス判定図 (2016年版・建設業労働災害防止協会)



一方で、この標準値はある母集団の全体的平均値でもあるので、その母集団ごとの平均値比較も可能となる。例えば、平成 28 年版の建設業の標準値である平均値は厚生労働省が公表している全産業のものと比較ができる。その結果、下表のとおり、仕事のストレス状態の平均値に関し、建設労働者における仕事の要求度（負担感）、仕事のコントロール（裁量度）、及び職場の社会的支援と呼ばれる上司、同僚の支援（コミュニケーション）の平均値は、それぞれ 8.41, 7.85, 8.58, 8.76 であり、全産業のこれらの平均値は 8.7, 7.9, 7.5, 8.1 であったので、建設業と全産業を比べると、仕事のコントロール（仕事の裁量度）は同程度であるが、仕事の要求度（負担感）は低く、社会的支援（コミュニケーション）は高いことがわかる。特に社会的支援のうち上司の支援は 1.08 ポイントも高く、これは建設労働者の人間関係において、職長と作業員の関係が非常に密接かつ良好であり、困った時や問題があった時に話を聞いてくれたり、頼りになったりすることを示していると考えられる。

また、この平均値は母集団ごとの比較のみならず、同じ母集団の時系列比較も可能である。すなわち、建設業における平成 28 年の平均値と令和 2 年の平均値を比較したものが前掲 2 の

実態調査結果である。

本年度の調査結果から、平成 28 年と令和 2 年の比較において主として次の 4 点が明らかとなった。

- ① 標準値となる各項目（ストレス要因 4 分野 12 項目、ストレス反応 4 分野 13 項目）の平均値は前回分析結果と概ね同程度であった。
- ② 精査すると、ストレス要因のうち「仕事の要求度（仕事の負担感）」が 8.41 から 8.31 へと 0.1 ポイント軽減され、「仕事のコントロール（仕事の裁量）」が 7.85 から 8.04 へと 0.19 ポイント向上している。また、ストレス反応のうち「心理的ストレス反応（疲労感、不安感、抑うつ感）」が 18.02 から 17.89 へと 0.13 ポイント低減されている。
- ③ 結果、健康リスクの総合評価は 100 から 95 へと 5%改善された。また、ストレス反応指数は、1.9382 から 1.9327 へと 0.0055 ポイントわずかに改善された。
- ④ ワーク・エンゲイジメントの平均値は 2.34 で、回答選択肢の違いで他の研究結果と比較はできないが、他研究では「めったに感じない」が平均であるの対し、本調査では、「時々あった」～「しばしばあった」の間となっている。（なお、令和元年度労働経済白書で特集されたワーク・エンゲイジメントにおいて、その国際比較によると、我が国のワーク・エンゲイジメント・スコアは相対的に低い状況にあることが示されている）。

このように、健康リスクが 5%改善された背景には、週休 2 日制の進展等、職場環境の改善が挙げられる。労働条件等の職場環境の実態について産業間の比較をすると、第 2 章で述べた日建連データが示すように、建設業の実態は他産業に比べ、週休 2 日制の普及、総実労働時間の短縮、年次有給休暇取得率いずれもまだまだ大きな格差があり、他産業に比べて良好な労働条件であるとはいえない状況である。しかしながら、建設業の実態を時系列比較すると、いずれのデータも改善が進んでいることを示している。つまり、建設業においては、ここ数年の国や業界を挙げての働き方改革の推進が功を奏し、確実にその成果が上がっており、働き方改革による職場環境の改善を進めるムーブメントが建設企業の大小を問わず全国的に広がっていることが健康リスクの低減に寄与したと考えられる。

このことを推し量ると、この職場環境を改善するムーブメントが続く限り、建設業で働く労働者の心理的ストレスの軽減につながり、健康リスクが低減されることが考えられる。ただし、職場環境が現在より改善され、数値的に良くなったとしても改善する動きが止まった場合は、人の心理的反応として以前より良くなってはいないと感じれば心理ストレス反応が軽減される方向に進まないのではないかと推察される。このため、職場環境の改善はとどまることなく働く人々の納得感を得ながら不断に続けることが肝要であろう。

第4章 新ヒヤリハット報告の開発及び活用手順

1. 新ヒヤリハット報告の開発

1. 1 趣旨

すべての建設工事従事者を対象に実施されるヒヤリハット報告は、ヒヤリハット報告とりまとめ担当者^(注1)が取りまとめ分析を行うことになるが、その分析の単位は現場内であったり、支店内であったり、さらには全社的な分析も行うことが可能である。また、分析の方法も様々な角度から行うことが可能であり、そのアウトプットは、例えば安全衛生教育やリスクアセスメントに使用できるヒヤリハット事例集など従来から行われていた活用方法から、レジリエンス能力を向上させるための安全衛生活動を探索する基礎的資料としての活用など様々なものが考えられる。

このように様々な活用が可能な新ヒヤリハット報告であるが、ここで、このヒヤリハット報告を活用する意義について明確にする。

ハインリッヒ (H.W.Heinrich) は障害 (労働災害) を無くすには事故を無くす必要があり、事故を無くすには不安全行動・不安全状態を無くす必要があると述べており、これが現在の我々にとっても日々行っている労働災害防止活動の基本的スタンスとなっている。そして、不安全行動・不安全状態から派生するものがヒヤリハットであるから、労働災害を防止するために、リスクアセスメント活動などを通じてこのヒヤリハットを撲滅することに努力を傾注してきた。この取り組みは重要であり、今後も継続してさらに積極的に取り組んでいくべきであり、その内容もさらに深化する必要がある。すなわち、ヒヤリハットを発生させる直接的な物的・人的・管理的要因だけでなく、労働負荷や、コミュニケーション、自身の心身の状況等その背後要因に対しても積極的に対応していくべきと考える。つまり、Safety I^(注2)の深化である。新ヒヤリハット報告はこれに対応できるよう構成されており、新ヒヤリハット報告を活用する意義の一つがこの Safety I の深化によりヒヤリハットそのものを減少させることである。

その一方で、誤解を恐れず言えば、こうした努力をいくら行ったとしても、ヒヤリハットも、またその背後にある不安全行動・不安全状態も決してゼロにできないことを冷静に理解する必要がある (当協会の調査結果より、リスクアセスメント活動を行っているにもかかわらずヒヤリハット体験の割合が6割であること等の理由から)。リスクアセスメントで把握できるリスクはこの膨大な不安全行動・不安全状態の一角に過ぎず、把握することのできるリスクは発見することや予想することができたものであり、その背後にある隠れたリスク、あるいはその時点では存在しないリスクである不安全行動・不安全状態は把握できないまま、日々の業務が行われているのが現実である。そして、この膨大な不安全行動・不安全状態の一部が事故 (accident) を発生させ、この accident がある確率的な頻度で障害 (injury) を発生させている。とは言え不安全行動・不安全状態が accident や injury につながる割合は低く、不安全行動・不安全状態の件数は把握できないものの、原理的にそれよりも少ない数であるヒヤリハットの発生件数は類推が可能であり、それによると死亡災害との割合は1:10000のようなオーダになる等である^(注3)。つまり、ヒヤリハットの多くが accident や injury につながることなく、ヒヤリハットのままで終わっている。そして accident や injury につながらなかった理由としては、偶然や保護具等によるものよりも各人のレジリエンス能力^(注4)によるものが多いということは建災防の調査で明らかになった。そしてこのレジリエンス能力と日々の安全衛生活動は有意な連関があることから、その点に着目し、新ヒヤリハット報告ではレジリエンス能力を向上させる日々の安全衛生活動のあり方を科学的に探れるようにしている。つまり、新ヒヤリハット報

告を活用するもう一つの意義は、accident や injury につながらなかったヒヤリハットからそのリカバリーした力であるレジリエンス能力とは何か、それはどのような活動で醸成され向上させることができるかを明らかにすることにより、ヒヤリハットをヒヤリハットのままでとどまらせ、事故や災害につなげない、Safety II^(注2)の取組への誘いとするものである。

さらに、この新ヒヤリハット報告では、令和2年度に改定される予定の建災防方式無記名ストレスチェックとも関連付けてワーク・エンゲイジメント^(注5)の項目にも対応しており、これらを連動して運用することにより、単に災害を減らす、心身の健康リスクを減らすだけでなく、働く人々の究極の目標でもある働きがいのある職場、つまりワーク・エンゲイジメントの高い職場づくりに資することも活用する意義の一つである。

注1 「ヒヤリハットとりまとめ担当者」とは、現場から提出されたヒヤリハット報告をとりまとめる実務担当者であり、企画、実施、相談対応、集計分析等を行う者をいう。現場、支店、本社等実情に応じた配置が考えられる。

注2 Safety-Iとは、事故やリスクを可能な限り減らそうとする考え方であり、Safety-IIとは柔軟で弾力的(レジリエント)な対処により安全な状態を維持していくという考え方であり、これを実現するのがレジリエンスエンジニアリングである。システム、技術、組織など様々なことが複雑化している現在、それらの潜在リスクに対応するためには、Safety-Iに加えSafety-IIの考え方が必要であると考えられる。

参考: Resilience Engineering: Concepts and Precepts (レジリエンスエンジニアリング 概念と指針: 編著者 Elik Hollnagel 他 監訳者北村正晴 日科技連出版社 2012)

注3 死亡災害とヒヤリハットの比率を見ると、一般的に言われるハインリッヒの法則による1:(29:)300ではなく(これはハインリッヒの法則の不正確な引用だが)、1:10000の比率になる。(建災防調査によると、ヒヤリハット体験者の割合は全労働者の6割に上ることから)

参考: 「ハインリッヒ産業災害防止論」(井上威恭監修、(財)総合安全研究所訳(1982)、59頁、海文堂出版式会社)

注4 レジリエンスエンジニアリングの提唱者であるE.ホルナゲルは、レジリエンス能力とは、日々変動する状況のなかでリスクを回避するために必要な「予見」「注視」「対処」「学習」する4つの能力をいう、としている。

注5 ワーク・エンゲイジメントとは、働きがいのことであり、「仕事から活力を得てイキイキとしている」「仕事に誇りとやりがいを感じている」「仕事に熱心に取り組んでいる」という3つが揃った状態をいう。

1. 2 構成(報告様式)

新ヒヤリハットの報告は、表面、裏面の2面構成をとり、次の項目によって構成される。

表面	
ヒヤリハット体験	自由記述式及び選択式 12 項目
作業内容	自由記述式及び図示式
ヒヤリハットの発生原因	選択式 9 項目
災害になった場合のレベル	選択式 10 段階
災害防止対策	自由記述式
背後要因－仕事の要求度	選択式 3 項目
背後要因－心身の状態	選択式 11 項目
背後要因－仕事のコントロール	選択式 3 項目
背後要因－職場の支援	選択式 6 項目

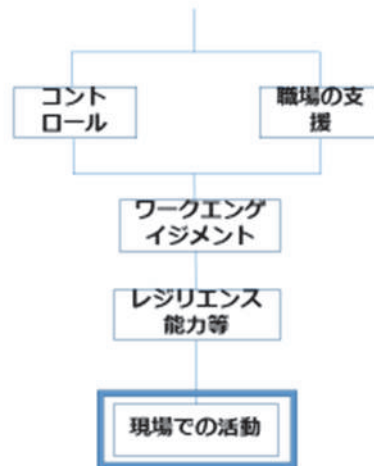
新ヒヤリハット報告の構成 【表面】

裏面にも記入してください



– 31 –

新ヒヤリハット報告の構成 【裏面】

[illegible]

新ヒヤリハット報告 Ver1.5

ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。あなたが過去1年間に体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。

記入日: 年 月 日

職種:	経験年数:
年齢:	

「ヒヤリハット」したこと

いつ（ ）月 頃 どこで（この現場、他の現場） どのような場所でしたか（ ）			体験の状況図 (図は別紙記載でも可)
どのような体験か(当てはまるものに○してください)			
1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった	
2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった	
3 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった	
4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()	
「ヒヤリハット」の内容			
どのような作業で？			
何をしようとしていた時？			
どうなったか？			
発生原因(考えられるもの全てに○してください)			
1 設備・機械に問題があった	5 連絡・連携ミスがあった		
2 工具・保護具に問題があった	6 確認が不足していた		
3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	7 よく考えずに行動してしまった		
4 作業方法に問題があった	8 考え事をしていた		
	9 よく見えなかった		

「ヒヤリハット」がもし災害になっていたとしたら、どのレベルに該当しますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

無休業災害 死亡災害

「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)

以下、当てはまる番号に1つ○してください(各項目で選択肢が異なっているので、よく読んで回答してください)

＜背後要因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4
時間内に仕事処理しきれなかった	1	2	3	4
一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4

＜あなたの状態＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
ひどく疲れた	1	2	3	4
へとへとだ	1	2	3	4
だるい	1	2	3	4
気がはりつめている	1	2	3	4
不安だ	1	2	3	4
落ち着かない	1	2	3	4
ゆううつだ	1	2	3	4
何をするのも面倒だ	1	2	3	4
気分が晴れない	1	2	3	4
食欲がない	1	2	3	4
よく眠れない	1	2	3	4

裏面にも記入してください

＜あなたの仕事について＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事できた	1	2	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	2	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	2	3	4

＜あなたの周りの方々について＞	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4

＜あなたの仕事について＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちちはづらつとしている	1	2	3	4
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	4
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	2	3	4

＜「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由＞	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にある
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	4
体力があった(運動神経がよかった)	1	2	3	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	4
何かが起こりそうな予感があった	1	2	3	4
周りに注意を払っていた	1	2	3	4
とっさの機転が利いた(知恵が働いた)	1	2	3	4
リーダーや仲間から声を掛けられた(とっさに注意された)	1	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	4
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	1	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	3	4

あなたの「ヒヤリハット」が事故・災害にならずに直前で回避できたのは、なぜですか

＜例＞厚い石材をベビーサンダーで切断加工中、サンダーがはねて頭に当たりそうになったが、「サンダーははねて危ない」と親方から教えられていたこともあり、体を斜めに構えていたため、ケガをせずに済んだ。

「ヒヤリハット」が事故や災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる活動についてうかがいます
(当てはまる番号に1つ○)

1 過去のヒヤリハット体験	11 危険体感教育	21 リーダーや仲間とのコミュニケーション
2 同僚や先輩の話	12 危険箇所の見える化	22 懇親会・レクリエーション
3 安全衛生教育での講話	13 安全標識の設置	23 体操
4 現場での朝礼、夕礼	14 4S(整理・整頓・清掃・清潔)	24 安全表彰
5 現地ミーティング	15 避難訓練	25 バランスのよい食事
6 日々のKY活動	16 作業状況の監視	26 悩みを相談
7 危険予知訓練	17 周囲の状況把握	27 よい睡眠
8 リスクアセスメント	18 人への目配り	28 くつろげる休憩時間と場所
9 災害事例の周知	19 機械設備の点検	
10 現場パトロール	20 作業手順書の周知	

ご協力ありがとうございました。

・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。

・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。

・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。

・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

氏名 _____ 連絡先 _____

1. 3 現場での活用方法

この新ヒヤリハット報告の現場での実施フローを次に示す。

① 新ヒヤリハット報告とりまとめ担当者の選任

この新ヒヤリハット報告のとりまとめ担当者を選任する。当該担当者は、店社の安全担当者又は現場スタッフが考えられる。

② 新ヒヤリハット報告の趣旨及び記入方法の説明

新ヒヤリハット報告とりまとめ担当者が中心となって、実施の趣旨等を説明する。ヒヤリハットは、災害や事故になる前にリカバリーした成功体験であり、体験者が発揮したレジリエンス能力は評価されるべきであるという趣旨に基づき、過去1年間に体験したヒヤリハットについて回答を求める。それとともに、組織のレジリエンス力向上に資するものであるから、ありのままを記入し積極的に報告してもらいたいという趣旨を伝える。

記入する際、未記入のないよう予め周知徹底することが大切である。また、文章を書いたりイラストを描いたりすることが苦手な人には、ヒヤリハット報告とりまとめ担当者に連絡すれば文章やイラストの作成等必要な対応をとれるようにする。

実施にあたっては、事前に協力会社の職長を対象として、事前説明を行うことが望ましい。

③ 新ヒヤリハット報告の実施・回答の回収

当該現場に従事する者を対象に、一定期間を区切る等して回答を求め、回収箱によって回収する。または、職長を通して、協力会社ごとに回収を求める方法も考えられる。

④ 新ヒヤリハット報告の集計

新ヒヤリハット報告とりまとめ担当者により、回収した報告を集計する。

⑤ 集計結果に基づく現場での活動

集計結果に基づき、現場での状況を踏まえて、当該現場に必要な活動を検討し、実施する。

1. 4 集計方法

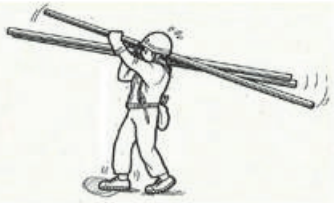
現場において回収された回答済みの新ヒヤリハット報告は、主としてヒヤリハットに関する事例の整理と背後要因・レジリエンス能力に関する集計によってアウトプットすることができる。

1) ヒヤリハットに関する事例の整理

回答済みの新ヒヤリハット報告を、下記記載例に示したとおり、作業内容、体験の型、災害想定レベル、発生原因、背後要因、災害防止対策、グットリカバリーであると評価できる点、この事例で発揮されたレジリエンス能力、心理社会的要因等（仕事の量的負担、仕事の裁量、上司の支援、同僚の支援、ワーク・エンゲイジメント）の各得点（換算値）、イラストの10項目で整理する。

【記載例】

新ヒヤリハット報告 事例

作業内容	長尺物の資材の搬入作業中、荷下ろしした後、資材を移動しようとして、肩に担いで旋回しようとしたところ、資材が他者の頭にぶつかりそうになった				
型	転落しそうになった、自分からぶつかりそうになった		災害想定レベル	5	
発生原因	1 連絡・連携ミス 2 作業方法確認不足 よく考えず行動		背後要因	・声掛けが徹底されていなかった ・物が整理されていなかった	
対策	・若手の教育、コミュニケーションをよくとる ・自分が今、何をしているか、声掛けをして周りに伝える				
グットリカバリー	・長尺物を扱う際は「何かあるかもしれない」と予想できた ・運んでいる者が周囲に対して「運んでいますよ」と声を掛ける				
レジリエンス能力	予測	注視	対処	学習	 出典：Kado-Office.com 建設工事のヒヤリハット事例集【改訂版工事編】 https://kado-office.com/建設工事のヒヤリハット事例集【改訂版工事編】/
	長尺物の取扱いにはリスクがあると予測	他者の動きを見ていた	とつさに旋回を止める	経験上、よくある話であり、親方から話を聞いていた	
得点(換算値)	仕事の量的負担	仕事の裁量	上司の支援	同僚の支援	ワークエンゲイジメント
	6.0点	9.0点	9.0点	9.0点	8.0点

なお、この事例を作成するにあたっては、回答済みの新ヒヤリハット報告に基づき、ヒアリングを実施して、当事者からより詳しく事故・災害に至らずリカバリーできた要因を聞きとることが望ましい。

ヒアリング事項としては、次のものが考えられる。

- ① 過去1年間にヒヤリハットした出来事
- ② ヒヤリハットした原因
- ③ ヒヤリハットを防ぐために必要な対策
- ④ ヒヤリハットした時の心身の状態
- ⑤ ヒヤリハット体験が事故・災害に至らなかった理由
- ⑥ ヒヤリハット体験が事故・災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる現場での活動
- ⑦ ヒヤリハット体験を踏まえて、事故・災害防止に有効と考えられる現場での活動
- ⑧ ヒヤリハットが起きやすい「危ない」と考えられる現場の特徴
- ⑨ ヒヤリハットと、仕事のストレス、人的なサポート、働きがいとの関係

2) 背後要因・レジリエンス能力に関する集計

ここでの集計は、ヒヤリハット体験者における背後要因分析（Safety I の深化）とレジリエンス能力分析（Safety II）を想定している。

ア Safety I の深化

背後要因（仕事の要求度、心身の状態、仕事のコントロール、職場の支援、ワーク・エンゲイジメント）に関する回答部分の集計を行い、傾向を把握する。

背後要因の集計手順は次のとおり。

- ① 4件法で回答を求めた背後要因（仕事の要求度3項目、疲労感3項目、不安感3項目、抑うつ感3項目、身体愁訴2項目、仕事のコントロール3項目、上司の支援3項目、同僚の支援3項目、ワークライフバランス3項目）について、項目ごと平均値を算出する。

平均値算出にあたっては、各項目の1～4の回答を次の得点に置き換える。

回答	1	2	3	4
仕事の要求度	4	3	2	1
疲労感	1	2	3	4
不安感	1	2	3	4
抑うつ感	1	2	3	4
身体愁訴	1	2	3	4
仕事のコントロール	4	3	2	1
上司の支援	4	3	2	1
同僚の支援	4	3	2	1
ワーク・エンゲイジメント	1	2	3	4

- ② 背後要因に関する各項目の平均値を出したうえで、全国平均と比較するための換算式により得点の再計算をする。

背後要因分析で用いる9項目のうち、仕事の要求度、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴については、得点が高いほど状態が「良くない」。一方、仕事のコントロール、上司の支援、同僚の支援、ワーク・エンゲイジメントの4項目は得点が高いほど状態が「良い」ことを示す。この9項目を同次元で表記するために、それぞれの得点分布に基づき、換算式を設定して再計算する。

No.	項目	得点分布	換算式(平均値=X)
1	仕事の要求度	3 - 12	15-X
2	疲労感	3 - 12	15-X
3	不安感	3 - 12	15-X
4	抑うつ感	3 - 12	15-X
5	身体愁訴	2 - 8	15-1.5X
6	コントロール	3 - 12	X
7	上司の支援	3 - 12	X
8	同僚の支援	3 - 12	X
9	ワーク・エンゲイジメント	1 - 4	3X

No.	項目	全国平均	
		元の値	換算値
1	仕事の要求度	8.31	6.69
2	疲労感	6.46	8.54
3	不安感	5.94	9.06
4	抑うつ感	5.5	9.5
5	身体愁訴	3.36	9.96
6	コントロール	8.04	8.04
7	上司の支援	8.6	8.60
8	同僚の支援	8.72	8.72
9	ワーク・エンゲイジメント	2.34	7.02

※ここで用いる全国平均は「令和2年度建設工事に現場における無記名ストレスチェックを用いた実態調査」の結果に基づき算定され、「ヒヤリハットの有無」を問わず得点化したものである。

③ 全国平均と現場の平均値を比較するためにレーダーチャートを作成する。

ここでは、ヒヤリハットの背後要因として回答を求めた、仕事の量的負担、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴、仕事のコントロール、上司の支援、同僚の支援、ワーク・エンゲイジメントの9項目を、全国平均と現場平均を比較し、その「高低（良い悪い）」をレーダーチャート上で一元的に図示している。現場平均の得点が全国平均より「良い」場合は全国平均より外側にプロットされる。

イ SafetyⅡの取組

レジリエンス能力等に関する回答部分の集計を行い、傾向を把握する。

レジリエンス能力等に関する集計手順は、次のとおり。

① 4件法で回答を求めたレジリエンス能力等10項目について、項目ごと平均値を算出する。

回答	1	2	3	4
レジリエンス能力等	1	2	3	4

No.	項目	全国平均
1	知識経験の活用	2.91
2	体力・運動神経	2.78
3	予測	2.68
4	予感	2.45
5	周囲に注意	3.01
6	とっさの機転	2.70
7	周囲からの声掛け	2.43
8	安全帯等保護具	2.30
9	警告・ブザー等	1.97

※ここで用いる全国平均は「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」の結果に基づき算定され、「ヒヤリハット有」と回答した者について得点化したものである。

② 全国平均と現場の平均値を比較するためにレーダーチャートを作成する。

ウ この現場で組織的レジリエンス能力を高めるために必要な安全衛生活動の選択

これらの集計分析に基づき、組織としてのレジリエンス能力を高め、災害防止に効果的な現場での日頃の活動を選定する。

活動の選択にあたっては、「レジリエンス能力等と安全衛生活動」表を用いる。

2. 新ヒヤリハット報告の試行実施

前掲1で述べた新ヒヤリハット報告について、次の4つの建設現場で試行実施を行い、報告様式の項目等に関する適応状況を確認した。各現場ごと、回収した回答済み新ヒヤリハット報告を集計し、集計方法等についても検討することとした。

- ① A建設α現場・・・帳票 Ver.1.2
- ② B建設β現場・・・帳票 Ver.1.2（ヒアリング有）
- ③ B建設γ現場・・・帳票 Ver.1.2（ヒアリング有）
- ④ A建設δ現場・・・帳票 Ver.1.3

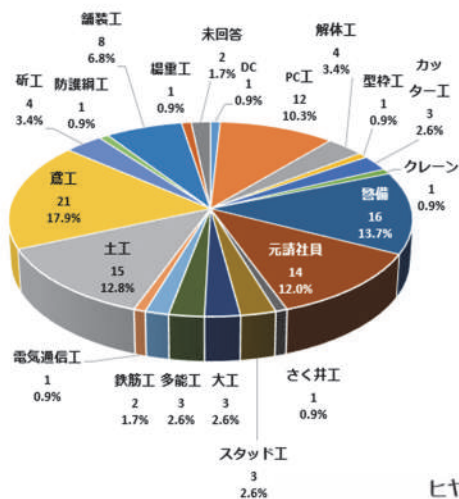
なお、各帳票は、「3.新ヒヤリハット報告様式の変更」に示している。

2. 1 A建設α現場

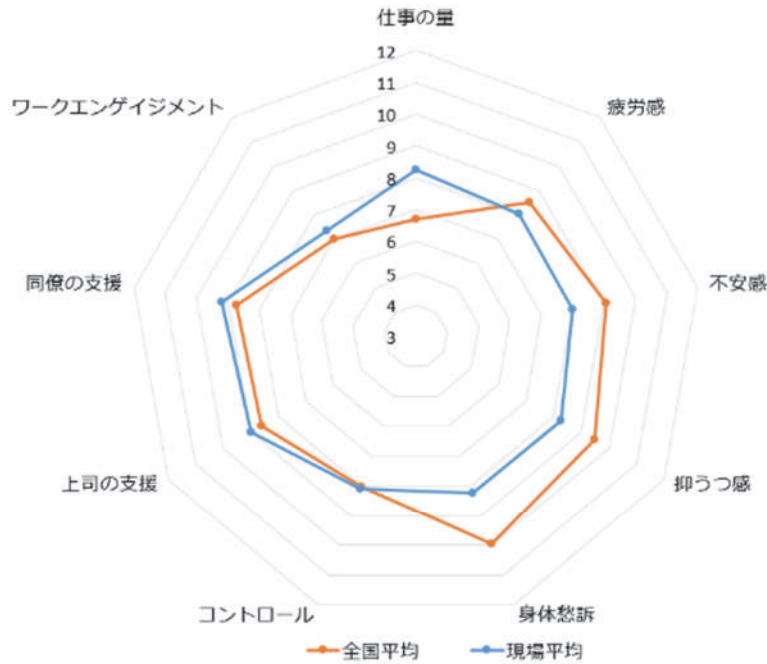
●●建設における「新ヒヤリハット報告」試行実施（調査票Ver.1.2）

元請会社名	●●建設株式会社 ●●支店		
工事名	●●自動車道 床版取替工事		
工期	着工：2019.8	竣工：2023.3	（42.4か月）
実施期間	令和2年8月27日～同年9月15日		
回収数	元請：15枚	協力会社：102枚	合計117枚

職種（N=117）自由記述



ヒヤリハット体験者の背後要因分析（全国平均（換算値）※1・2との比較）



	現場平均 (換算値)	全国平均 (換算値)
仕事の量	8.26	6.69
疲労感	8.05	8.54
不安感	7.99	9.06
抑うつ感	8.27	9.5
身体愁訴	8.23	9.96
コントロール	8.09	8.04
上司の支援	8.99	8.6
同僚の支援	9.19	8.72
ワークエンゲイジメント	7.35	7.02

コメント

- ・ 全国平均より「良い」のは、仕事の量、コントロール、上司の支援、同僚の支援、WE。
- ・ 全国平均より「悪い」のは、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴。

3

ヒヤリハット体験者のレジリエンスカ分析（全国平均※3との比較）



	現場平均	全国平均
知識経験の活用	2.54	2.91
体力・運動神経	2.66	2.78
予測	2.52	2.68
予感	2.45	2.45
周囲に注意	2.82	3.01
とっさの機転	2.57	2.7
周囲からの声掛け	2.39	2.43
安全帯等保護具	2.19	2.3
警告・ブザー等	1.91	1.97
偶然	2.26	2.24

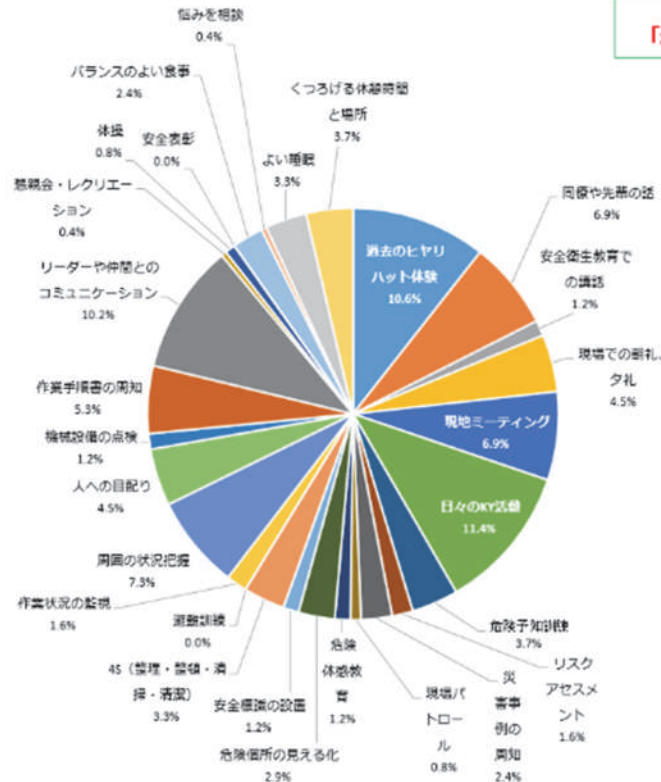
コメント

- ・ 全国平均並みであるのは「偶然」「予感」。

4

安全衛生活動

事故や災害に至らず直前で回避するのに
「最も役立った」と考えられる現場での活動は？



順位	%	活動
1	11.4	日々のKY活動
2	10.6	過去のヒヤリハット体験
3	10.2	リーダーや仲間とのコミュニケーション
4	7.3	周囲の状況把握

5

この現場で組織的レジリエンス能力を高めるために必要な安全衛生活動の選択 (レジリエンス能力等と安全衛生活動の関連表)



	全業平均値	2.68	2.45	3.01	2.78	2.7	2.91	2.43	2.3	1.97	2.24	
	現場平均値	2.52	2.45	2.82	2.66	2.57	2.54	2.39	2.19	1.91	2.28	
	変化が必要な項目	3	9	2	5	4	1	8	6	7	10	
		学習	予測	対処	注視	対処	学習	予測	対処	注視	対処	
安全衛生活動	予測	学習	対処	注視	対処	学習	予測	対処	注視	対処	学習	活動選択の優先順位
No.1 過去のヒヤリハット体験												15
No.2 同僚や先輩の話し												15
No.3 安全衛生教育での講話												13
No.4 朝礼・夕礼												13
No.5 現場ミーティング												11
No.6 日々のKY活動												3
No.7 KYT												6
No.8 リスクアセスメント												6
No.9 災害事例の周知												3
No.10 現場パトロール												20
No.11 危険箇所教育												20
No.12 危険箇所見える化												11
No.13 安全標識の設置												6
No.14 4S (整理・整頓・清掃・清潔)												6
No.15 避難訓練												20
No.16 作業状況の監視												15
No.17 周囲への状況把握												1
No.18 人への目配り												2
No.19 機械設備の点検												20
No.20 作業手順書の周知												6
No.21 コミュニケーション												3
No.22 懇話会・レクリエーション												20
No.23 休憩												15
No.24 安全表彰												20
No.25 休憩時間・場所												20
No.26 バランスのよい食事												20
No.27 悩み相談												20
No.28 睡眠												15

	Cohen's d	得点
○	0.7-0.79	1
◎	0.8-0.99	2
☆	1.0-	3

※「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」分析結果に基づき、レジリエンス能力と安全衛生活動の関連表を作成。(調査結果分析については、渡辺和広、鳥居保崇：令和元年度建設現場におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書、2020.3による)

6

新ヒヤリハット報告の集計結果からわかること

Safety I

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のヒヤリハットの背後要因をみると、全国平均を下回りその差が大きい項目として、

- 「疲労感」「不安感」「抑うつ感（ゆううつな気分等）」「身体愁訴（食欲がない、よく眠れない等）」が挙げられます。



現場での具体的な対応

ヒヤリハットをできる限り「減らす」には、1つの方法として次のことが考えられます。

- 現場全体のストレス状態を把握するために、無記名ストレスチェックを活用した職場環境改善を実施する。
- ストレス要因はいずれも全国平均より「良い」状況ですが、心理的ストレス反応を低減するための効果的な取組について、現場からの意見を聞きながら無記名ストレスチェックに基づく職場環境改善シートを作成しましょう。

Safety II

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のレジリエンス能力等を全国平均と比べてみると、全国平均を下回りその差が大きい順に

- 1位：学習（知識経験の活用）
- 2位：注視（周囲に注意）
- 3位：予測（予測） となりました。



ヒヤリハットが事故や災害に至らず直前で回避するのに役立つレジリエンス能力等を組織としてさらに高めるには、次の活動を現場で工夫して実施するとよいでしょう。

- 1位：周囲への状況把握
- 2位：人への目配り
- 3位：日々のKY活動、災害事例周知コミュニケーション

現場の実態に即して、効果的な対策を検討しましょう。

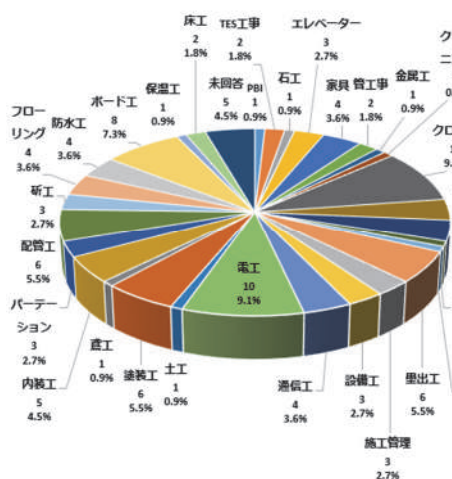
7

2. 2 B建設β現場

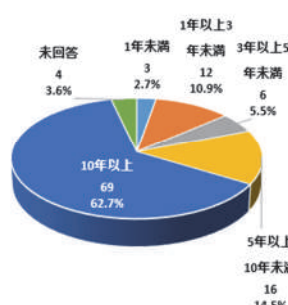
●●建設における「新ヒヤリハット報告」試行実施（調査票Ver.1.2）

元請会社名	●●建設株式会社		
工事名	●●駅前通り地区第一種市街地開発事業施設建築物新築工事		
工期	着工：2018.4	竣工：2021.6	（38.5か月）
実施期間	令和2年11月16日～同年11月20日		
回収数	元請：3枚	協力会社：107枚	合計110枚

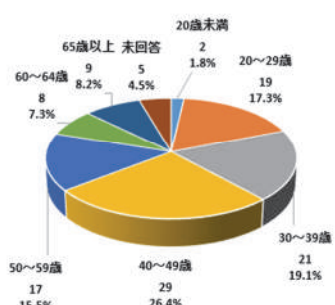
職種（N=110）自由記述



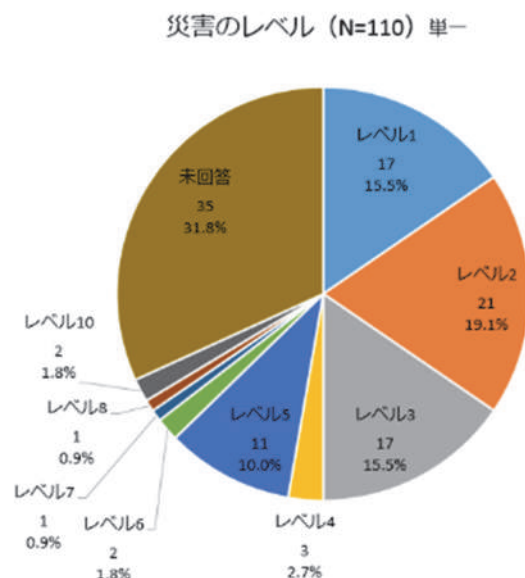
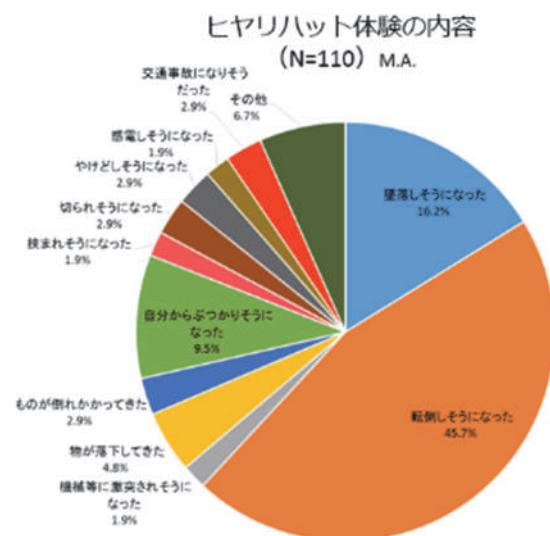
経験年数（N=110）自由記述



年齢（N=110）自由記述

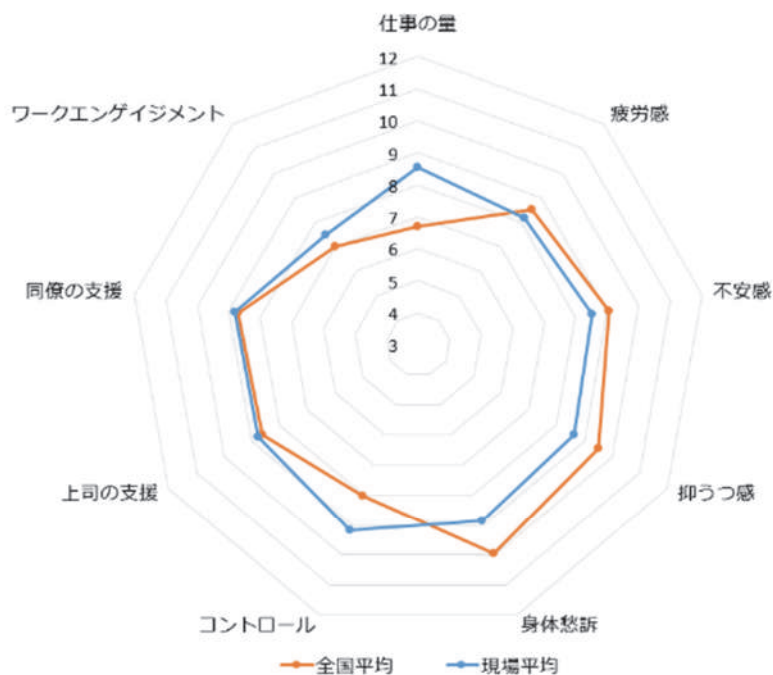


1



2

ヒヤリハット体験者の背後要因分析 (全国平均 (換算値) ※1・2 との比較)



	現場平均 (換算値)	全国平均 (換算値)
仕事の量	8.56	6.69
疲労感	8.19	8.54
不安感	8.53	9.06
抑うつ感	8.62	9.5
身体愁訴	8.85	9.96
コントロール	9.2	8.04
上司の支援	8.77	8.6
同僚の支援	8.82	8.72
ワークエンゲイジメント	7.5	7.02

コメント

- ・全国平均より「良い」のは、仕事の量、コントロール、上司の支援、同僚の支援、WE。
- ・全国平均より「悪い」のは、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴。

※1 レーダーチャートを作成するに際し、得点分布を簡素化した換算式によって得点の再計算をしている。
 ※2 全国平均 (換算値) は「令和2年度建設工事現場における無記名ストレスチェックを用いた実態調査」の結果に基づき算定され、「ヒヤリハットの有無」を問わず得点化したものである。

ヒヤリハット体験者のレジリエンス力分析（全国平均※3との比較）



	現場平均	全国平均
知識経験の活用	2.75	2.91
体力・運動神経	2.82	2.78
予測	2.43	2.68
予感	2.28	2.45
周囲に注意	2.76	3.01
とっさの機転	2.68	2.7
周囲からの声掛け	2.04	2.43
安全帯等保護員	1.98	2.3
警告・ブザー等	1.62	1.97
偶然	2.33	2.24

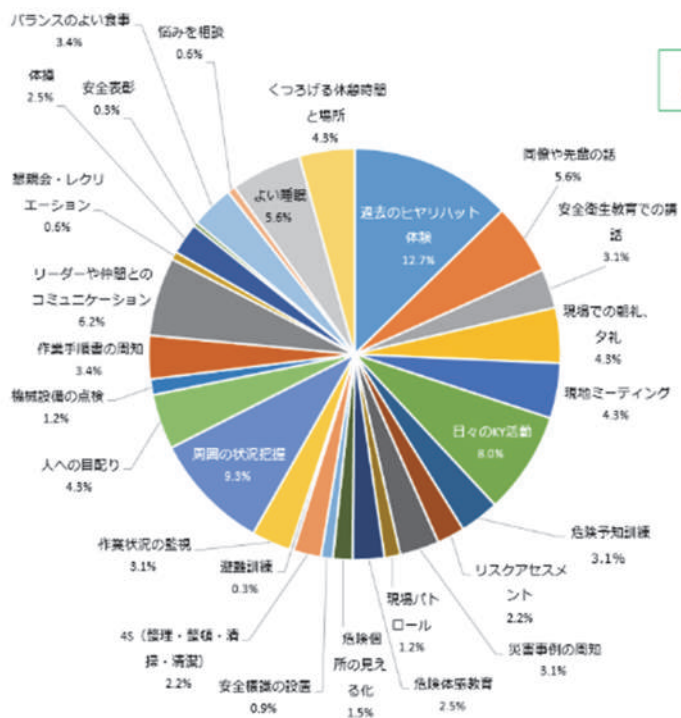
コメント

- ・ 全国平均並みであるのは「体力・運動神経」「偶然」。

全国平均より「良い」場合は、全国平均より外側にプロットされる。

※3 全国平均は「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」の結果に基づき算定され、「ヒヤリハット有」と回答した者について得点化したものである。

安全衛生活動



事故や災害に至らず直前で回避するのに
「最も役立った」と考えられる現場での活動は？

順位	%	活動
1	12.7	過去のヒヤリハット体験
2	9.3	周囲の状況把握
3	8.0	日々のKY活動
4	6.2	リーダーや仲間とのコミュニケーション

この現場で組織的レジリエンス能力を高めるために必要な安全衛生活動の選択 (レジリエンス能力等と安全衛生活動の関連表)



	全国平均点	2.68	2.45	3.01	2.78	2.7	2.91	2.43	2.3	1.97	2.24	
	現場平均点	2.43	2.28	2.76	2.62	2.68	2.75	2.04	1.98	1.62	2.33	
	強化が必要な項目	4	6	4	9	8	7	1	3	2	10	
	レジリエンス	予測	注視	対処	学習	外的要因						
安全衛生活動	予測	注視	対処	学習	外的要因							
No.1 過去のヒヤリハット事例												26
No.2 関係・声掛け												11
No.3 安全衛生教育	○											2
No.4 朝礼・夕礼												2
No.5 現場ミーティング												17
No.6 日々のKY活動	●											11
No.7 KYT	○											6
No.8 リスクアセスメント	●											17
No.9 災害事例周知	●											2
No.10 関係(パトロール)												17
No.11 危険有害教育												17
No.12 危険部を見える化	○											17
No.13 安全標識設置	○											1
No.14 4S	○											11
No.15 避難経路												6
No.16 作業状況の監視												22
No.17 現場への状況把握	●											22
No.18 人への目配り	●											11
No.19 機械設備点検												2
No.20 作業手順書周知	●											6
No.21 コミュニケーション	●											6
No.22 休憩・レク												11
No.23 休憩												11
No.24 安全表彰												6
No.25 休憩時間・場所												26
No.26 バランス改善												22
No.27 脳みそ体操												22
No.28 帰省												26

※「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」分析結果に基づき、レジリエンス能力と安全衛生活動の関連表を作成。(調査結果分析については、遡辺和広、鳥居保典：令和元年度建設現場におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書、2020.3による)

新ヒヤリハット報告の集計結果からわかること

Safety I

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のヒヤリハットの背後要因をみると、全国平均を下回りその差が大きい項目として、

- 「疲労感」「不安感」「抑うつ感(ゆううつな気分等)」「身体愁訴(食欲がない、よく眠れない等)」が挙げられます。



現場での具体的な対応

ヒヤリハットをできる限り「減らす」ための1つの方法として、次のことが考えられます。

- 現場全体のストレス状態を把握するために、無記名ストレスチェックを活用した職場環境改善を実施する。
- ストレス要因はいずれも全国平均より「良い」状況ですが、心理的ストレス反応を低減するために効果的な取組について、現場からの意見を聞きながら無記名ストレスチェックに基づく職場環境改善シートを作成しましょう。

Safety II

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のレジリエンス能力等を全国平均と比べてみると、全国平均を下回りその差が大きい順に

- 1位：外的要因(周囲からの声掛け)
- 2位：外的要因(警告・ブザー等)
- 3位：外的要因(安全帯等保護具) となりました。



ヒヤリハットが事故や災害に至らず直前で回避するのに役立つレジリエンス能力等を組織としてさらに高めるには、次の活動を現場で工夫して実施するとよいでしょう。

- 1位：安全標識設置
- 2位：安全衛生教育、朝礼・夕礼、災害事例周知、機械設備

現場の実態に即して、効果的な対策を検討しましょう。

● ヒヤリハット報告様式の試行実施結果（ヒアリング）

1) 実施概要

実施日	令和2年11月20日
対象者	●●建設株式会社●●作業所（建築）に従事する元請社員2名及び協力会社各4名 計6名
立合者	鳥居塚崇委員、建災防事務局2名

2) 実施手順

回答済みのヒヤリハット報告様式に即して、対象者1人あたり10～15分程度、ヒアリングを行った。

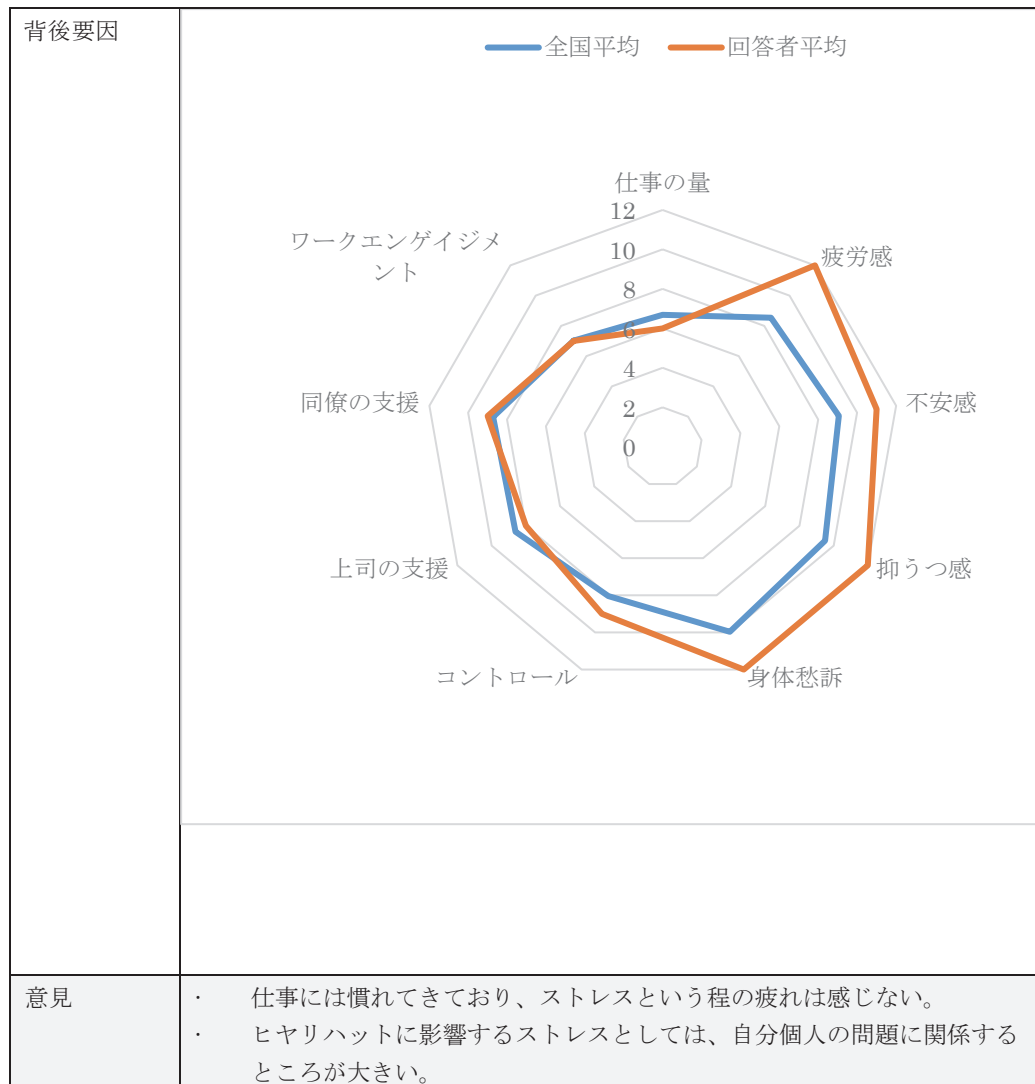


3) ヒアリング調査の結果

① 元請社員 30代

いつ	午前中、現場巡回の後1～2時間後
体験 (災害の型)	1 墜落しそうになった
ヒヤリハット の内容	配筋の確認作業中、基礎の梁の配筋を確認しようとしていたところ、足を乗せたスラブのベニヤが固定しておらず、落ちそうになった
災害になった 場合のレベル	5

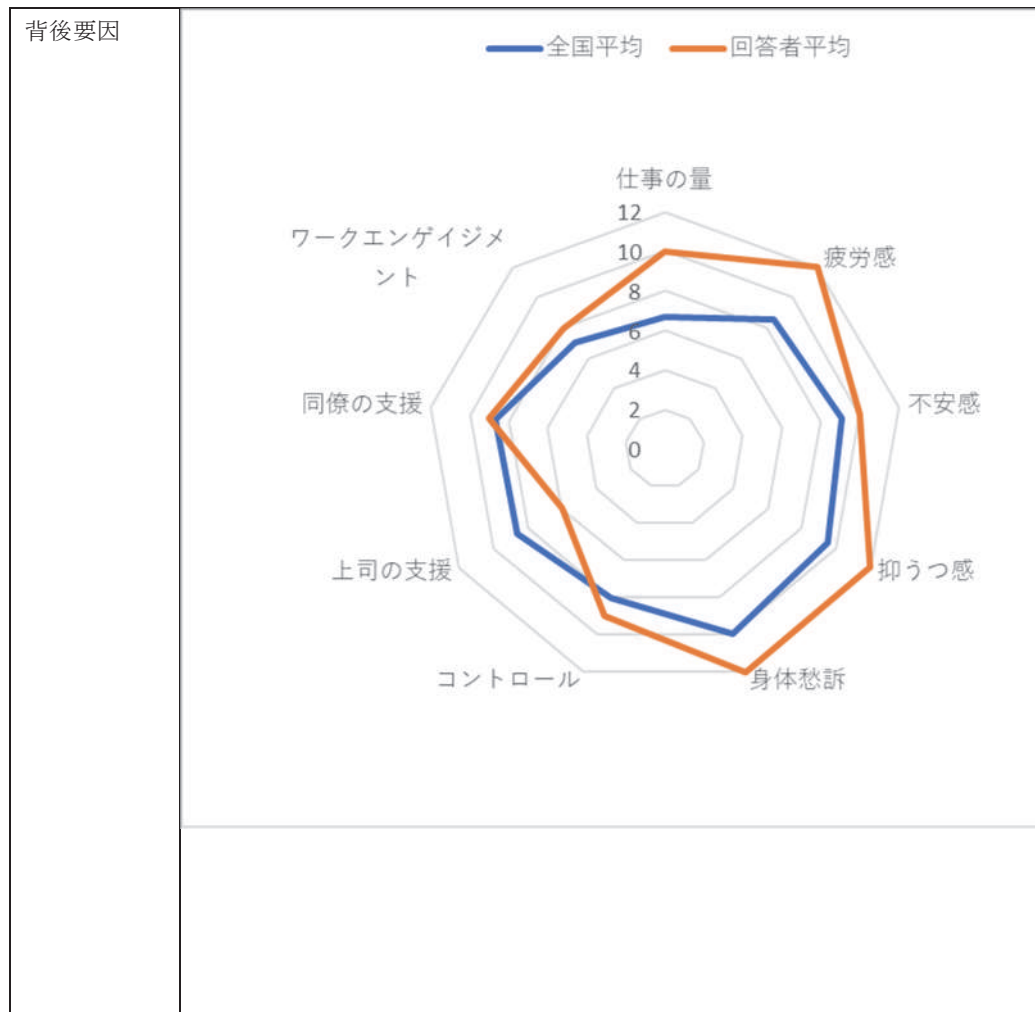
発生原因	確認不足 1 設備・機械 2 作業環境 2 よく考えず行動 2 よく見えない 2 作業方法 3 考え事 3 工具・保護具 4 連絡・連携ミス 4
対策	・ 危険な場所への立入禁止表示を設ける ・ 現場でひと声掛け合う
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 知識経験の活用 体力・運動神経 予測 予感 周囲に注意 とっさの機転 周囲からの声掛け 安全帯等保護具 警告・ブザー等 偶然
意見	・ 今回のヒヤリハットは作業をしていた型枠大工たちに「ベニアに乗ってもいいか」と声を掛けずに歩いていたことが良くなかった。声掛けが重要。 ・ とっさに反応できたのは「もしかしたら」という予感があった ・ 仕事中は「何かあるかも？」という意識をもって臨んでいる。 ・ 一つ一つの基本行動を慎重に行うようにしていることが功を奏したのかもしれない。これは性格にも関係がある。 ・ ヒヤリハットをするときは、気持ちの面で余裕がなく気が散漫になっていることが多い
直前に回避するのに役立った活動	7 危険予知訓練



② 元請社員 30代

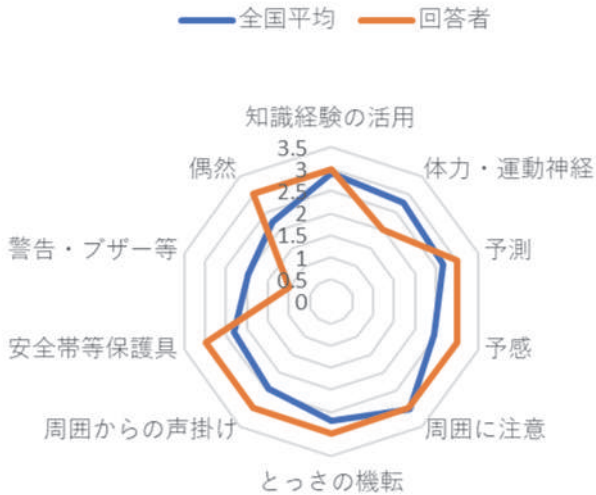
いつ	10 時頃、現場指示、巡回終了後
体験 (災害の型)	12 その他（ものが落下した）
ヒヤリハット の内容	外壁チェックの時、足場上で四つん這いになって鉄骨下をくぐろうとした時、腰袋からボルトが落ちたが、層間ネットに引っかかり、人が居た下層まで落下しなかった
意見	・ 1 スパン下に人がいたため、ネットが無ければボルトが当たっていた可能性があった ・ 直前に拾ったボルトを腰袋に入れたままの状態姿勢を変えてしまった ・ 腰袋にはフタがなく傾けると中の物が落ちる状況だった ・ 深く考えず、そのままでも「いけるのではないか」と思って行動した
災害になった 場合のレベル	5
発生原因	よく考えず行動 1 考え事 1

	設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4 連絡・連携ミス 4 確認不足 4 よく見えない 4																																	
対策	・ 四つん這いになるような姿勢の場所へ近づかなければよいが、どうしても基本動作以外の行動をする場合は一呼吸おいて動作確認する																																	
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 <table><thead><tr><th>要因</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>3.5</td><td>4.0</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td>予測</td><td>2.0</td><td>3.5</td></tr><tr><td>予感</td><td>2.0</td><td>3.5</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>警告・ブザー等</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>偶然</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr></tbody></table>	要因	全国平均	回答者	知識経験の活用	3.5	4.0	体力・運動神経	3.0	4.0	予測	2.0	3.5	予感	2.0	3.5	周囲に注意	3.0	4.0	とっさの機転	3.0	4.0	周囲からの声掛け	3.0	4.0	安全帯等保護具	2.5	3.5	警告・ブザー等	2.5	3.5	偶然	3.0	4.0
要因	全国平均	回答者																																
知識経験の活用	3.5	4.0																																
体力・運動神経	3.0	4.0																																
予測	2.0	3.5																																
予感	2.0	3.5																																
周囲に注意	3.0	4.0																																
とっさの機転	3.0	4.0																																
周囲からの声掛け	3.0	4.0																																
安全帯等保護具	2.5	3.5																																
警告・ブザー等	2.5	3.5																																
偶然	3.0	4.0																																
意見	・ 層間ネットという安全設備に助けられたところが大きい ・ ヒヤリハットが起きた時、「しまった」という違和感があった ・ ヒヤリハットが起きそうなのは周りが見えず、視野が狭くなる時である																																	
直前に回避するのに役立った活動	17 周囲の状況把握																																	



③ 協力会社（内装工） 50代

いつ	午後1時頃
体験 (災害の型)	12 その他（切りそうになった）
ヒヤリハット の内容	壁を建てる工事の際、材料を加工し移動している最中に壁に張った鉄板が腕にあたり、服が切れた
災害になった 場合のレベル	4
発生原因	確認不足 1 よく考えず行動 1 よく見えない 1 連絡・連携ミス 2 考え事 3 設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4
対策	・ 周囲に気を配りながら確認して行動する

ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	 — 全国平均 — 回答者 知識経験の活用 体力・運動神経 予測 予感 周囲に注意 とっさの機転 周囲からの声掛け 安全帯等保護具 警告・ブザー等 偶然
意見	・ 危ないという勘が働き、即座に気づいて対応できた ・ 10 年程前、同じような場面でケガをしたことがあった。そうした過去の経験から作業時には長袖を着用するようにしている。今回も長袖を着ていたことでケガをせずに済んだ（切られるリスクを予測していた） ・ 危ないサインが分かる場合は未然の養生を心掛けているが、現場として特に対策を行っていないところも多く、元請のルールは統一されていない ・ このサインは職人の肌感覚で理解できるものであり、他の人にはなかなか理解できないかもしれない。 ・ 現場での危険認識を高めるための声掛けは若いうちから繰り返し徹底的に行う。なぜ危険なのか？を日常的に教え続けることが大切 ・ 現場での慣れもヒヤリハットには関係している。常日頃から「ケガをするのではないか」という意識をもつ必要がある
直前に回避するのに役立った活動	1 過去のヒヤリハット体験、3 安全衛生教育での講話、11 危険体感教育 17 周囲への状況把握 20 作業手順書の周知

背後要因	— 全国平均 — 回答者平均 仕事の量 12 10 8 6 4 2 0 疲労感 不安感 抑うつ感 身体愁訴 コントロール 上司の支援 同僚の支援 ワークエンゲイジメント
意見	・ 疲労困憊というわけではないが、現場では相応に気を遣う立場でもあることから疲れも感じる。 ・ 工事全体の工程に対する業者間の調整に気を配っている。 ・ イライラする、忙しい、急いで確認を怠る場面だとヤリハットを起こしやすい

④ 協力会社（設備工） 30代

いつ	
体験 (災害の型)	2 転倒しそうになった、6 自分からぶつかりそうになった
ヒヤリハットの内容	長尺物の資材の搬入作業中、荷下ろしした後、資材を移動しようとしていて、肩に担いで旋回しようとしたところ、資材が他者の頭にぶつかりそうになった
災害になった場合のレベル	5
発生原因	連絡・連携ミス 1 作業方法 2 確認不足 2 よく考えず行動 2 設備・機械 4 工具・保護具 4

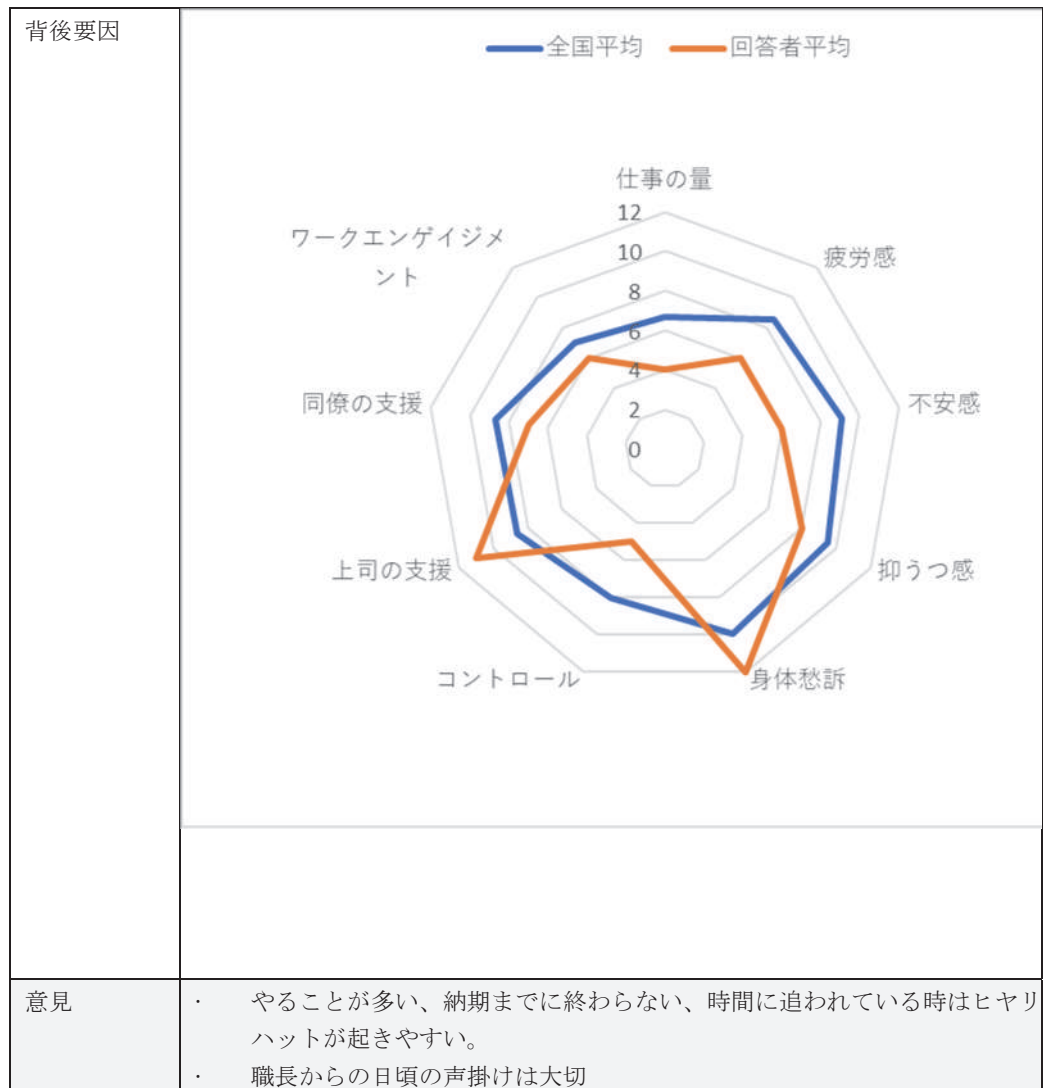
	作業環境 4 考え事 4 よく見えない 4																																	
対策	・ 若手の教育、コミュニケーションをよくとる ・ 自分が今、何をしているか、周りに伝える																																	
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	Legend: 全国平均 (National Average), 回答者 (Respondent) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>2.5</td><td>4.0</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>予測</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>予感</td><td>2.0</td><td>3.5</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>2.0</td><td>3.5</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>2.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>2.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>警告・ブザー等</td><td>2.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>偶然</td><td>3.0</td><td>1.5</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者	知識経験の活用	2.5	4.0	体力・運動神経	2.5	3.5	予測	2.0	3.0	予感	2.0	3.5	周囲に注意	2.0	3.5	とっさの機転	2.0	3.0	周囲からの声掛け	2.5	1.5	安全帯等保護具	2.5	1.5	警告・ブザー等	2.5	1.5	偶然	3.0	1.5
項目	全国平均	回答者																																
知識経験の活用	2.5	4.0																																
体力・運動神経	2.5	3.5																																
予測	2.0	3.0																																
予感	2.0	3.5																																
周囲に注意	2.0	3.5																																
とっさの機転	2.0	3.0																																
周囲からの声掛け	2.5	1.5																																
安全帯等保護具	2.5	1.5																																
警告・ブザー等	2.5	1.5																																
偶然	3.0	1.5																																
意見	・ 経験上、長尺物を運ぶ際はケガや事故のリスクがあると予測し、周りに注意を払いながら行動していたことで事故を防ぐことができた ・ 死亡事故に繋がるような災害防止の教育はあるが、資材搬入時等のヒヤリハットは「よくある話」で済まされ、しっかり教育が行われていない ・ 自分が所属する会社内ではしっかり声掛けを徹底しているが、他の会社へまでは行われていない。 ・ 物が整理されていない、表示物がない現場は「危ない」と感じる																																	
直前に回避するのに役立った活動	1 過去のヒヤリハット体験、3 安全衛生教育での講話、11 危険体感教育 17 周囲への状況把握 20 作業手順書の周知																																	



⑤ 協力会社（電気施工管理）20代

いつ	朝
体験 （災害の型）	2 転倒しそうになった、6 自分からぶつかりそうになった
ヒヤリハットの 内容	段ボールで梱包された金物の資材を運びながら階段を降りようとした時、段ボールで足元が見えず足を踏み外し転倒しそうになり、物も落としそうになった
災害になった 場合のレベル	3
発生原因	確認不足 1 よく考えず行動 1 よく見えない 1 作業方法 2

	考え事 2 設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 連絡・連携ミス 4
対策	・ 物を小分けにして一度に運びすぎないようにする ・ 一人で運べない物は複数人で分担する ・ エレベーターが使える場合は予約して使用する
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 知識経験の活用 偶然 体力・運動神経 予測 予感 周囲に注意 とっさの機転 周囲からの声掛け 安全帯等保護具 警告・ブザー等
意見	・ 階段と踊り場の色が同じであったため、見分けがつきにくく、また考え事をしながら階段を降りていたため、頭の中で「もう一段あるだろう」と思い、踏み外してしまった ・ ヒヤリハットしてしまったが、「もしかしたら」を予測しながら行動していたため転倒までせずにヒヤリハットで済んだと思う ・ 現場で立入禁止だけの表示であると近道行動につながりやすい。迂回路も併せて現場の中で明示しておくことが必要
直前に回避するのに役立った活動	23 体操



⑥ 協力会社（金属工）40代

いつ	
体験 (災害の型)	2 転倒しそうになった
ヒヤリハット の内容	のび馬（可搬式作業台）上で天井作業中、上を向いてパネルを貼っていた時、のび馬の端から足を踏み外し転倒しそうになった
災害になった 場合のレベル	3
発生原因	作業方法 1 確認不足 1 よく考えず行動 1 よく見えない 1 連絡・連携ミス 2 設備・機械 3 工具・保護具 4 作業環境 4 考え事 4

対策	・ 事前に作業台の端を感知できる物（ロープ等）を設置してから作業することが必要																																	
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	—— 全国平均 —— 回答者 <table><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>3.0</td><td>4.0</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>予測</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>予感</td><td>1.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>1.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>警告・ブザー等</td><td>1.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>偶然</td><td>2.0</td><td>3.0</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者	知識経験の活用	3.0	4.0	体力・運動神経	2.5	3.5	予測	2.0	3.0	予感	1.5	2.5	周囲に注意	2.5	3.5	とっさの機転	2.0	3.0	周囲からの声掛け	1.5	2.5	安全帯等保護具	2.0	3.0	警告・ブザー等	1.5	2.5	偶然	2.0	3.0
項目	全国平均	回答者																																
知識経験の活用	3.0	4.0																																
体力・運動神経	2.5	3.5																																
予測	2.0	3.0																																
予感	1.5	2.5																																
周囲に注意	2.5	3.5																																
とっさの機転	2.0	3.0																																
周囲からの声掛け	1.5	2.5																																
安全帯等保護具	2.0	3.0																																
警告・ブザー等	1.5	2.5																																
偶然	2.0	3.0																																
意見	・ 経験上「もしかしたら落ちるかも」しれないと考え、すり足を意識しながら移動していたことで、転落せずに済んだ ・ 何人かで作業する場合は声を掛け合いながら行う ・ 部下には「危ない」と思った自分の経験を伝え、気をつけるように指導する ・ 現場がキレイだと心に余裕がうまれ、仕事しやすくなる。汚い現場は危ない																																	
直前に回避するのに役立った活動	14 4S																																	

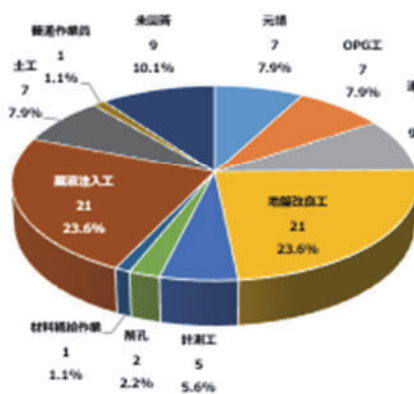
背後要因	— 全国平均 — 回答者平均 仕事の量 疲労感 不安感 抑うつ感 身体愁訴 コントロール 上司の支援 同僚の支援 ワークエンゲイジメント
意見	・ 心に余裕をもって焦りを無くすことでヒヤリハットも減る ・ 時間に制約がある現場の場合は、特にプレッシャーがかかる ・ ストレスを抱えた状態は焦りにつながる。仕事にプライベートのストレスを持ち込まないように心掛けている ・ 作業着の見映えは仕事に対するモチベーションアップに役立つ ・ やることが多い、納期までに終わらない、時間に追われている時はヒヤリハットが起きやすい。 ・ 職長からの日頃の声掛けは大切

2. 3 B建設現場

●●建設における「新ヒヤリハット報告」試行実施（調査票Ver.1.2）

元請会社名	●●建設株式会社		
工事名	●●空港 滑走路他地盤改良工事		
工期	着工：2020.6	竣工：2021.3	（9.3か月）
実施期間	令和2年11月16日～同年11月26日		
回収数	元請：6枚	協力会社：83枚	合計89枚

職種（N=89）自由記述



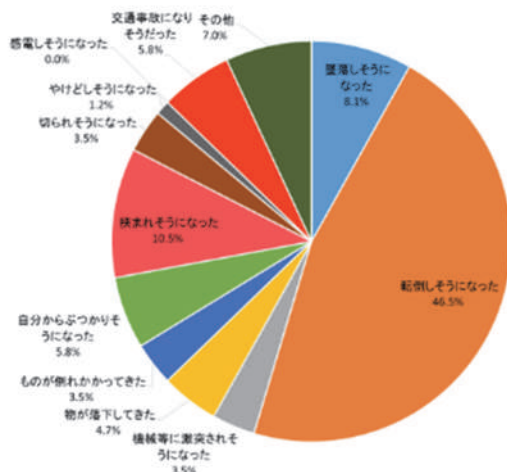
経験年数（N=89）自由記述



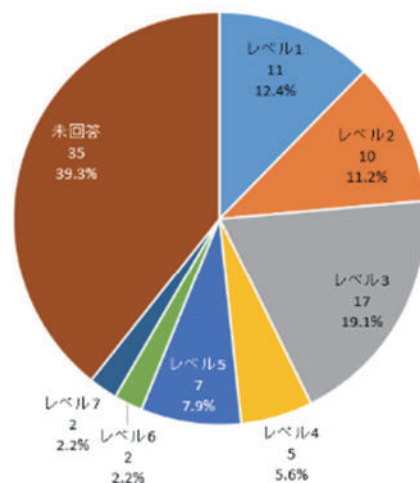
年齢（N=89）自由記述



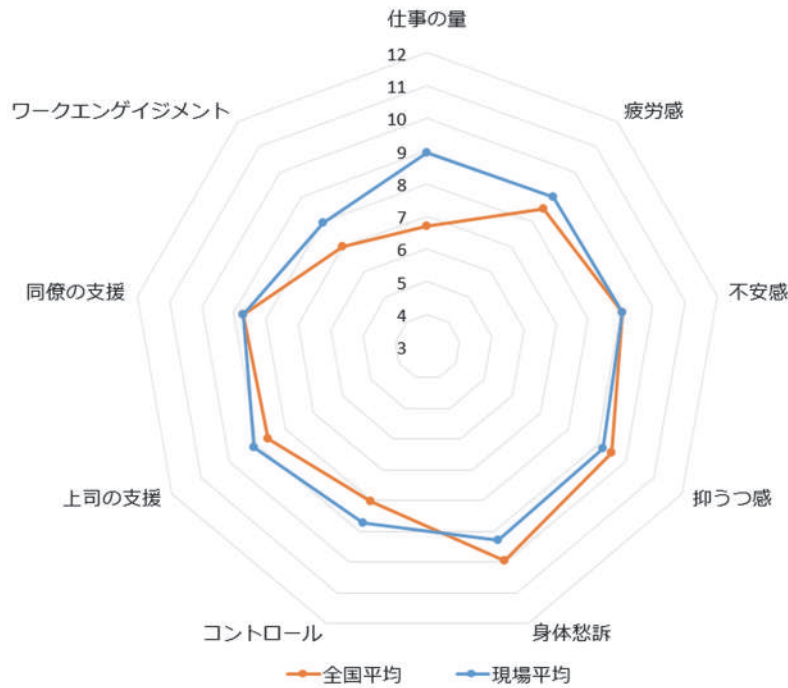
ヒヤリハット体験の内容（N=89）M.A.



災害のレベル（N=89）単一



ヒヤリハット体験者の背後要因分析（全国平均（換算値）※1・2との比較）

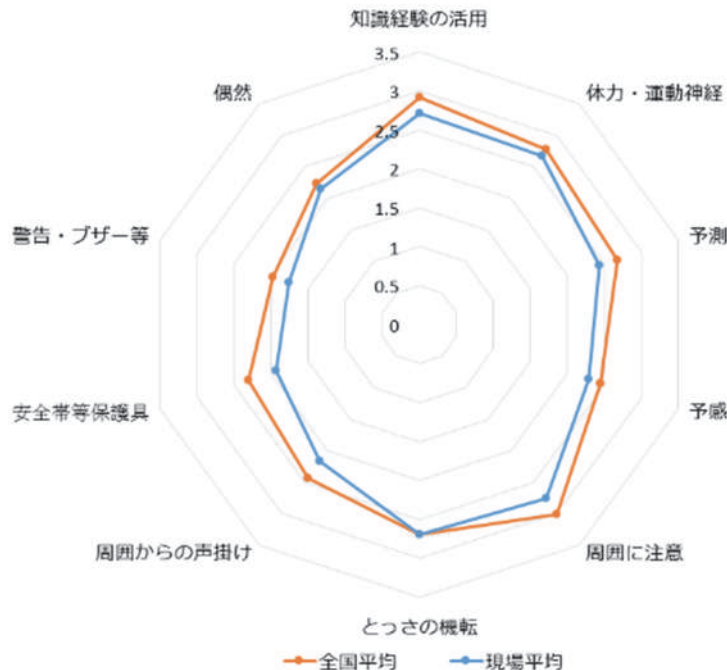


	現場平均 (換算値)	全国平均 (換算値)
仕事の量	8.93	6.69
疲労感	9.0	8.54
不安感	9.05	9.06
抑うつ感	9.19	9.5
身体愁訴	9.3	9.96
コントロール	8.72	8.04
上司の支援	9.11	8.6
同僚の支援	8.71	8.72
ワークエンゲイジメント	7.95	7.02

コメント

- ・ 全国平均より「良い」のは、仕事の量、疲労感、コントロール、上司の支援、WE。
- ・ 全国平均より「悪い」のは、不安感、抑うつ感、身体愁訴、同僚の支援。

ヒヤリハット体験者のレジリエンスカ分析（全国平均※3との比較）

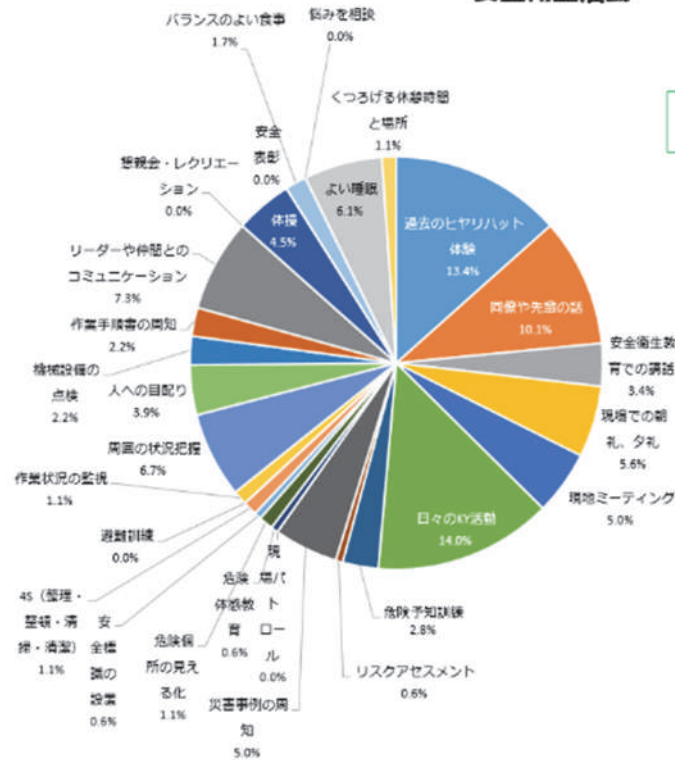


	現場平均	全国平均
知識経験の活用	2.71	2.91
体力・運動神経	2.67	2.78
予測	2.44	2.68
予感	2.29	2.45
周囲に注意	2.76	3.01
とっさの機転	2.7	2.7
周囲からの声掛け	2.16	2.43
安全帯等保護具	1.94	2.3
警告・ブザー等	1.76	1.97
偶然	2.15	2.24

コメント

- ・ 全国平均並みであるのは「とっさの機転」。

安全衛生活動



事故や災害に至らず直前で回避するのに「最も役立った」と考えられる現場での活動は？

順位	%	活動
1	14.0	日々のKY活動
2	13.4	過去のヒヤリハット体験
3	10.1	同僚や先輩の話
4	7.3	リーダーや仲間とのコミュニケーション

この現場で組織的レジリエンス能力を高めるために必要な安全衛生活動の選択 (レジリエンス能力等と安全衛生活動の関連表)



	全年度平均点	2.68	2.45	3.01	2.78	2.7	2.91	2.43	2.3	1.97	2.24	
	現場平均点	2.44	2.39	2.76	2.67	2.7	2.71	2.56	1.94	1.76	2.15	
	強化が必要な項目	4	7	3	8	10	6	2	1	3	9	
レジリエンス	予測	注視	対応	学習	外的要因							
安全衛生活動	手帳	手帳	現場の注意	体力・運動習慣	とっさの備忘	知識経験の活用	関係からの声掛け	安全衛生管理員	警告・ブザー等	偶然	活動評価の優先順位	
No.1 過去のヒヤリハット体験						○					25	
No.2 同僚・先輩の話						○	×	×			15	
No.3 安全衛生教育	○		×				×	×	○		7	
No.4 朝礼・夕礼			×				×	×	○		3	
No.5 現場ミーティング			×			○	×	×			11	
No.6 日々のKY活動	○		×			○	×	×			3	
No.7 KYT	○		×	○	○		×	×	○		7	
No.8 リスクアセスメント	○		×			○		×			11	
No.9 災害事例周知	○		×		○	○	×	×	○		1	
No.10 現場/パトロール			×				×	×			17	
No.11 危険体感教育			×				×	×	○		23	
No.12 危険箇所見える化	○		×				×	×			11	
No.13 安全標識設置	○		×	○		○	×	×	○		3	
No.14 4S	○		×	○		○	×	×			7	
No.15 避難訓練			×				×	×	○		17	
No.16 作業状況の監視			×				×	×			17	
No.17 周回への状況把握	○		×	○	○	○	×	×			11	
No.18 人への目配り	○	○	×	○	○	○	×	×			3	
No.19 機械設備の点検			×				×	×	○		15	
No.20 作業手順書の周知	○		×			○	×	×	○		7	
No.21 コミュニケーション	○		×	○	○	○	×	×			1	
No.22 懇談会・レク				○		○	×	×	○		17	
No.23 休養							×	×	○		17	
No.24 安全表彰							×	×	○		17	
No.25 休憩時間・場所											25	
No.26 バランス食事					○						25	
No.27 悩み相談											25	
No.28 睡眠			×	○							23	

	Cohen's d	得点
○	0.7-0.79	1
◎	0.8-0.99	2
☆	1.0-	3

※「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」分析結果に基づき、レジリエンス能力と安全衛生活動の関連表を作成。（調査結果分析については、渡辺和広、鳥居保崇：令和元年度建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書、2020.3による）

新ヒヤリハット報告の集計結果からわかること

Safety I

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のヒヤリハットの背後要因をみると、全国平均を下回りその差が大きい項目として、

●「疲労感」「不安感」「抑うつ感（ゆううつな気分等）」「身体愁訴（食欲がない、よく眠れない等）」「同僚の支援」が挙げられます。

Safety II

この現場で新ヒヤリハット報告を提出していただいた方のレジリエンス能力等を全国平均と比べてみると、全国平均を下回りその差が大きい順に

●1位：外的要因（安全帯等保護具）
●2位：外的要因（周囲からの声掛け）
●3位：注視（周囲に注意） となりました。

現場での具体的な対応

ヒヤリハットをできる限り「減らす」には、1つの方法として次のことが考えられます。

●現場全体のストレス状態を把握するために、無記名ストレスチェックを活用した職場環境改善を実施する。
●心理的ストレス反応を低減するために効果的な取組について、現場の意見を聞きながら無記名ストレスチェックに基づく職場環境改善シートを作成しましょう。
●ヨコのつながり（同僚の支援）を増やす活動を行う。

ヒヤリハットが事故や災害に至らず直前で回避するのに役立つレジリエンス能力等を組織としてさらに高めるには、次の活動を現場で工夫して実施するとよいでしょう。

●1位：災害事例の周知、コミュニケーション
●3位：朝礼・夕礼、日々のKY活動、安全標識の設置、日々の目配り

現場の実態に即して、効果的な対策を検討しましょう。

7

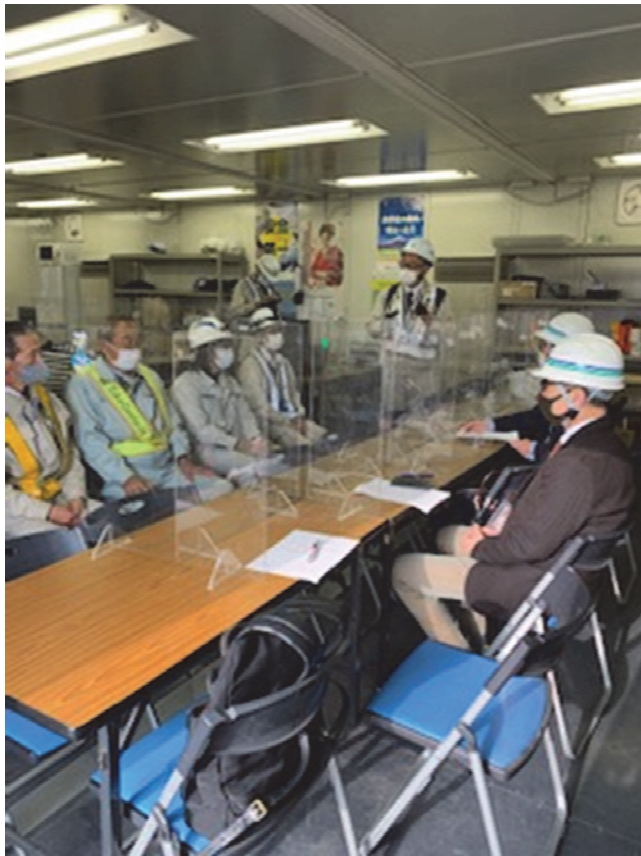
● ヒヤリハット報告様式の試行実施結果（ヒアリング）

1) 実施概要

実施日	令和2年11月27日
対象者	●●建設株式会社●●作業所（土木）に従事する元請社員2名及び協力会社各4名 計6名
立合者	鳥居塚崇委員、建防災事務局2名

2) 実施手順

回答済みのヒヤリハット報告様式に即して、対象者1人あたり10～15分程度、ヒアリングを行った。

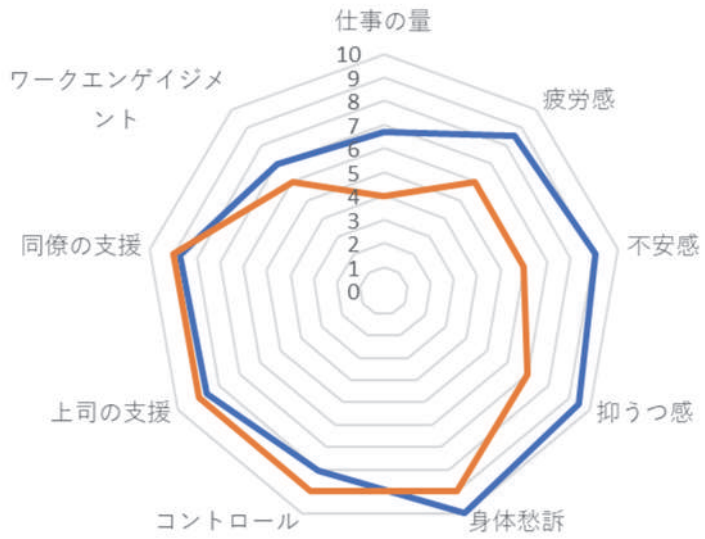


3) ヒアリング調査の結果

① 元請社員 20 代

いつ	昼過ぎ
体験 (災害の型)	11 交通事故になりそうだった
ヒヤリハットの 内容	車両の誘導のため連絡車（ライトバン）で空港ゲートへ向かっていた時、ウトウトしていて居眠り運転しそうになった
災害になった 場合のレベル	3
発生原因	設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4 連絡・連携ミス 4 確認不足 4 よく考えず行動 4 考え事 4 よく見えない 4
対策	・ 運転中に眠気を起こさないよう、イヤークリップ等の対策グッズを活用したり、ガムを噛んだりする ・ 一時停止する時等のタイミングで大声を出す

ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 <table><thead><tr><th>理由</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>2.5</td><td>3.0</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>2.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>予測</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>予感</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>2.5</td><td>3.0</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>2.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr></tbody></table>	理由	全国平均	回答者	知識経験の活用	2.5	3.0	体力・運動神経	2.5	2.5	予測	2.0	1.0	予感	2.0	1.0	周囲に注意	2.5	3.0	とっさの機転	2.5	2.5	周囲からの声掛け	2.0	1.0	安全帯等保護具	2.0	1.0
理由	全国平均	回答者																										
知識経験の活用	2.5	3.0																										
体力・運動神経	2.5	2.5																										
予測	2.0	1.0																										
予感	2.0	1.0																										
周囲に注意	2.5	3.0																										
とっさの機転	2.5	2.5																										
周囲からの声掛け	2.0	1.0																										
安全帯等保護具	2.0	1.0																										
意見	・ 普段から「まずい」と思ったら停止するように心掛けていることで、リカバリーできた ・ ヒヤリハットが起きやすいのは、勝手な判断をしたり、予定外の作業を行う時である ・ VR 教育は、作業や現場に慣れていない人が恐怖体験をすることで危険を理解できる点で効果がある。話を人から聞くよりも自分で体験するから印象に残りやすい																											
直前に回避するのに役立った活動	21 リーダーや仲間とのコミュニケーション																											

背後要因	 — 全国平均 — 回答者平均 仕事の量 疲労感 不安感 抑うつ感 身体愁訴 コントロール 上司の支援 同僚の支援 ワークエンゲイジメント
意見	・ 空港内の移動のため、道が単調で注意が散漫になる ・ 疲れがたまっており、ぼーとしていた。仕事が忙しく十分な睡眠がとれていなかった ・ 常時、緊張が強いられる場面だった ・ イライラする時、ヒヤリハットに繋がりやすい。視野が狭く危険なポイントに気づけないことがある ・ 周囲の声掛けによって救われる場面もある

② 元請社員 30代

いつ	7 時頃
体験 (災害の型)	8 自分からぶつかりそうになった
ヒヤリハット の内容	海上の現場の状況を確認するために車を停止し確認後、再び車に乗り込み、発進した時、場内のパラペット（壁）の隔壁基礎のコンクリートブロックに激突しそうになった
災害になった 場合のレベル	1
発生原因	確認不足 1 よく考えず行動 1

	考え事 1 よく見えない 1 設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4 連絡・連携ミス 4
対策	・ 車両駐車場所の周囲の状況を確認する ・ 作業後、乗車前に再度、周囲を確認する（指差し確認のこと）
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 知識経験の活用 体力・運動神経 予測 予感 周囲に注意 とっさの機転 周囲からの声掛け 安全帯等保護具 警告・ブザー等 偶然
意見	・ 車両停車の場所に気をとられていて、周りの状況を確認していなかった ・ 次の作業のことを考えていて気が散っていた ・ コンクリートブロックは運転席に着座した状態では見えないが、偶然、座位を変えた時にコンクリートブロックの天端が見えたので車を発進させなかった。そのため、ぶつからずに済んだ ・ コンクリートブロックの天端＝白い物＝危ないと認識することができ、とっさに対応することができた ・ 異変を感じた時はスルーせずに立ち止まることが重要。異変について、若いころは見えていなかったが、最近は見えるようになってきた ・ VR 教育は死角に入った時等、リアルな恐怖体験ができる点で有益であるが、従来のスクリーンを見せる研修と併用しながら教育することが重要 ・ 例えば、死角に関する体感教育が有効であった。玉掛作業においてクレーンオペレーターにはその状況が見えないことを知れたのは為になった
直前に回避するのに役立った活動	17 周囲の状況把握

背後要因	— 全国平均 — 回答者平均 仕事の量 疲労感 不安感 抑うつ感 身体愁訴 コントロール 上司の支援 同僚の支援 ワークエンゲイジメント
意見	・ ストレスが溜まっている時は人の話を聞きたくない状況になる。疲れは集中力を散漫にさせることからヒヤリハットに影響する。 ・ 無事故で1日を終わることができると仕事へのモチベーションが上がる ・ 現場全体の雰囲気、個人の雰囲気から事故を起こしやすいかどうかかわかる。声に張りがなく暗い雰囲気の人は危ない ・ 周囲の声掛けはヒヤリハット回避に役立つ可能性がある ・ 現場では、人の話を怒らず肯定的に受容するように心掛けている

③ 協力会社（薬液注入工） 30代

いつ	午後1時頃
体験 (災害の型)	1 墜落しそうになった
ヒヤリハット の内容	薬液注入作業をしている時、次の作業の確認のため図面を見ながら歩いていたところ、法面から落ちそうになったが、防護柵に気づき、落ちなかった
災害になった 場合のレベル	
発生原因	確認不足 1 よく考えず行動 1 考え事 1 よく見えない 1 設備・機械 2

	作業環境 2 工具・保護具 3 作業方法 3 連絡・連携ミス 4
対策	
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 知識経験の活用 体力・運動神経 予測 予感 周囲に注意 とっさの機転 周囲からの声掛け 安全帯等保護具 警告・ブザー等 偶然
意見	・ 図面を見ながら姿勢を変えたため落ちそうになった ・ 防護柵が見えて危ないと認識できたため、回避することができた ・ 大きく歩を踏み出さずに歩いていたことも回避できた一因である ・ 長年仕事をしていて無意識的に周囲に気を配る術が身についた ・ 人の話を聞いたり、過去の事例から学ぶことは多く、危ないところは積極的に経験を共有するようにしている ・ 研修よりも休憩等の場面で直接、危ない場面を伝える方が伝わりやすい ・ 整理整頓がなされていない現場は「危ない」と感じる。現場のなかに様々な注意喚起の表示がなされていると事故回避に役立つ ・ 安全に1日の作業を終えるために、1日一回は皆に声を掛け話をし、作業環境、人への目配りを欠かさないようにしている
直前に回避するのに役立った活動	12 危険箇所の見える化



④ 協力会社（地盤改良工） 50代

いつ	昼食後
体験 (災害の型)	2 転倒しそうになった
ヒヤリハット の内容	重機を誘導中、敷き鉄板の下の砂利がえぐられているところでつまづき、転倒しそうになった
災害になった 場合のレベル	1
発生原因	確認不足 2 設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4 連絡・連携ミス 4 考え事 4 よく見えない 4 よく考えず行動ー

対策	・ 足元に十分注意して作業する ・ 鉄板と砂利の間を平にならす																														
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	未回答																														
意見	・ 砂利と鉄板の間に隙間があることを気にしていたことでリカバリーできた ・ 若い頃、とび職をしていたこともあり、バランス感覚がある方なので、とっさに対応できた																														
直前に回避するのに役立った活動	4 現場での朝礼、夕礼																														
背後要因	— 全国平均 — 回答者平均 <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>仕事の量</td><td>7.5</td><td>11.5</td></tr><tr><td>疲労感</td><td>6.5</td><td>10.5</td></tr><tr><td>不安感</td><td>5.5</td><td>9.5</td></tr><tr><td>抑うつ感</td><td>5.5</td><td>9.5</td></tr><tr><td>身体愁訴</td><td>6.5</td><td>10.5</td></tr><tr><td>コントロール</td><td>6.5</td><td>10.5</td></tr><tr><td>上司の支援</td><td>5.5</td><td>9.5</td></tr><tr><td>同僚の支援</td><td>5.5</td><td>9.5</td></tr><tr><td>ワークエンゲイジメント</td><td>6.5</td><td>10.5</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者平均	仕事の量	7.5	11.5	疲労感	6.5	10.5	不安感	5.5	9.5	抑うつ感	5.5	9.5	身体愁訴	6.5	10.5	コントロール	6.5	10.5	上司の支援	5.5	9.5	同僚の支援	5.5	9.5	ワークエンゲイジメント	6.5	10.5
項目	全国平均	回答者平均																													
仕事の量	7.5	11.5																													
疲労感	6.5	10.5																													
不安感	5.5	9.5																													
抑うつ感	5.5	9.5																													
身体愁訴	6.5	10.5																													
コントロール	6.5	10.5																													
上司の支援	5.5	9.5																													
同僚の支援	5.5	9.5																													
ワークエンゲイジメント	6.5	10.5																													

意見	・ 気のゆるみは事故に繋がりやすい ・ お互い声を掛け合うことは、事故回避に役立つ ・ VR 教育は理解していることであっても再度、注意喚起をするという意味で大事な教育である
----	---

⑤ 協力会社（地盤改良工）70 代

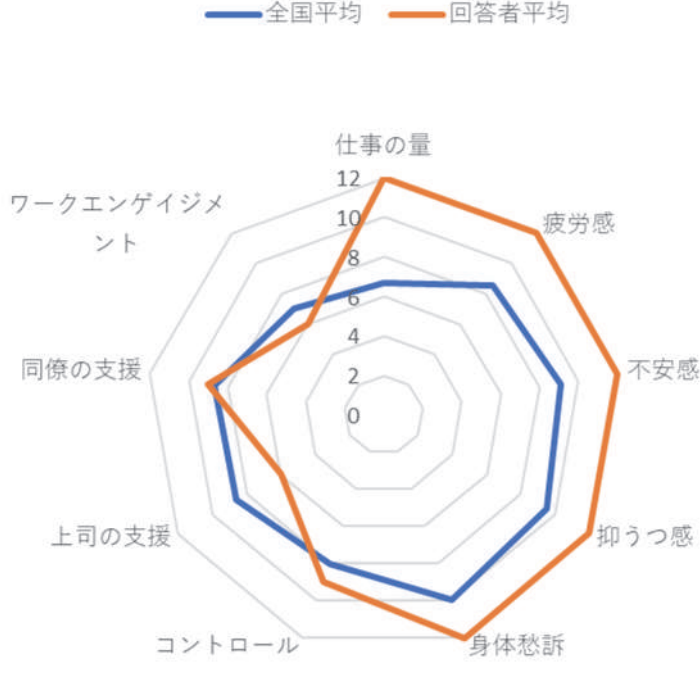
いつ	仕事開始 1 時間後																																	
体験 (災害の型)	1 墜落しそうになった																																	
ヒヤリハット の内容	散水車に給水をする際、散水車後部のはしごに乗ってタンク上部の蓋を開けて給水ホースを入れようとした時、ホースの重さで引っ張られ、墜落しそうになった																																	
災害になった 場合のレベル	4																																	
発生原因	確認不足 1 作業方法 2 よく考えず行動 2 設備・機械 4 工具・保護具 4 作業環境 4 連絡・連携ミス 4 考え事 4 よく見えない 4																																	
対策	・ ホースの重量等を考えて、引っ張られても平気な状態にしておく（どこかに掴まっていること）																																	
ヒヤリハット が事故災害に 至らなかった 理由	— 全国平均 — 回答者 <table><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>2.5</td><td>3.0</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>2.0</td><td>2.5</td></tr><tr><td>予測</td><td>1.5</td><td>2.0</td></tr><tr><td>予感</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>1.5</td><td>2.0</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>1.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>警告・ブザー等</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td>偶然</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者	知識経験の活用	2.5	3.0	体力・運動神経	2.0	2.5	予測	1.5	2.0	予感	1.0	1.5	周囲に注意	1.5	2.0	とっさの機転	1.0	1.5	周囲からの声掛け	1.0	1.5	安全帯等保護具	1.0	1.5	警告・ブザー等	1.5	1.0	偶然	2.0	1.5
項目	全国平均	回答者																																
知識経験の活用	2.5	3.0																																
体力・運動神経	2.0	2.5																																
予測	1.5	2.0																																
予感	1.0	1.5																																
周囲に注意	1.5	2.0																																
とっさの機転	1.0	1.5																																
周囲からの声掛け	1.0	1.5																																
安全帯等保護具	1.0	1.5																																
警告・ブザー等	1.5	1.0																																
偶然	2.0	1.5																																

意見	・ いつもよりホースが長く、想像以上に重かったため、引っ張られ落ちそうになった ・ 自分は体重も軽く、長年の経験から「もしかしたら」引っ張られるかもしれないという予感があり、とっさにホースを放して蓋にしがみつき、事なきを得た ・ 事故が起きた時、危ない場面に遭遇した時は雑談レベルで必ず共有している																														
直前に回避するのに役立った活動	7 危険予知訓練																														
背後要因	—— 全国平均 —— 回答者平均 <table><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>仕事の量</td><td>7.5</td><td>11.5</td></tr><tr><td>疲労感</td><td>7.0</td><td>10.5</td></tr><tr><td>不安感</td><td>6.5</td><td>10.0</td></tr><tr><td>抑うつ感</td><td>6.0</td><td>9.5</td></tr><tr><td>身体愁訴</td><td>5.5</td><td>9.0</td></tr><tr><td>コントロール</td><td>5.0</td><td>8.5</td></tr><tr><td>上司の支援</td><td>4.5</td><td>8.0</td></tr><tr><td>同僚の支援</td><td>4.0</td><td>7.5</td></tr><tr><td>ワークエンゲイジメント</td><td>3.5</td><td>7.0</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者平均	仕事の量	7.5	11.5	疲労感	7.0	10.5	不安感	6.5	10.0	抑うつ感	6.0	9.5	身体愁訴	5.5	9.0	コントロール	5.0	8.5	上司の支援	4.5	8.0	同僚の支援	4.0	7.5	ワークエンゲイジメント	3.5	7.0
項目	全国平均	回答者平均																													
仕事の量	7.5	11.5																													
疲労感	7.0	10.5																													
不安感	6.5	10.0																													
抑うつ感	6.0	9.5																													
身体愁訴	5.5	9.0																													
コントロール	5.0	8.5																													
上司の支援	4.5	8.0																													
同僚の支援	4.0	7.5																													
ワークエンゲイジメント	3.5	7.0																													
意見	・ 仕事上のストレスは独り言を言う等して日頃から発散している ・ 何か集中しすぎると危ない場面がある ・ 一人作業のため、仲間同士での声掛けはない																														

⑥ 協力会社（地盤改良工）60代

いつ	10時頃
体験 (災害の型)	2 転倒しそうになった

ヒヤリハットの内容	トラックに積んだ削孔機を確認中、隣の車両の機械を見ようとした時、伸び上がろうとしてトラックのあおりに片足を掛け、あおりに取り付けていた昇降ハシゴに掴まったところ、ハシゴが動いて倒れそうになった																																	
災害になった場合のレベル	4																																	
発生原因	確認不足 1 設備・機械 2 よく考えずに行動 2 工具・保護具 4 作業環境 4 作業方法 4 連絡・連携ミス 4 考え事 4 よく見えない 4																																	
対策	・ 昇降ハシゴの取付状態をよく確認する ・ 無精せず、隣の車両に移動する																																	
ヒヤリハットが事故災害に至らなかった理由	— 全国平均 — 回答者 <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>全国平均</th><th>回答者</th></tr></thead><tbody><tr><td>知識経験の活用</td><td>3.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>体力・運動神経</td><td>3.0</td><td>2.0</td></tr><tr><td>予測</td><td>2.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>予感</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>周囲に注意</td><td>2.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>とっさの機転</td><td>1.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>周囲からの声掛け</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>安全帯等保護具</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>警告・ブザー等</td><td>2.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>偶然</td><td>3.0</td><td>2.0</td></tr></tbody></table>	項目	全国平均	回答者	知識経験の活用	3.5	2.5	体力・運動神経	3.0	2.0	予測	2.5	1.5	予感	2.0	1.0	周囲に注意	2.5	1.5	とっさの機転	1.5	2.5	周囲からの声掛け	2.0	1.0	安全帯等保護具	2.0	1.0	警告・ブザー等	2.0	1.0	偶然	3.0	2.0
項目	全国平均	回答者																																
知識経験の活用	3.5	2.5																																
体力・運動神経	3.0	2.0																																
予測	2.5	1.5																																
予感	2.0	1.0																																
周囲に注意	2.5	1.5																																
とっさの機転	1.5	2.5																																
周囲からの声掛け	2.0	1.0																																
安全帯等保護具	2.0	1.0																																
警告・ブザー等	2.0	1.0																																
偶然	3.0	2.0																																
意見	・ 動かないと思っていたハシゴが動いたことで、ヒヤリとした ・ 倒れそうになったが、掴まる場所（削孔機）があったことで、本能的に対応できた ・ VR 教育は刺激が強すぎてあまり気持ちのいいものではない。事故の話をネガティブに伝えるだけでなく、別の視点も取り入れた方が良い																																	
直前に回避するのに役立った活動	6 日々の KY 活動																																	

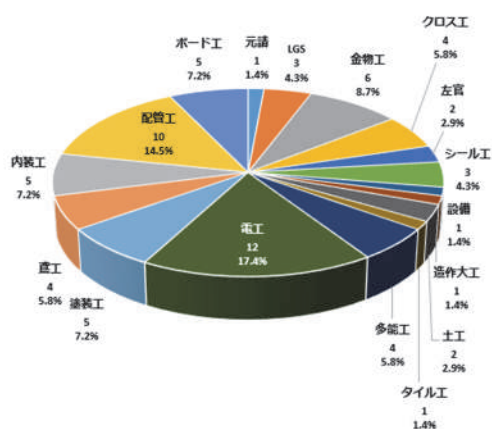
背後要因	 — 全国平均 — 回答者平均 仕事の量 疲労感 不安感 抑うつ感 身体愁訴 コントロール 上司の支援 同僚の支援 ワークエンゲイジメント 12 10 8 6 4 2 0
意見	・ ヒヤリハットは単純なこと、注意していないことで起きやすく、体調にも関係がある ・ 思い込みをもったまま、仕事をすると危ない ・ 仕事中はタイミングを見て気をつける箇所について声掛けをするようにしている

2. 4 A 建設 δ 現場

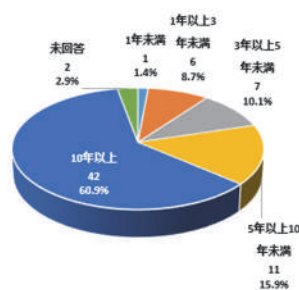
●●建設における「新ヒヤリハット報告」試行実施（調査票Ver.1.3）

元請会社名	●●建設株式会社		
工事名	●●老人ホーム・クリニック複合施設新築工事		
工期	着工：2020.1	竣工：2021.4	（15か月）
実施期間	2020年12月1日～同年12月22日		
回収数	元請：1枚	協力会社：68枚	合計69枚

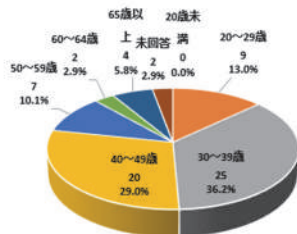
職種（N=69）自由記述



経験年数（N=69）自由記述

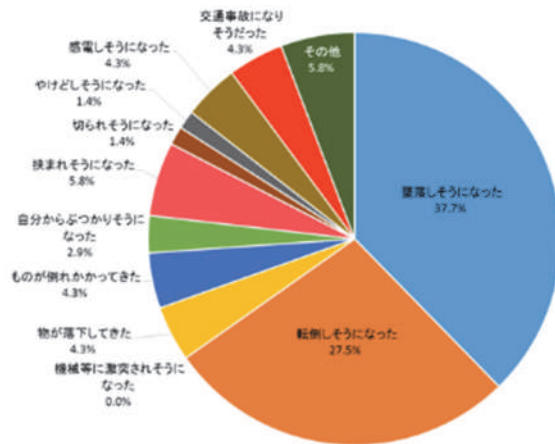


年齢（N=69）自由記述

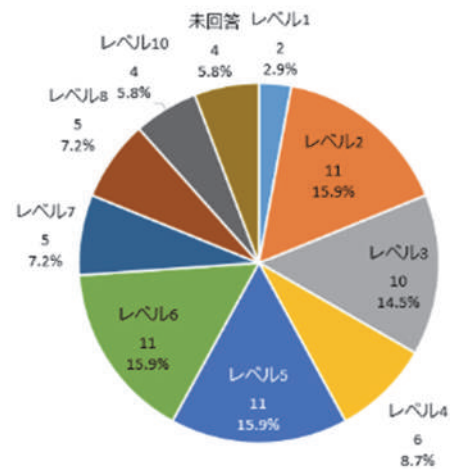


1

ヒヤリハット体験の内容（N=69）M.A.

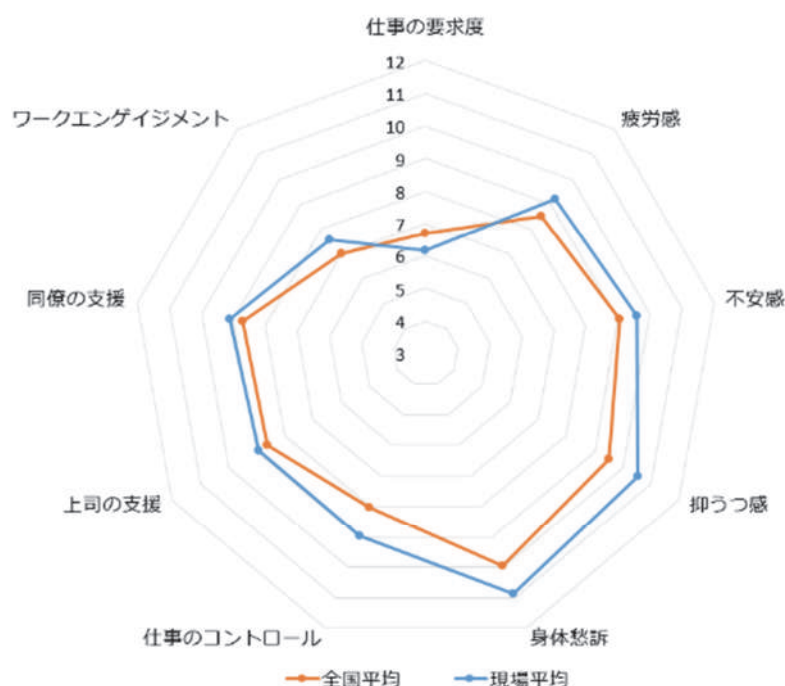


災害のレベル（N=69）単一



2

ヒヤリハット体験者の背後要因分析（全国平均（換算値）※2との比較）

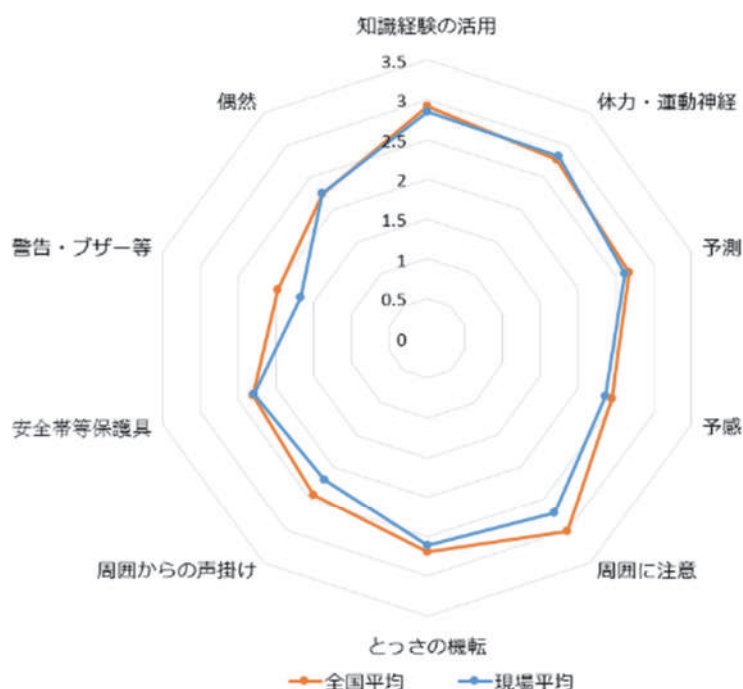


	現場平均 (換算値)	全国平均 (換算値)
仕事の要求度	6.16	6.69
疲労感	9.21	8.54
不安感	9.58	9.06
抑うつ感	10.53	9.5
身体愁訴	10.86	9.96
仕事のコントロール	8.97	8.04
上司の支援	8.94	8.6
同僚の支援	9.12	8.72
ワークエンゲイジメント	7.59	7.02

コメント

- ・ 全国平均より「良い」のは、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴、仕事のコントロール、上司の支援、同僚の支援、WE。
- ・ 全国平均より「悪い」のは、仕事の要求度。

ヒヤリハット体験者のレジリエンスカ分析（全国平均※3との比較）

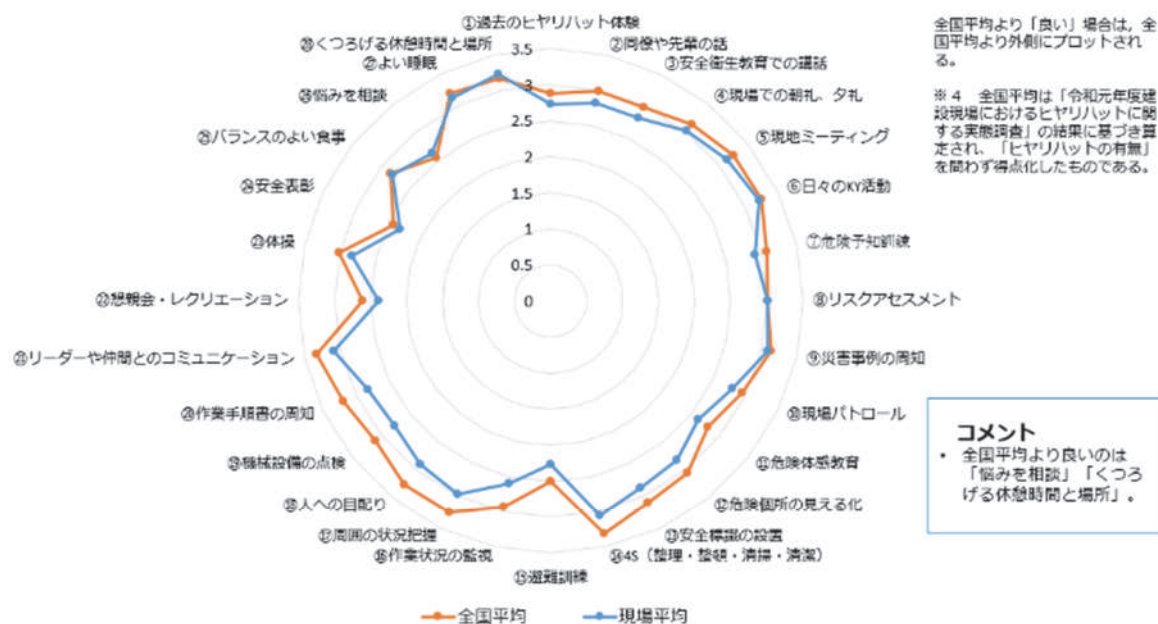


	現場平均	全国平均
知識経験の活用	2.85	2.91
体力・運動神経	2.82	2.78
予測	2.62	2.68
予感	2.35	2.45
周囲の注意	2.72	3.01
とっさの機転	2.62	2.7
周囲からの声掛け	2.19	2.43
安全帯等保護具	2.29	2.3
警告・ブザー等	1.68	1.97
偶然	2.25	2.24

コメント

- ・ 全国平均より「良い」のは「体力・運動神経」。

事故や災害に至らず直前で回避するのに役立ったと考える安全衛生活動（全国平均※4 との比較）



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
現場平均	2.74	2.82	2.82	3.02	3.14	3.21	2.91	3.02	3.09	2.80	2.63	2.82	2.88	3.06	2.27	2.60	2.97	2.89	2.77	2.82	3.09	2.39	2.82	2.31	2.81	2.63	3.14	3.22
全国平均	2.88	2.98	2.98	3.14	3.24	3.24	3.07	3.02	3.14	2.94	2.80	3.05	3.11	3.31	2.51	2.93	3.26	3.25	3.10	3.20	3.32	2.61	3.01	2.43	2.84	2.55	3.20	3.18

この現場で組織的レジリエンス能力を高めるために必要な安全衛生活動の選択（レジリエンス能力等と安全衛生活動の関連表）

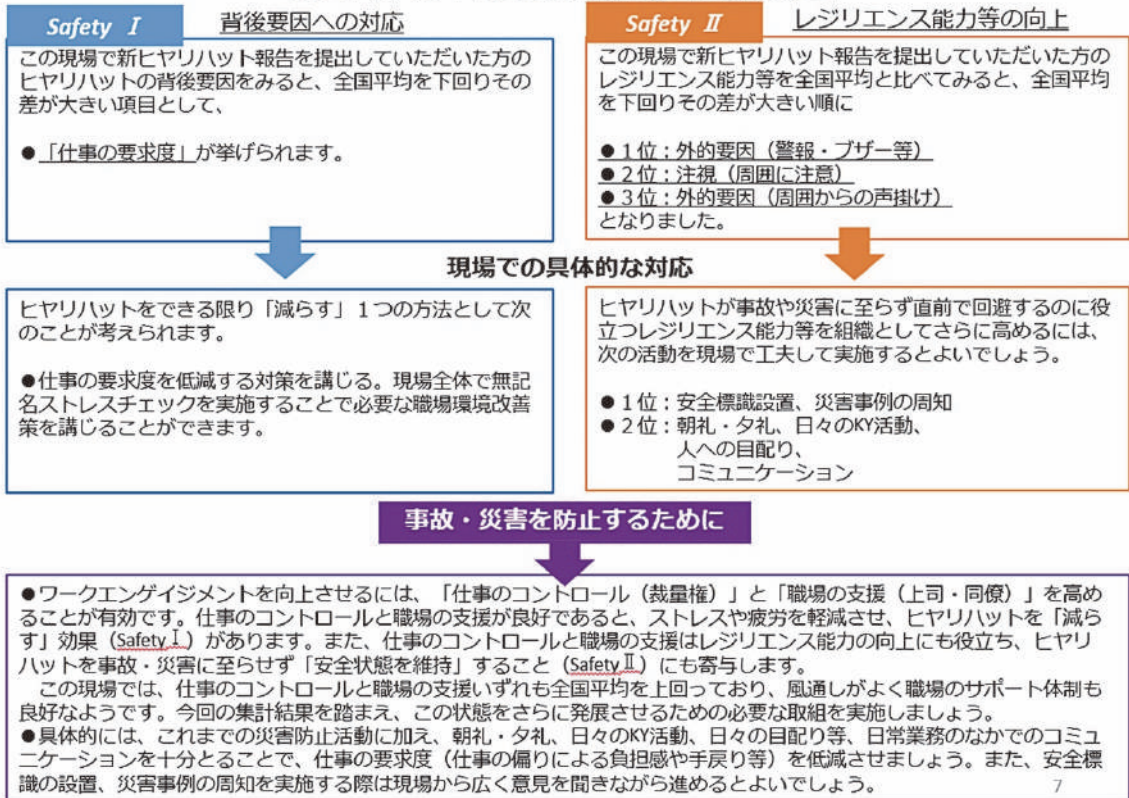


	2.68	2.45	3.01	2.76	2.7	2.91	2.43	2.3	1.97	2.24
現場平均点	2.62	2.31	2.72	2.82	2.62	2.85	2.19	2.29	1.66	2.25
差	△0.06	△0.10	△0.29	0.04	△0.08	△0.06	△0.24	△0.01	△0.29	0.01
優位が有意な項目	6	4	2	10	5	6	3	8	1	9

レジリエンスと安全衛生活動	学習		予測		対処		注視		外的要因		得点
	予測	対処	注視	学習	対処	注視	学習	対処	注視	学習	
No.1 過去のヒヤリハット体験				○							20
No.2 同僚や先輩の話				○							15
No.3 安全衛生教育での講話	○		○								7
No.4 朝礼・タラ			○								3
No.5 現場ミーティング			○								12
No.6 日々のKY活動	○		○								3
No.7 KYT	○		○								7
No.8 リスクアセスメント	○		○								15
No.9 災害事例の周知	○		○								1
No.10 現場パトロール											20
No.11 危険予知訓練											21
No.12 危険箇所見える化	○		○								12
No.13 安全標識の設置	○		○								1
No.14 4S	○		○								7
No.15 避難訓練											15
No.16 作業状況の監視			○								21
No.17 高所への注意喚起	○		○								7
No.18 人への配慮	○	○	○								3
No.19 機械設備の点検											12
No.20 作業手順書の周知	○		○								7
No.21 コミュニケーション	○		○								3
No.22 懇話会・レク											15
No.23 休養			○								15
No.24 安全表彰											15
No.25 バランスのよい食事											20
No.26 悩み相談											21
No.27 睡眠											21
No.28 休養時間・場所			○								21

※5 「令和元年度建設現場におけるヒヤリハットに関する実態調査」分析結果に基づき、レジリエンス能力と安全衛生活動の関連表を作成。（調査結果分析については、渡辺和広、島田康崇：令和元年度建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書、2020.3による）

新ヒヤリハット報告の集計結果からわかること



3. 新ヒヤリハット報告様式の変更

前掲 2 の試行実施の結果から、新ヒヤリハット報告の様式を、令和元年報告書で提示した Ver1 から Ver1.2、Ver1.3、Ver1.4、Ver1.5 と随時変更することとした。変更の経緯を次に示す。

3. 1 Ver. 1.2

No.1.文言変更

【表面】

新ヒヤリハット報告 Ver1.2	
ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。あなたが体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。	
職種:	記入日: 年 月 日
年齢:	経験年数:

No.2.タイトル変更

No.3.所属会社削除

「ヒヤリハット」したこと

いつ	月 頃	どこで
1 どのような体験	4 ものが落下してきた	9 やけどしそうになった
2 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	10 感電しそうになった
3 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	11 交通事故になりそうだった
4 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	12 その他()
5 ものが落下してきた	8 切られそうになった	

体験の状況図
(図は別紙記載でも可)

「ヒヤリハット」の内容

どのような作業で?

何をしようとしていた時?

どうなったか?

No.4.

文言を 3 つに
わけた

体験の状況
図欄を追加

「ヒヤリハット」がもし災害になっていた場合のレベル

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
無休業災害									死亡災害

No.5.

1 休業災害→
無休業災害
へ変更

5 休業災害を
追記

No.6.

①の 4 項目削除

①~⑦を 4 件法と
する

思いつく原因等(当てはまる番号に1つ〇)

①	＜発生原因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
	設備・機械に問題があった	1	2	3	4
	工具・保護具に問題があった	1	2	3	4
	現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	1	2	3	4
	作業方法に問題があった	1	2	3	4
	連絡・連携ミスがあった	1	2	3	4
	確認が不足していた	1	2	3	4
	よく考えずに行動してしまった	1	2	3	4
	考え事をしていた	1	2	3	4
	よく見えなかった	1	2	3	4
②	＜背後要因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
	非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4
	時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4
	一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4
③	＜あなたの状態＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
	ひどく疲れた	1	2	3	4
	へとへとだ	1	2	3	4
	だるい	1	2	3	4
	気がはりつめている	1	2	3	4
	不安だ	1	2	3	4
	落ち着かない	1	2	3	4
	ゆううつだ	1	2	3	4
	何をやるのも面倒だ	1	2	3	4
	気分が晴れない	1	2	3	4
	食欲がない	1	2	3	4
	よく眠れない	1	2	3	4

「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)

表面にも記入してください

【裏面】

④「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由(当てはまる番号に1つ〇)

	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にある
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	4
体力があった(運動神経がよかった)	1	2	3	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	4
何かが起こりそうな予感がした	1	2	3	4
周りに注意を払っていた	1	2	3	4
とっさの機転が利いた(知恵が働いた)	1	2	3	4
リーダーや仲間から声を掛けられた(とっさに注意された)	1	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	4
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	1	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	3	4

「ヒヤリハット」が事故や災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる活動についてうかがいます(当てはまる番号に1つ〇)

1 過去のヒヤリハット体験	11 危険体感教育	21 リーダーや仲間とのコミュニケーション
2 同僚や先輩の話	12 危険箇所の見える化	22 懇親会・レクリエーション
3 安全衛生教育での講話	13 安全標識の設置	23 体操
4 現場での朝礼、夕礼	14 4S(整理・整頓・清掃・清潔)	24 安全表彰
5 現地ミーティング	15 避難訓練	25 バランスのよい食事
6 日々のKY活動	16 作業状況の監視	26 悩みを相談
7 危険予知訓練	17 周囲の状況把握	27 よい睡眠
8 リスクアセスメント	18 人への目配り	28 くつろげる休憩時間と場所
9 災害事例の周知	19 機械設備の点検	
10 現場ハットロール	20 作業手順書の周知	

No.7.

28項目を単一方式として追加

⑤あなたの仕事についてうかがいます(当てはまる番号に1つ〇)

	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事ができた	1	2	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	2	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	2	3	4

⑥あなたの周りの方々にについてうかがいます(当てはまる番号に1つ〇)

	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4

⑦あなたの仕事についてうかがいます(当てはまる番号に1つ〇)

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちがはつらつとしている	1	2	3	4
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	4
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

- ・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役にたてられます。
- ・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。
- ・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者●●まで連絡ください。
- ・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

氏名

連絡先

No.8.

説明文(氏名、
連絡先記入欄)
を追記

No.	項目	Ver.1 (令和元年報告書)	Ver.1.2
1	説明文	あなたの「ヒヤリハット」は事故・災害に至らなかったラッキーな体験です！	ヒヤリハットは・・・一面もあります。あなたが体験したヒヤリハットを・・・記入してください。
2	タイトル	建災防方式「ヒヤリハット」報告	新ヒヤリハット報告
3	属性	所属会社、職種、経験年数、年齢	職種、経験年数、年齢
4	ヒヤリハットしたこと	どのような作業をしているとき、どのようなヒヤリハットがあったか	どのような作業で？ 何をしようとしていた時？ どうなったか？
		無し	体験の状況図欄を追加
5	災害になった場合のレベル	1 休業災害	・ 1 無休業災害、5 休業災害 ・ ヒヤリハットの内容の下段へ移動
6	思いつく原因等	・ 思いつく原因 13 項目 ・ 思いつく原因、ヒヤリハットが事故・災害に至らなかった理由、あなたの状態（心理的反応）、あなたの周りの方々（職場の支援）、あなたの仕事（ワーク・エンゲイジメント）を 4 件法とする	・ 「非常にたくさんの仕事をしなければならなかった、自分のペースで仕事ができなかった、職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる、現場の雰囲気は友好的である」の 4 項目を削除 ・ 発生原因、背後要因、あなたの状態（心理的反応）、ヒヤリハットが事故・災害に至らなかった理由、あなたの仕事（仕事のコントロール）、あなたの周りの方々（職場の支援）、あなたの仕事（ワーク・エンゲイジメント）を 4 件法とする
7	直前で回避するのに役立つ活動	無し	直前で回避するのに役立った活動 28 項目を単一選択式として追加
8	説明文	無し	この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください（氏名、連絡先記入欄）。

3. 2 Ver.1.3

新ヒヤリハット報告 Ver1.3	
ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。 あなたが過去1年間に 体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。 記入日: 年 月 日	
職種:	経験年数:
年齢:	

No.1.
過去1年間を追記

「ヒヤリハット」したこと			
いつ () 月 頃	どこで (この現場、他の現場)	どのような場所で ()	
どのような体験か(当てはまるものを全てに○して下さい)			体験の状況図 (図は別紙記載でも可)
1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった	
2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった	
3 機械等に衝突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった	
4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()	
「ヒヤリハット」の内容			
どのような作業で?			
何をしようとしていた時?			
どうなったか?			
発生原因と考えられるものを全てに○して下さい			
1 設備・機械に問題があった	5 連絡・連携ミスがあった		
2 工具・保護具に問題があった	6 確認が不足していた		
3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	7 よく考えずに行動してしまった		
4 作業方法に問題があった	8 考え事をしていた		
	9 よく見えなかった		

No.2.
どこで、どのような
場所を追記

No.3.
多肢選択式に変更
配置を「ヒヤリハッ
トの内容」の下段へ
移動

「ヒヤリハット」がもし災害になっていたとしたら、どのレベルに該当しますか	
← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 →	無休業災害 死亡災害
「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)	

No.4.
災害になっていた
場合のレベルの下
に配置

以下、当てはまる番号に1つ○して下さい(各項目で選択肢が異なっているので、よく読んで回答してください)

	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
① <背後要因>				
非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4
時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4
一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4
② <あなたの状態>				
ひどく疲れた	1	2	3	4
へとへとだ	1	2	3	4
だるい	1	2	3	4
気がはりつめている	1	2	3	4
不安だ	1	2	3	4
落ち着かない	1	2	3	4
ゆううつだ	1	2	3	4
何をしても面倒だ	1	2	3	4
気分が晴れない	1	2	3	4
食欲がない	1	2	3	4
よく眠れない	1	2	3	4

裏面にも記入してください

③ <あなたの仕事について>	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事ができた	1	2	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	2	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	2	3	4

No.5.

①~⑥を4件法とする

④ <あなたの周りの方々について>	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4

⑤ <あなたの仕事について>	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちちははつらつとしている	1	2	3	4
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	4
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	2	3	4

⑥ <「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由>	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にあり
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	4
体力があった(運動神経がよかった)	1	2	3	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	4
何かが起こりそうな予感がした	1	2	3	4
周りに注意を払っていた	1	2	3	4
とっさの機転が利いた(知恵が働いた)	1	2	3	4
リーダーや仲間から声を掛けられた(とっさに注意された)	1	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	4
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	1	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	3	4

<「ヒヤリハット」が事故や災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる活動>

	全く なし	あまり なし	多少 ある	非常に ある
過去のヒヤリハット体験	1	2	3	4
同僚や先輩の話	1	2	3	4
安全衛生教育での講話	1	2	3	4
現場での朝礼、夕礼	1	2	3	4
現地ミーティング	1	2	3	4
日々のKY活動	1	2	3	4
危険予知訓練	1	2	3	4
リスクアセスメント	1	2	3	4
災害事例の周知	1	2	3	4
現場パトロール	1	2	3	4
危険体感教育	1	2	3	4
危険箇所の見える化	1	2	3	4
安全標識の設置	1	2	3	4
4S(整理・整頓・清掃・清潔)	1	2	3	4
避難訓練	1	2	3	4
作業状況の監視	1	2	3	4
周囲の状況把握	1	2	3	4
人への目配り	1	2	3	4
機械設備の点検	1	2	3	4
作業手順書の周知	1	2	3	4
リーダーや仲間とのコミュニケーション	1	2	3	4
懇親会・レクリエーション	1	2	3	4
体操	1	2	3	4
安全表彰	1	2	3	4
バランスのよい食事	1	2	3	4
悩みを相談	1	2	3	4
よい睡眠	1	2	3	4
くつろげる休憩時間と場所	1	2	3	4

No.6.

単一選択式から
4件法に変更

- ・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。
- ・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。
- ・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。
- ・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

氏名 _____ 連絡先 _____

ご協力ありがとうございました。

No.	項目	Ver.1.2	Ver.1.3
1	説明文	ヒヤリハットは・・・一面もあります。あなたが体験したヒヤリハットを・・・記入してください。	ヒヤリハットは・・・一面もあります。あなたが <u>過去1年間に</u> 体験したヒヤリハットを・・・記入してください。
2	ヒヤリハットしたこと	いつ 月頃	いつ () 月頃 <u>どこで (この現場・他の現場)</u> <u>どのような場所で ()</u>
3		発生原因 9 項目 4 件法	- 発生原因 9 項目多肢選択式 - 配置を「ヒヤリハットの内容」の下段へ移動
4	ヒヤリハット対策	あなたの状態（心理的反応）の下に配置	災害になったとした場合のレベルの下に配置
5	背後要因等	発生原因、背後要因、あなたの状態（心理的反応）、ヒヤリハットが事故・災害に至らなかった理由、あなたの仕事（仕事のコントロール）、あなたの周りの方々（職場の支援）、あなたの仕事（ワーク・エンゲイジメント）を 4 件法とする	背後要因、あなたの状態（心理的反応）、あなたの仕事（仕事の要求度、仕事のコントロール）、あなたの周りの方々（職場の支援）、あなたの仕事（ワーク・エンゲイジメント）、ヒヤリハットが事故・災害に至らなかった理由を 4 件法とする
6	直前で回避するのに役立つ活動	単一選択式	4 件法

3. 3 Ver.1.4

新ヒヤリハット報告 Ver1.4																																																																
ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。あなたが過去1年間に体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。																																																																
職種:		記入日: 年 月 日																																																														
年齢:		経験年数:																																																														
「ヒヤリハット」したこと																																																																
いつ () 月 頃 どこで (この現場 , 他の現場) どのような場所で ()																																																																
どのような体験か(当てはまるものに○して下さい) <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 墜落しそうになった</td> <td style="width: 33%;">5 ものが倒れかかってきた</td> <td style="width: 33%;">9 やけどしそうになった</td> </tr> <tr> <td>2 転倒しそうになった</td> <td>6 自分からぶつかりそうになった</td> <td>10 感電しそうになった</td> </tr> <tr> <td>3 機械等に激突されそうになった</td> <td>7 はさまれそうになった</td> <td>11 交通事故になりそうだった</td> </tr> <tr> <td>4 ものが落下してきた</td> <td>8 切られそうになった</td> <td>12 その他()</td> </tr> </table>				1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった	2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった	3 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった	4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()	体験の状況図 (図は別紙記載でも可)																																																
1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった																																																														
2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった																																																														
3 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった																																																														
4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()																																																														
「ヒヤリハット」の内容 どのような作業で? 何をしようとしていた時? どうなったか?																																																																
発生原因と考えられるもの全てに○して下さい <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 設備・機械に問題があった</td> <td style="width: 50%;">5 連絡・連携ミスがあった</td> </tr> <tr> <td>2 工具・保護具に問題があった</td> <td>6 確認が不足していた</td> </tr> <tr> <td>3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった</td> <td>7 よく考えずに行動してしまった</td> </tr> <tr> <td>4 作業方法に問題があった</td> <td>8 考え事をしていた</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9 よく見えなかった</td> </tr> </table>				1 設備・機械に問題があった	5 連絡・連携ミスがあった	2 工具・保護具に問題があった	6 確認が不足していた	3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	7 よく考えずに行動してしまった	4 作業方法に問題があった	8 考え事をしていた		9 よく見えなかった																																																			
1 設備・機械に問題があった	5 連絡・連携ミスがあった																																																															
2 工具・保護具に問題があった	6 確認が不足していた																																																															
3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	7 よく考えずに行動してしまった																																																															
4 作業方法に問題があった	8 考え事をしていた																																																															
	9 よく見えなかった																																																															
「ヒヤリハット」がもし災害になっていたとしたら、どのレベルに該当しますか <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: left;">無休業災害</td> <td colspan="5"></td> <td style="text-align: right;">死亡災害</td> </tr> </table>					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無休業災害										死亡災害																																							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																							
無休業災害										死亡災害																																																						
「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)																																																																
以下、当てはまる番号に1つ○して下さい(各項目で選択肢が異なっているので、よく読んで回答してください)																																																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜背後要因＞</th> <th style="text-align: center;">そうだ</th> <th style="text-align: center;">まあそうだ</th> <th style="text-align: center;">ややちがう</th> <th style="text-align: center;">ちがう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常にたくさんの仕事をしなければならなかった</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>時間内に仕事が処理しきれなかった</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>一生懸命働かなければならなかった</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table>					＜背後要因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう	非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4	時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4	一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4																																								
＜背後要因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう																																																												
非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4																																																												
時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4																																																												
一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4																																																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜あなたの状態＞</th> <th style="text-align: center;">ほとんどなかった</th> <th style="text-align: center;">ときどきあった</th> <th style="text-align: center;">しばしばあった</th> <th style="text-align: center;">ほとんどいつもあった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひどく疲れた</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>へとへとだ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>だるい</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>気がはりつめている</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>不安だ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>落ち着かない</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>ゆううつだ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>何をやるのも面倒だ</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>気分が晴れない</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>食欲がない</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>よく眠れない</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table>					＜あなたの状態＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった	ひどく疲れた	1	2	3	4	へとへとだ	1	2	3	4	だるい	1	2	3	4	気がはりつめている	1	2	3	4	不安だ	1	2	3	4	落ち着かない	1	2	3	4	ゆううつだ	1	2	3	4	何をやるのも面倒だ	1	2	3	4	気分が晴れない	1	2	3	4	食欲がない	1	2	3	4	よく眠れない	1	2	3	4
＜あなたの状態＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった																																																												
ひどく疲れた	1	2	3	4																																																												
へとへとだ	1	2	3	4																																																												
だるい	1	2	3	4																																																												
気がはりつめている	1	2	3	4																																																												
不安だ	1	2	3	4																																																												
落ち着かない	1	2	3	4																																																												
ゆううつだ	1	2	3	4																																																												
何をやるのも面倒だ	1	2	3	4																																																												
気分が晴れない	1	2	3	4																																																												
食欲がない	1	2	3	4																																																												
よく眠れない	1	2	3	4																																																												

裏面にも記入してください

＜あなたの仕事について＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事できた	1	2	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	2	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	2	3	4

＜あなたの周りの方々について＞	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4

＜あなたの仕事について＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちがはつらつとしている	1	2	3	4
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	4
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	2	3	4

＜「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由＞	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にある
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	4
体力があった(運動神経がよかった)	1	2	3	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	4
何かが起こりそうな予感がした	1	2	3	4
周りに注意を払っていた	1	2	3	4
とっさの機転が利いた(知恵が働いた)	1	2	3	4
リーダーや仲間から声を掛けられた(とっさに注意された)	1	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	4
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	1	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	3	4

あなたの「ヒヤリハット」が事故・災害にならずに直前で回避できたのは、なぜですか？

＜例＞厚い石材をベビーサンダーで切断加工中、サンダーがはねて頭に当たりそうになったが、「サンダーははねて危ない」と親方から教えられていたこともあり、体を斜めに構えていたため、ケガをせずに済んだ。

No.1.
直前で回避
できた理由
自由記述欄を
追加

- ・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。
- ・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。
- ・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。
- ・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

氏名

連絡先

ご協力ありがとうございました。

No.	項目	Ver.1.3	Ver.1.4
1	直前で回避するの に役立つ 活動	4 件法	直前で回避できた理由を自由記述

3. 4 Ver.1.5

新ヒヤリハット報告 Ver1.5

ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。あなたが過去1年間に体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。

記入日： 年 月 日

職種：	経験年数：
年齢：	

「ヒヤリハット」したこと

いつ () 月 頃	どこで (この現場、他の現場)	どのような場所で ()	体験の状況図 (図は別紙記載でも可)
どのような体験か(当てはまるものに○してください)			
1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった	
2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった	
3 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった	
4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()	
「ヒヤリハット」の内容			
どのような作業で？			
何をしようとしていた時？			
どうなったか？			
発生原因(考えられるもの全てに○してください)			
1 設備・機械に問題があった			
2 工具・保護具に問題があった			
3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった			
4 作業方法に問題があった			
5 連絡・連携ミスがあった			
6 確認が不足していた			
7 よく考えずに行動してしまった			
8 考え事をしていた			
9 よく見えなかった			

「ヒヤリハット」がもし災害になっていたとしたら、どのレベルに該当しますか

←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
無休業災害											死亡災害

「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)

以下、当てはまる番号に1つ○してください(各項目で選択肢が異なっているので、よく読んで回答してください)

＜背後要因＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4
時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4
一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4

＜あなたの状態＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
ひどく疲れた	1	2	3	4
へとへとだ	1	2	3	4
だるい	1	2	3	4
気がはりつめている	1	2	3	4
不安だ	1	2	3	4
落ち着かない	1	2	3	4
ゆううつだ	1	2	3	4
何をするのも面倒だ	1	2	3	4
気分が晴れない	1	2	3	4
食欲がない	1	2	3	4
よく眠れない	1	2	3	4

裏面にも記入してください

＜あなたの仕事について＞	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事できた	1	2	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	2	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	2	3	4

＜あなたの周りの方々について＞	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	3	4
同僚	1	2	3	4

＜あなたの仕事について＞	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちちはづらつとしている	1	2	3	4
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	4
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	2	3	4

＜「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由＞	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にある
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	4
体力があった(運動神経がよかった)	1	2	3	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	4
何かが起こりそうな予感があった	1	2	3	4
周りに注意を払っていた	1	2	3	4
とっさの機転が利いた(知恵が働いた)	1	2	3	4
リーダーや仲間から声を掛けられた(とっさに注意された)	1	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	4
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	1	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	3	4

あなたの「ヒヤリハット」が事故・災害にならずに直前で回避できたのは、なぜですか

＜例＞厚い石材をベビーサンダーで切断加工中、サンダーがはねて頭に当たりそうになったが、「サンダーははねて危ない」と親方から教えられていたこともあり、体を斜めに構えていたため、ケガをせずに済んだ。

「ヒヤリハット」が事故や災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる活動についてうかがいます
(当てはまる番号に1つ○)

1 過去のヒヤリハット体験	11 危険体感教育	21 リーダーや仲間とのコミュニケーション
2 同僚や先輩の話	12 危険箇所の見える化	22 懇親会・レクリエーション
3 安全衛生教育での講話	13 安全標識の設置	23 体操
4 現場での朝礼、夕礼	14 4S(整理・整頓・清掃・清潔)	24 安全表彰
5 現地ミーティング	15 避難訓練	25 バランスのよい食事
6 日々のKY活動	16 作業状況の監視	26 悩みを相談
7 危険予知訓練	17 周囲の状況把握	27 よい睡眠
8 リスクアセスメント	18 人への目配り	28 くつろげる休憩時間と場所
9 災害事例の周知	19 機械設備の点検	
10 現場パトロール	20 作業手順書の周知	

ご協力ありがとうございました。

- ・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。
- ・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。
- ・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。
- ・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

氏名

連絡先

4. まとめ

令和元年度委員会においてとりまとめた新ヒヤリハット報告 Ver.1 から今年度検討した Ver.1.2 の段階で、新ヒヤリハット報告の趣旨を明確化し、体験の状況図を記載する欄を設け、より具体的にヒヤリハットした場面を記載できるような項目を設けた。さらに、発生原因、背後要因（仕事の量的負担、心理的反応、仕事のコントロール、職場の支援、ワーク・エンゲイジメント）の各項目を 4 件法によって把握することとし、事故・災害から回避するのに役立った現場での活動を問う項目を追加した。

その後、試行実施における現場での意見を踏まえ、質問項目の順序を回答者にとって答えやすいように入れ替るとともに、多くの報告を得られるよう現に従事している現場だけでなく他の現場で体験したヒヤリハットも回答できる文言に修正をして、Ver.1.3 を作成した。

Ver.1.3 では、ヒヤリハットが事故や災害に至らず直前で回避するのに役立ったと思われる 28 の活動を「全くない」～「非常にある」の 4 件法で回答を求める形式を採っていたが、試行実施により回答者の負担が大きいことが判明したことから、Ver.1.4 では、これに代えてヒヤリハットが事故・災害にならず直前で回避できた理由を自由記述で求めることとした。さらに、この Ver.1.4 については、委員会委員等の意見を聞いたうえで、Ver.1.2 から設定されていたヒヤリハットが事故や災害に至らず直前で回避するのに役立ったと思われる 28 の活動を単一で回答を求める項目を追加して、最終形である Ver.1.5 の新ヒヤリハット報告様式が完成した。

今後の課題としては、この報告様式をいかにして建設現場従事者へその趣旨を理解してもらい、従来のヒヤリハット報告がもつネガティブな印象を払拭して、多くの報告が収集できるか。また、その収集した回答結果を簡易に集計し、現場へわかりやすくフィードバックできるかである。

そのためには、単に報告様式を現場へ提示するだけでなく、この新ヒヤリハット報告の意義を簡易に伝えることのできる現場目線のマニュアルを整えとともに、回答結果を集計するツール等も作成する必要があるだろう。

第5章 今後の課題

本年度の委員会では、平成30年度、令和元年度の2年にわたり実施した「ヒヤリハット調査」及び令和2年度の「標準値改定」を目的とした無記名ストレスチェック調査を実施した。

この調査結果を踏まえ、従前行われてきた Safety I と、Safety I をさらに深めるため、ヒヤリハットの背後要因を掘り下げ、作業負荷、心身の状態、コミュニケーション等のヒューマンファクターに着目するとともに、刻々と変化する作業環境に対応するためにレジリエンス能力向上（Safety II）の視点を盛り込んだ「新ヒヤリハット報告」を開発した。

さらに、令和2年度の調査結果に基づき、職業性ストレス簡易調査票23項目にWEの3項目を加えた新帳票の作成を行った。

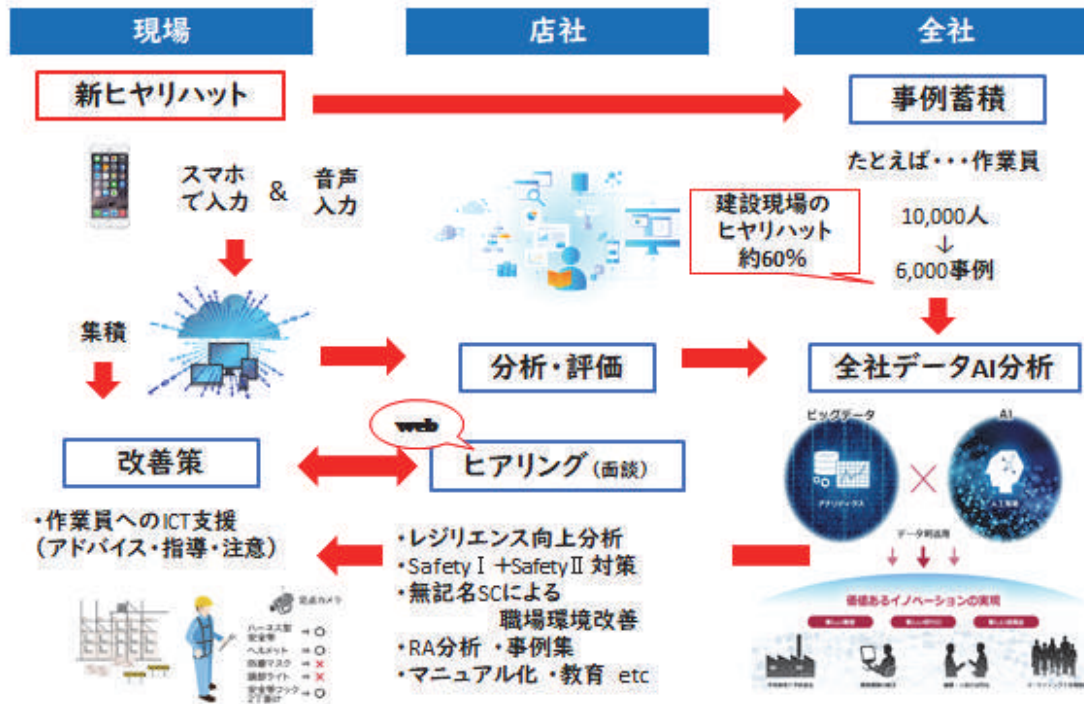
今後は「深化した Safety I +Safety II」の取組を促すことに加え、ニーズの大きい新ヒヤリハット報告のデジタル化を実現することで、これまで把握が困難であったリスク、ヒューマンファクター、レジリエンス等の要因に係る膨大なデータを取得できることになる。そして、この集積されるビックデータについてAI分析を行い、併せて既存の安全衛生情報のデジタル化を進めることによって、これまでの安全衛生管理手法とは次元の異なる安全性管理のDX（デジタルトランスフォーメーション）の方向性が窺がえるのではないかと推察する。

そこで、今後は「建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会」及び「ICTを活用した労働災害防止対策あり方に関する検討委員会」の合同会議を設置して、双方の専門家の英知を結集された会議としたい。

検討事項（案）は次のとおり。

- (1) これまでの検討結果の確認
 - ① 「建設業におけるメンタルヘルス対策に関する検討委員会」による検討成果
 - ② 「ICTを活用した労働災害防止対策に関する検討委員会」による検討成果
 - ③ 建災防方式「新ヒヤリハット報告」活用マニュアルの発刊
- (2) 求められるこれからの労働安全衛生対策
 - ① 建設業の労働災害発生状況の経緯と現状
 - ② 建設業の安全衛生を取り巻く状況
 - ③ これからの建設業の安全衛生対策の体系
- (3) 建設業における安全衛生管理のDXの方向性
 - ① 「新ヒヤリハット報告」のデジタル化
 - ② 既存の安全衛生関係情報のデジタル化
 - ③ 集積した「新ヒヤリハット報告」のAI分析
 - ④ ①から③を統合した安全衛生管理DXの方向性

新ヒヤリハット報告DX(イメージ)



卷 末 資 料

○建災防方式無記名ストレスチェックにおける標準値改定のための実態調査 調査票

表面

職業性ストレス簡易調査票
(簡易版23項目※1+WE 3項目)

実施日	
現場名	
所属会社名	

- A. あなたの仕事についてうかがいます。
最もあてはまるものに○を付けてください。
- | | そう
だ | まあ
そう
だ | やや
ちが
う | ちが
う |
|-------------------------------|---------|---------------|---------------|---------|
| ・ 非常にたくさんの仕事をしなければならない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 時間内に仕事が処理しきれない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 一生懸命働かなければならない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 自分のペースで仕事ができる----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 自分で仕事の順番・やり方を決めることができる----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
- B. 最近1か月間のあなたの状態についてうかがいます。
最もあてはまるものに○を付けてください。
- | | ほと
んか
つた | と
あ
き
ど
た
き | し
あ
ば
あ
し
た
ば | ほ
い
と
つ
ん
も
ど
あ
つ
た |
|----------------------------|----------------|----------------------------|---------------------------------|--|
| ・ ひどく疲れた----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ へとへとだ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ だるい----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 気がはりつめている----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 不安だ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 落ち着かない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ ゆうつだ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 何をするのも面倒だ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 気分が晴れない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 食欲がない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ よく眠れない----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 職場では、気持ちがはつらつとしている----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 自分の仕事に誇りを感じる----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 仕事に没頭しているとき、幸せだと感じる----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
- C. あなたの周りの方々にについてうかがいます。
最もあてはまるものに○を付けてください。
- | | 非
常
に | か
な
り | 多
少 | 全
く
な
い |
|--------------------------------------|-------------|-------------|--------|------------------|
| 次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか？ | | | | |
| ・ 上司----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 職場の同僚----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか？ | | | | |
| ・ 上司----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 職場の同僚----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらいきてくれますか？ | | | | |
| ・ 上司----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ・ 職場の同僚----- | 1 | 2 | 3 | 4 |

ご協力いただきありがとうございました。

※1 出典：「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル」，厚生労働省，平成27年5月

裏面

建設現場における新型コロナウイルスの影響に関するアンケート

建設業労働災害防止協会

以下の項目について、それぞれ最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

(1) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの仕事や働き方はどのくらい変化しましたか。

1	非常に大きく変化した	2	大きく変化した	3	やや変化した	4	あまり変化しなかった	5	全く変化しなかった
---	------------	---	---------	---	--------	---	------------	---	-----------

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの仕事や働き方はどのように変化しましたか。

1	悪化した	2	やや悪化した	3	変化しなかった	4	やや良くなった	5	良くなった
---	------	---	--------	---	---------	---	---------	---	-------

(3) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの心身の健康はどのくらい変化しましたか。

1	非常に大きく変化した	2	大きく変化した	3	やや変化した	4	あまり変化しなかった	5	全く変化しなかった
---	------------	---	---------	---	--------	---	------------	---	-----------

(4) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あなたの心身の健康はどのように変化しましたか。

1	悪化した	2	やや悪化した	3	変化しなかった	4	やや良くなった	5	良くなった
---	------	---	--------	---	---------	---	---------	---	-------

引用文献

- [illegible]

